Hokkaido University News

北大時報

令和5年
4
No. 829　April 2023

令和4年度学位記授与式の挙行
令和5年度入学式の挙行
令和4年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙行

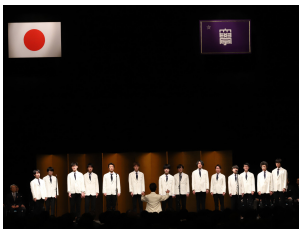
お知らせ

・令和5年度人間ドック・特定健康診査の実施について

No.829 令和5年

目 次

令和4年度学位記授与式の挙行


令和5年度入学式の挙行

全学ニュース

1 令和4年度学位記授与式の挙行
5 令和5年度入学式の挙行
8 「情報法政策学研究センター」を共同プロジェクト拠点として認定
9 令和4年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙行
11 名誉教授に50氏
12 令和4年度「北海道大学総長表彰」表彰式を挙行
13 令和4年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙行
14 令和5年度北海道大学の予算
16 大学院教育推進機構リカレント教育推進部がキックオフシンポジウム「学びの道は北へ、大海へ～北大が目指すべきリカレント教育とは～」を開催
17 令和4年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式を開催
18 新渡戸カレッジ修了式（大学院教育コース）を挙行
19 令和4年度北海道大学鈴木章記念賞 －自然科学実験－表彰式を挙行
19 令和4年度北海道大学大塚賞授与式を挙行
20 令和4年度北海道大学クラーク賞表彰式を挙行
21 令和4年度北大えるむ賞授与式を挙行
22 令和4年度「北海道大学企業研究セミナー」を開催
23 仏語圏西アフリカ（セネガル及びコートジボワール）での日本留学フェアの開催
24 サブサハラ・アフリカ地域向けに「大学院希望者向けオンライン日本留学フェア」を開催
25 「北海道プライムバイオコミュニティ推進会議」を開催
26 令和4年度第11回　定例記者会見を開催
27 北大フロンティア基金
30 第10回北海道大学オープンファシリティシンポジウム・オープンファシリティ施設見学会を開催
31 農学研究院・化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD）合同シンポジウムを開催
32 DX博士人材フェローシップ×産学・地域協働推進機構 北海道札幌西高等学校で探求学習の講義を実施
33 「DEMOLA HOKKAIDO 5th Anniversary Alumni Meeting」を開催
34 「スタートアップトークイベントHOKKAIDO INNOVATION HUNTER」を開催
35 北海道Society5.0みらい創造ワークショップ最終報告会を実施
36 G7気候・エネルギー・環境大臣会合プレイベント「ゼロカーボン社会に向けた大学と地域との連携　～地球温暖化の防止、生物多様性の確保などSDGsの推進に向けて～」を開催
37 「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ 札幌日大高校校にて4名の研究者が講義を実施
39 「研究者のためのスキルアップセミナー⑯　伝えたいことを3分プレゼンにまとめるコツ」を開催

部局ニュース

40 経済学院がベスト・チューター賞授与式を開催
41 令和4年度北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム修了式を開催
42 理学研究院等にて「スマート物質科学人材育成コンソーシアム特別セミナー」を開催
43 生命科学院博士後期課程科目「少人数討論型育成プログラム」（北大帝人ブレーンストーミングワークショップ）を実施
44 総合博物館で第15回「卒論ポスター発表会」を開催
46 医学部が令和4年度最終講義・退職記念式典を挙行
47 薬学研究院が「第15回薬学研究院研究発表会」を開催
48 令和4年度第2回農学研究院FD研修会を開催
49 国際広報メディア・観光学院にて留学生（研究生）説明会を実施
50 生物生産研究農場生産の鶏卵をホテルの朝食メニューに提供
51 脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第19期修了生に修了証書授与

お知らせ

52 令和5年度人間ドック・特定健康診査の実施について

博士学位記授与　54

表敬訪問　76

人事　77

85 新任役員紹介
86 役員等（再任）紹介
87 新任部局長等紹介
91 部局長等（再任）紹介
93 新任部課長等紹介
99 新任教授紹介

訃報

105 名誉教授　松本　脩三　氏
105 名誉教授　田頭　博昭　氏
106 名誉教授　佐藤　信夫　氏

資料

107 令和5年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ
108 令和5年度入学者の都道府県分布及び地域比率

令和4年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式を開催

仏語圏西アフリカ（セネガル及びコートジボワール）での日本留学フェアの開催

北海道Society5.0みらい創造ワークショップ最終報告会を実施

「DEMOLA HOKKAIDO 5th Anniversary Alumni Meeting」を開催

表　紙：令和5年度入学式の挙行（関連記事5頁に記載）
裏表紙：キャンパス風景㊲　化学反応創成研究拠点（北21条西10丁目）

▌全学ニュース

令和4年度学位記授与式の挙行

令和4年度学士学位記授与式

修了証書を受ける新渡戸カレッジ総代

札幌キャンパス会場の様子

令和4年度学士学位記授与式を3月23日（木）に、本学第一体育館において挙行しました。

学士学位記授与式は、感染症対策として、会場内の座席の間隔を確保するため、二部構成で挙行し、第一部では医学部・歯学部・薬学部・工学部・獣医学部の5学部を対象に、第二部では文学部・教育学部・法学部・経済学部・理学部・農学部の6学部及び現代日本学プログラム課程を対象としました。

学位記授与式では、来賓、役員、学部長の列席の下、水産学部を除く11学部及び現代日本学プログラム課程の卒業生2,330名（獣医学部共同獣医学課程のうち、帯広畜産大学が本籍の者を除く）を代表し、各学部の総代へ学部長から学士学位記が授与されました。また、新渡戸カレッジの修了者30名を代表し、総代へ修了証書が授与されました。

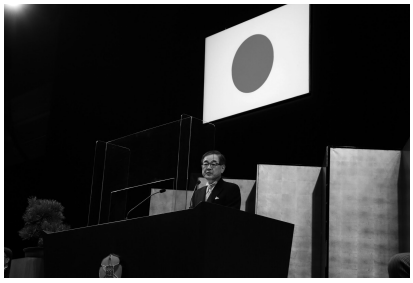
寳金清博総長は告辞の中で、卒業生に向けて、教員の一人として、講義を行い「私たちが生きるこの時代は、戦争があり、感染症があり、気候変動が私たちの地球そのものを脅かす多難な時代である」と述べ、「クラーク先生の『Be ambitious』の精神を胸に、学びを続け、挑戦を続け、勇気をもって、これから始まる新しい人生を堂々と歩んでください。」との言葉を贈りました。

続けて、北海道大学校友会エルム会長の杉江和男氏は祝辞の中で「リーダーとは、フォロワーが同じ価値に共鳴し一緒に行動してくれる人であり、誰でもリーダーになれる」と述べられ、卒業生へのはなむけの言葉として贈られました。

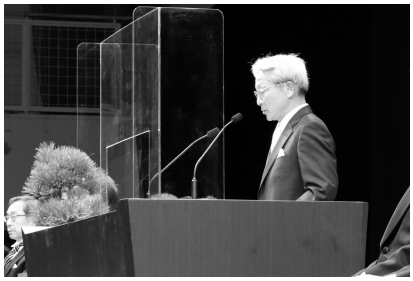
その後、北海道大学交響楽団と北海道大学合唱団による「都ぞ弥生」の演奏が行われ、交響楽団による「エルムの鐘」で華やかに式典が終了しました。これらの生演奏は、平成30年度以来の4年ぶりとなりました。

翌日3月24日（金）には、フォーポイントバイシェラトン函館において、水産学部の学位記授与式が挙行されました。

式典では、水産学部卒業生201名を代表し、各学科の総代へ、水産学部長から学士学位記が授与され、新渡戸カレッジの修了者には、山口淳二新渡戸カレッジ校長代理から修了証書が授与されました。



告辞を述べる寳金総長



祝辞を述べられる杉江会長

学位記を受ける総代（函館キャンパス）

令和4年度修士・専門職学位・博士学位記授与式

令和4年度修士・専門職学位・博士学位記授与式を、学士学位記授与式第一部の終了後に、第二体育館において挙行しました。

役員、研究科等の長の列席の下、水産科学院を除く16研究科等の修士課程修了者1,467名を代表し、各研究科等の総代へ修士学位記が、また、法科大学院（法学研究科法律実務専攻）修了者18名、経済学院会計情報専攻修了者15名及び公共政策学教育部公共政策学専攻修了者37名を代表し、各研究科等の総代へ専門職学位学位記が、各研究科等の長から授与されました。

引き続き、18研究科等の博士課程修了者304名、論文博士8名を代表し、各研究科等の総代へ、寳金総長から博士学位記が授与されました。

この後、寳金総長より告辞があり、最後に北海道大学交響楽団による「都ぞ弥生」の演奏で、式は締めくくられました。

翌日3月24日（金）には、フォーポイントバイシェラトン函館において、水産科学院の修士課程修了者106名を代表し、各専攻の総代へ水産科学院長から修士学位記が、また、博士課程修了者11名に対し、寳金総長から博士学位記が授与されました。

学部・研究科等別の卒業者数、修了者数及び論文博士授与者数は以下のとおりです。

博士学位記授与者については、本号54ページに掲載しています。

（学務部学務企画課）

学位記を受ける総代

交響楽団弦楽四重奏

函館キャンパス会場の様子

学部別卒業者数一覧

学部名	卒業者
文学部	177
教育学部	58
法学部	195
経済学部	197
理学部	317
医学部	302
歯学部	58
薬学部	76
工学部	686
農学部	208
獣医学部	（86）41
水産学部	201
現代日本学プログラム課程	15
計	（2,576）2,531

括弧書きの数字は本学及び帯広畜産大学の合計数

研究科等別大学院修士課程・専門職学位課程修了者数一覧

研究科等名	修了者	研究科・教育部・専攻名	修了者
法学研究科	9	法科大学院（法学研究科法律実務専攻）	18
水産科学院	106	経済学院会計情報専攻	15
環境科学院	143	公共政策学教育部公共政策学専攻	37
理学院	100		
農学院	167		
生命科学院	104		
教育学院	36		
国際広報メディア・観光学院	36		
保健科学院	50		
工学院	（352）339		
総合化学院	158		
経済学院	28		
医学院	19		
医理工学院	9		
国際食資源学院	16		
文学院・文学研究科	78		
情報科学院・情報科学研究科	175		
計	（1,586）1,573	計	70

括弧書きの数字は本学及び九州大学の合計数

研究科等別大学院博士課程修了者及び論文博士数一覧

研究科等名	課程博士	論文博士
法学研究科	1	
水産科学院	11	
環境科学院	13	3
理学院	19	1
農学院	16	1
生命科学院	23	1
教育学院	10	
国際広報メディア・観光学院	1	
保健科学院	5	
工学院	42	

研究科等名	課程博士	論文博士
総合化学院	43	
経済学院	1	
医学院・医学研究科	52	1
歯学院・歯学研究科	26	
獣医学院・獣医学研究科	8	
医理工学院	1	
国際感染症学院	8	1
国際食資源学院	0	
文学院・文学研究科	9	
情報科学院・情報科学研究科	26	
計	315	8

総長告辞

学士学位記授与式

北海道大学総長　寶金　清博

本日、本学を卒業される2,531名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。北海道大学を代表して、心よりお祝い申し上げます。また、慣れない環境、異国の地で、本学を卒業された留学生の皆さんに対して、重ねて、お祝い申し上げます。

また、皆さんを支えてこられたご家族、関係者の皆さまに対しても、心より祝意をお伝えしたいと思います。さらに、この間、本学へのご支援をいただいた方々には、この場を借りて、深く御礼申し上げます。

私は皆さんに学位記をお渡しする教員の代表です。本来は、その教員の一人として、皆さんに、講義を行いたいと思っていました。

そこで、本日は、一教員として、最初で最後の短い講義となりますが、四つのメッセージをお伝えします。

まず、最初の話です。少し私自身の大学生活の話をお伝えしようと思います。高校生の頃、大学に進学するとすれば、地元の国立大学の選択以外はないと考えていました。人生には、様々な可能性や選択肢があるように見えますが、実際には、自分の思うようになることは少ないものです。誰もが、あらゆる選択の機会に恵まれているわけではありません。

しかし、私のその時の選択、北海道大学を選んだ選択は、私の人生における最善の選択の一つになったと思います。その理由は二つあります。

まず、私は入学後、素晴らしい授業を受けることができました。数学、物理学、生物学、哲学、英文学、社会思想史、中国思想史など、全ての科目でとても良い授業を受けることができました。当時の授業料は非常に安く、それでいて高いクオリティの授業を地元で受けることができたのです。

これと全く逆の経験をアップル社の創始者のSteve Jobsが、語っています。彼は、苦労して高い授業料の大学に入学するのですが、その授業の内容が、彼の望むものからは程遠いことを知り、半年で大学に通うことを止め、二度と、大学に戻ることはありませんでした。私のケースは、その全く逆でした。

そしてもう一つの理由は、北大に入学することで、実に多くの仲間を得ることができ、自分の世界が大きく広がったことです。北海道外から来る実に多様な同級生や留学生との出会いは私の人生を彩り豊かなものにしました。また、私は体育会系のクラブに所属しましたので、そこで出会う先輩、後輩あるいは他大学の競技者などと密度の高い交流を得ることができました。このように、多様な仲間の集まる大学は、北海道大学以外には考えられません。

その多様性に関して言えば、北海道大学には特別な歴史があります。私たちの札幌キャンパスには、アイヌ語でサクシュコトニ川と呼ばれている川が流れています。皆さんも、一度は、その川のそばを散策されたことがあると思います。このほか、セロンベツ川と呼ばれた川も流れていましたが、これらの川の周辺には、明治初期にはアイヌのコタン、通称コトニ・コタンと言う集落がありました。私たちの大学は、そうしたアイヌの人々が生活の場としていた場所に教育・研究の場として、今も存在しています。言い換えれば、北海道大学は、アイヌの人々が長い歴史を重ねてきた豊かな土地にあると言うことです。

北海道大学は、一昨年の12月、Diversity and Inclusion宣言を出しました。こうした大学の歴史を考えると、私たちは、自分たちがいる場所・土地に敬意を払わなければなりません。北海道大学は、他の教育機関の模範となり、多様性や包摂性に対する深い理解を深める場でありたいと願っています。

こうした多様性を有する北海道大学を選択し、今日の卒業式を迎える皆さんは、間違いなく、最良の選択をされたと思います。

2番目はお詫びです。4年前、あるいは6年前の皆さんの入学時、私たちが約束した修学環境を、このコロナ禍で、提供することができませんでした。本当に不運なことに、皆さんの在学期間のほとんどがCOVID19によるパンデミックの期間と重なってしまいました。結果として世界中の大学と同様ですが、北海道大学においても、対面の授業や実習、あるいは本来あるべき教員と学生の対面の議論あるいはcreativeでinteractiveな授業が充分にできませんでした。この苦難の3年余りを大学で共に過ごし、皆さんの辛い日常を見続けた者として、言葉にできない辛さがあります。

このコロナ禍が、この時期に高等教育を受けた皆さんの今後にどのような影響を及ぼすかは、未知の問題でもあります。対面によるコミュニケーションの減少が、教育に影響を与えたのではないかと危惧する意見が存在します。

しかし、別の視点も考えるべきだと思います。私の専門は、医学・生物学の領域です。人間も含め、生物は、過酷な条件のもとに置かれた時に、それに順応する遺伝子を発現し、生存を図ります。皆さんも、このコロナ禍の中で、デジタル化された学びやオンラインによる遠隔地との瞬時

の接続などに対する順応力など、平穏な時代には得られなかった力強い能力を獲得したと思います。

3番目は、これが、今日の私の講義で最も重要なメッセージかもしれません。それは、皆さんには「学び」を続けてほしいということです。私は現在68歳です。私に残されている学びの時間は、どう考えても、皆さんよりは短いものです。それでも、私はまだまだ学び続けようと思っています。毎日、1時間程度、自分のための勉強を続けています。

卒業生の皆さんの今後には、二つの人生の選択が待っていると思います。一つは、世界・社会を変える人生、もう一つは、変わってゆく世界に翻弄される人生です。

この二つの人生の差が、どこから生まれるのか明らかです。世界を少しでも良い方向に変える人は、常に学び続け、チャレンジし続ける人です。逆に、大学を卒業した瞬間に能動的な学びを忘れ、チャレンジを放棄した人は、世界の変化に翻弄され続けることになります。

そして、重要なことは、この学びとチャレンジのために私たちに与えられた時間が、驚くほど短いことです。もう少し正確に言えば、私たちの寿命は、生物学的に言えば、決して短くはないと思います。しかし、何事かを成し遂げようと思えば、それは、決して十分な長さではないというべきかもしれません。

私は、24歳の頃、今の皆さんと同じようにこの大学を卒業した時、年齢を重ねることで、悩みや些末な感情から解放され、自分自身が成長すると信じていました。しかし、事実は逆でした。歳月はあっと言う間に過ぎ、年齢を経るほど、悩みは増え続けました。

よく知られていますが、葛飾北斎が、あの驚くべき富嶽三十六景の神奈川沖浪裏（かながわおきなみうら）を描いたのは、彼が70歳前後の頃と言われています。そして、彼は享年90歳でこの世を去りますが、死の床で、「自分にもう5年の寿命があれば、真の絵師になれたのに」というような悔恨の言葉を残しています。

朱子は「少年老い易く学なり難し」と述べたといわれています。また、孔子は「朝に道を聞かば夕べに死すとも可なり」という言葉を残しています。あるいは、Steve Jobsが言った「Stay hungry, Stay foolish」。解釈は様々ありますが、これらは、全て、学びに対して飽くなきspiritを持ち、チャレンジを極めた先人たちがそれぞれの体験を自分の言葉で言い換えたものだと思っています。

今日の私の講義の4番目、最後のテーマは、北海道大学の初代教頭である、William S. Clark先生のことです。3番目のメッセージで、私は、人生は、常に学び続け、チャレンジし続けるものであるべきとお話しました。その意味で、私たちの最大のロールモデルは、間違いなく、クラーク先生です。開学から150年になろうとする今でも、北海道大学における最高の教員は、クラーク先生をおいて他にはいないと思います。

クラーク先生は、今から約150年前に、アメリカ東海岸、ボストンに近い、マサチューセッツ農科大学の学長という高い地位にいました。彼は、それ以前にアマースト大学の教授であった頃、北軍に従軍し、南北戦争に参戦しています。そして、1876年、彼は、明治政府の依頼を引き受け、大陸を横断し、命がけで太平洋を越え、東京で英語を学んだ学生13名と共に、荒涼たる札幌にやってきます。当時の人口は正確には分かりませんが僅か二千人程度であったと推定されます。新島　襄との出会いの影響もあったと言われていますが、クラーク先生のこの選択は、どう考えても、凡人の想像を超える挑戦であったと思います。

札幌農学校の礎を築くというミッションを成し遂げると、彼は、「Boys, be ambitious, like this old man!」という、実にシンプルで、心に突き刺さるメッセージを残して、札幌を去ります。その後、帰国したクラーク先生は、事業を起こしますが、不運も重なり、不遇のうちに、59才で、生涯を終えたとされています。

これらの事実は、彼の人生が、生涯を通じて、チャレンジそのものであったことを意味します。クラーク先生の生涯は、学術や教育に留まらず、今の言葉で言えば、アントレプレナーシップ、スタートアップを通して、世界・社会を変えようとし続けた果敢で、彼自身の言葉通りambitionに満ちた人生でした。

皆さん、今日の卒業式の終了後、是非、もう一度、中央ローンにある日本で最も良く知られている胸像であるクラーク像に立ち寄ってください。そして、彼の挑戦に満ちたambitiousな人生へ思いを巡らせてみてください。

私の短い講義を聞いていただき、ありがとうございます。最後に、私たちが生きるこの時代は、戦争があり、感染症があり、気候変動が私たちの地球そのものを脅かす多難な時代です。しかし、皆さんは、私たちの最高のロールモデルであるクラーク先生の「Be ambitious」の精神を胸に、学びを続け、挑戦を続け、勇気をもって、これから始まる新しい人生を堂々と歩んでください。

卒業生の皆さんのご健康とご活躍を心から祈念して、私の結びの言葉といたします。

令和5年度入学式の挙行

令和5年度の入学式を、4月6日（木）に札幌コンベンションセンターにおいて執り行いました。

入学式は、新型コロナウイルス感染症対策のため、午前と午後の2回に分けて行いました。

式は、来賓の杉江和男校友会エルム会長、役員、副学長及び学部長の列席の下、新渡戸カレッジフェローの森　順子さんが司会を務め、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏により開始され、寳金清博総長から新入生に対し告辞が述べられました。

総長は告辞の中で、「私たち北海道大学の現在」という観点から、過去＝北海道大学の歴史、未来＝目指す方向、現在＝私たちが直面している世界的な危機について述べられ、新入生の皆さんに北海道大学の研究力をスケールアップし、日本の研究力を再生させて、世界の先頭集団への返り咲きを果たす原動力となるように、学んで欲しいと激励しました。

続いて、初代教頭のWilliam S. Clark先生の生涯が、いかにチャレンジングなものであったかについて述べ、クラーク先生の「Be Ambitious!」という名言は、単に学生に向けた「はなむけ」の言葉ではなく、先生自身が、人生を通して実践し続けた魂の言葉であり、北海道大学は、クラーク先生の「Be Ambitious」の精神を150年脈々と受け継いできた大学であると述べられました。

総長告辞に続いて、2,546名の入学者を代表して横山佳奈さん（午前の部）及び船橋河輝さん（午後の部）による入学者宣誓が行われました。

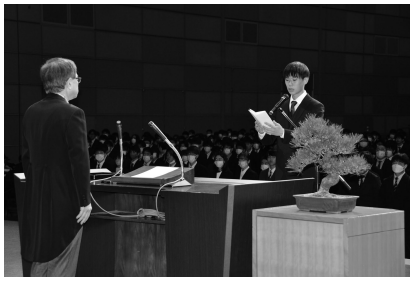
その後、来賓、本学理事、監事、副学長及び学部長の紹介が行われ、北海道大学交響楽団と北海道大学合唱団による「都ぞ弥生」の演奏及び合唱、北海道大学応援団による「永遠の幸」の演舞が行われ、式は終了しました。

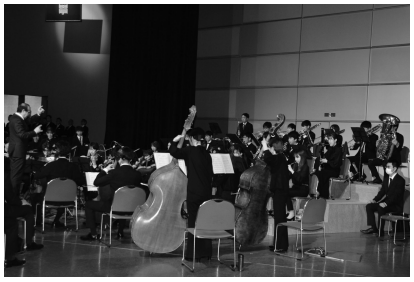
入学式終了後には、山口淳二理事・副学長から「北大生活を送るにあたっての心構え」と題して、本学の概要や教育方針、学生支援の仕組みなどについての講演が行われました。続いて、ダイバーシティ・インクルージョン推進本部副本部長の矢野理香副理事から、「北海道大学からのダイバーシティ＆インクルージョンメッセージ」と題した講演が行われ、全ての行事が無事に終わりました。

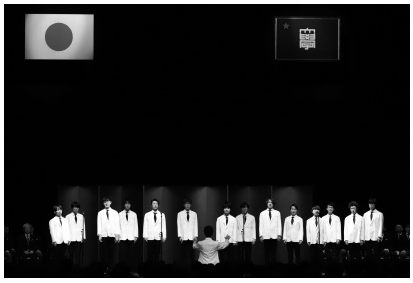
（学務部学務企画課）

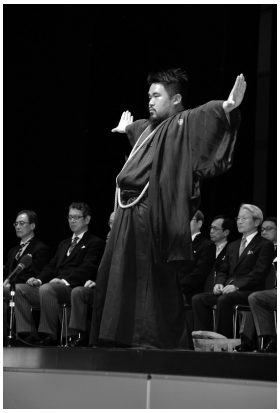
告辞を述べる寳金総長

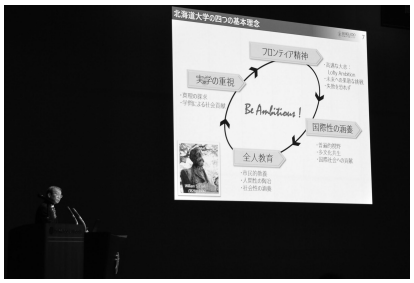
総代による入学者宣誓（横山さん）


総代による入学者宣誓（船橋さん）

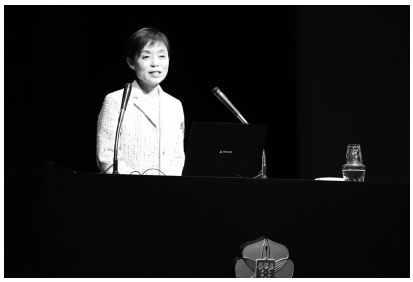

北海道大学交響楽団による演奏


北海道大学合唱団による合唱


北海道大学応援団による演舞



山口理事・副学長によるガイダンス


矢野副理事による講演

総長告辞

令和5年度入学式

北海道大学総長　寶金　清博

新入生、2,546人の皆さん、本日は、北海道大学ご入学、おめでとうございます。

北海道大学の全ての役職員、在学生を代表して、皆さんのご入学を心からお祝い申し上げます。また、本日は、新型コロナウイルス感染症に配慮し、ご家族、関係者のご参加を制限させていただきましたが、多くの方にご出席いただきました。皆様にも、心からお祝い申し上げます。

今日の入学式では、「私たち北海道大学の現在」という観点から、皆さんに三つのことをお伝えしたいと思います。

まず、第一に北海道大学の歴史についてです。

私たちの目線は、当然のことながら、ほとんど未来に向かっています。私たちのビジョンは、未来を向くのは自然で、とても健全なことです。だからこそ、こうした入学式などの節目には、私たちの現在地を、過去から振り返って考える必要があります。

今から150年ほど前の1876年、明治9年に、欧米の大学に匹敵する高等教育機関を目指して、明治政府により「札幌農学校」が設立されました。北海道大学の前身はこの「札幌農学校」で、日本で最も早く設立された高等教育機関のひとつです。

札幌農学校では、米国流のリベラルアーツ教育が行われました。「リベラルアーツ」とは、分かりやすく言えば、「幅広い一般教養」のことです。設立当初の札幌農学校において、リベラルアーツ教育を大学教育の原点に置き、農学だけではなく、数学、化学、生物学から歴史学、経済学に至るまで多様な基礎教育が全て英語により実施されていたことは、本当に驚くべきことです。今日（こんにち）においても、極めて先進的なことです。

以来、北海道大学は、リベラルアーツ教育を通して、四つの基本理念を培ってきました。すなわち、未踏の学問領域を探求する「フロンティア精神」、国際人としての素養を身に付け、多様性を尊重する「国際性の涵養」、人間形成の基盤を培う「全人教育」、そして、得られた成果を社会に還元する「実学の重視」です。

創立された明治9年当初、キャンパスの中心は、現在の札幌市時計台周辺にあり、明治36年、約120年前から現在の位置に置かれています。

北海道大学札幌キャンパスは、日本でも有数の多様性とスケールを誇り、春夏秋冬の美しさ、観光地としての魅力においても、日本でも類を見ない素晴らしい大学キャンパスのひとつです。また、この地は、北海道大学が設置される以前は、アイヌの方々が暮らす集落があり、日々の生活の糧を得ていました。水や緑などに恵まれ、とても豊かな土地で、おそらく、アイヌの方々にとっても、非常に豊かな暮らしの場であったことでしょう。この地に学ぶ私たちは、こうした歴史を忘れてはならないと思います。

幸い、私たちは、海外の大学関係者と接する機会があります。その中には、世界の先頭を走る大学もあり、同様の歴史をしっかり教育し、後世に繋ぎ、多様な価値観や多彩な文化として大切にしています。私たち北海道大学もそうした大学のひとつでありたいと思っています。

北海道大学の歴史に関係して、今日は、この後、北大応援団の演舞が行われます。北大応援団は、100年超の歴史をもつ応援団であり、いわゆる旧七帝国大学の応援団でも特に長い歴史と異色の伝統を誇っています。コロナ禍のため、ここ数年、活躍の場を失っておりましたので、実に久しぶりの登場です。

応援団というと、古い時代の時代遅れの遺物と思われる方も多いかもしれません。しかし、それは違うと思います。

その外見は「弊衣破帽（へいいはぼう）」と言われ、いわゆる流行に左右されない生き方を体現していますが、それ以上に真っすぐで権威に負けない、まさに今の私たちに求められる生き方を表しています。また、応援は、何の役にも立たないと思われるかもしれません。しかし、自分たちの仲間だけではなく、精一杯生き抜こうとする全ての人々への公平無私のエールが「応援」の本質です。是非、この後、新入生の皆さんへのエールと「応援」の精神を御覧ください。

二番目は、未来の話です。北海道大学の目指す方向です。

北海道大学は、6年ごとに目標と計画を決めて、社会に示しています。令和4年4月から6年間の中期目標・中期計画を、昨年、定めて公表しました。その中で北海道大学は、独自の目標として、世界の課題解決、SDGs達成への貢献を社会に約束しています。SDGsやゼロカーボンは、世界の多くの国や組織が目標に掲げています。しかし、本学は、150年に近い歴史の中で、創立以来、キャンパスや研究林等の広大な敷地をはじめとする環境保全、そして、飢餓・食料問題を解決する食資源、海洋研究、健康的な生活を確保し、福祉を推進するヘルスサイエンス研究、

DiversityなどSDGsの多くのテーマを目標にしてきました。SDGsは、本学が本来有している理念を言い換えたもので、北海道大学150年の遺伝子、DNAそのものです。

さらに、研究力を格段に向上させ、その研究成果を世界と地域の課題解決に向けて社会実装させることを目標にしています。今、日本の科学研究力は、世界の先頭集団から大きく離されつつあります。確かに、21世紀だけ見ると、ノーベル賞受賞者の数において、日本には19名の受賞者がいます。北海道大学を見ても、名誉教授の鈴木　章先生や、特任教授のベンジャミン・リスト先生がいらっしゃいます。しかし、日本のノーベル賞受賞者のほとんどは、1960年代から1990年代の仕事が評価されたものです。ノーベル賞だけではなく、今後、世界から注目され、世界の課題解決に資する先端的な研究者が激減する危惧があります。

これに対して、私たち、北海道大学は、日本を代表する研究大学として、世界最先端研究を進めるために新しいビジョンの実現に向けて、多様な取り組みをしています。まさに、皆さんの年代の方々が、北海道大学の研究力をスケールアップし、そのことで、日本の研究力を再生させて、世界の先頭集団への返り咲きを果たす原動力となるように、学んで欲しいと思います。皆さんの中から、何人もの世界的な研究者が当たり前に生まれてくることこそが、日本の科学研究力のルネサンスをもたらします。北海道大学はその責任と実力を持った大学です。

三番目は、言うまでもなく、今私たちが直面している世界的な三つの危機のことです。

一つは、私たちが予想もしていなかった新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大が、3年以上の長期にわたった危機。二つ目は、ウクライナの戦火に象徴される世界の平和的秩序への脅威であり、世界の平和維持のための秩序や枠組みの危機。三つ目は、産業革命以降の人類の膨大な生産活動がもたらした地球温暖化などの気候変動により、地球上の命そのものが脅かされている危機、この三つの危機です。

この三つに共通することは、全て、人間が引き起こした危機であることです。そして、北海道大学は、この三つの危機を克服するために、できることがあるということです。第一に、北海道大学は、コロナをはじめとする新しい感染症と戦うための日本のヘルスサイエンス研究の中心拠点の一つとして、総合大学の強みを発揮しています。第二に、本学は、全ての教育・研究の領域で、平和とそれに基づく世界の繁栄を追求してきました。特に、北海道大学はロシアに最も近い総合研究大学であり、スラブ・ユーラシア等の地域研究を通じて、世界の安定した平和の秩序を追い求めてきました。第三に、本学は、この自然に恵まれたキャンパスをサステイナブルなものとする歴史を持ち、エネルギー・地球環境研究に関する総合科学を発展させてきました。

北海道大学は、世界に何千とある大学の中のたった一つの大学です。しかし、私たちには、人間が引き起こしたこれらの地球的な危機に対しても何かしらできることがあります。人間が引き起こしたことは、人間が解決できないはずがありません。

以上、北海道大学の三つの現在地についてお話しました。

最後に、入学式で、どうしてもお話したいことがあります。それは、初代教頭のWilliam S. Clark先生のことです。教頭という役職は、二番目の責任者と思われがちですが、当時の制度では、クラーク先生は、実質的に札幌農学校の責任者であり、初代の本学の学長といえます。

クラーク先生は、今から約150年前に、アメリカ東海岸、マサチューセッツ州ボストンに近い、マサチューセッツ農科大学の学長という重要な地位にいました。しかし、彼は、明治政府の依頼を受け、アメリカ大陸を横断し、西海岸から命がけで太平洋を越え、1876年に、東京で英語を学んだ学生13名と共に、札幌にやってきます。当時の札幌の人口は正確には分かりませんが二千人程度であったと推定されます。どう考えても、大変な、というより、無謀なチャレンジのように思えます。

札幌農学校の礎を築くという大事業を成し遂げると、彼は、「Boys, be ambitious, like this old man!」という、実にシンプルで心に突き刺さるメッセージを残して、一陣の風のごとく、日本を去ります。その後、帰国したクラーク先生は、ご自身で事業を起こしますが、不運も重なり、不遇のうちに、生涯を終えたと記録されています。

これは、彼の人生が、チャレンジそのものであったことを意味します。クラーク先生の生涯は、学術や教育に留まらず、今の言葉で言えば、アントレプレナーシップ、スタートアップを通して、世界・社会を変えようとし続けた実に果敢な人生でした。

クラーク先生の「Be Ambitious!」という名言は、単に学生に向けた「はなむけ」の言葉ではなく、先生自身が、人生を通して実践し続けた魂の言葉なのです。

皆さん、今日の入学式が終わって、時間があれば、是非、中央ローンにある日本でも最も知られている胸像の一つであるクラーク像の前で、彼の挑戦に満ちた人生へ思いを巡らせてください。

北海道大学は、クラーク先生の「Be Ambitious」の精神を150年脈々と受け継いできた大学です。皆様方も、この素晴らしい北海道大学への入学、おめでとうございます。

以上をもちまして、私から新入生の皆さんへの告辞といたします。

「情報法政策学研究センター」を共同プロジェクト拠点として認定

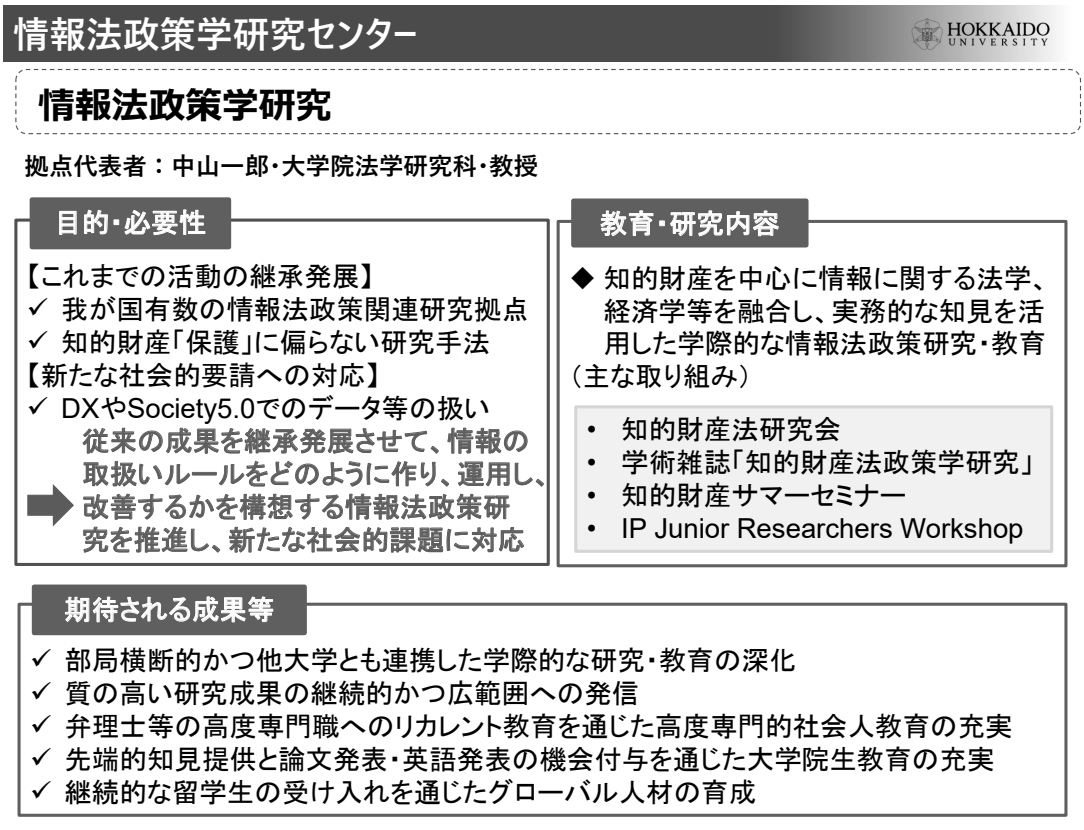
本学では、学内組織にとらわれず、社会のニーズに沿って、高度な教育プログラムの開発や複数の学問分野にまたがった優れた教育や研究を行うプロジェクトのうち、本学の教育研究の充実に特に資すると認められるものを、「共同プロジェクト拠点」として認定しています。拠点として認定することにより、その活動が学内外から見えやすくなり、教育研究活動の更なる発展が期待されます。

この度、4月1日付けで、「情報法政策学研究センター」を、共同プロジェクト拠点として再認定しました。この拠点では、拠点を構成する法学、経済学、農学等の教員が有する専門的知見を活用し、DXの推進、Society5.0への対応など、「情報」の重要性が高まる現代社会において一層重要性を増す知的財産を中心に学際的な情報法政策学研究を推進するとともに、その成果を、大学院教育はもとより、実務家を中心とする社会人へのリカレント教育としても社会に還元していく予定です。

なお、現在、本学が認定している共同プロジェクト拠点は以下のとおりです。

（総務企画部企画課）

プロジェクト拠点名	代表者	認定期間	拠点の活動テーマ
情報法政策学研究センター	法学研究科 中山　一郎	R5.4～R10.3 **【再認定】**	情報法政策学研究
量子トポロジー理工学教育研究センター	工学研究院 丹田　聡	R2.4～R7.3	トポロジー理工学
One Healthリサーチセンター	人獣共通感染症国際共同研究所 澤　洋文	R3.3～R7.3	多様な人材が、組織・研究室・部門の壁を越えてOne Healthを共通目標に集い協働するプラットフォームの構築
産学融合ライフイノベーションセンター	薬学研究院 前仲　勝実	R4.4～R9.3	連続的に医薬品候補を創出する創薬拠点形成
北海道ワイン教育研究センター	農学研究院 曾根　輝雄	R4.4～R9.3	北海道のワイン産業を持続的に発展させるための教育研究
認知症研究拠点	医学研究院 矢部　一郎	R4.4～R9.3	持続可能社会の実現に向けた世界トップレベルの認知症関連研究の推進と社会実装



産学融合ライフイノベーションセンターの概要

令和4年度「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式を挙行

表彰状を受ける被表彰者

寳金総長による挨拶

3月31日（金）、学術交流会館において、令和5年3月31日をもって定年、または15年以上在職し退職された103氏に対する「北海道大学永年勤続者表彰」表彰式が執り行われました。

関係者列席のもと、被表彰者の代表として、スラブ・ユーラシア研究センター 教授 田畑伸一郎氏に、寳金清博総長から賞状及び記念品が授与された後、寳金総長から被表彰者の本学に対する永年にわたる精励と努力に対し、深い敬意と感謝の意が表せられました。

なお、このたび表彰を受けられた方々は、以下のとおりです。

（総務企画部人事課厚生労務室）

永年勤続者表彰（退職時）被表彰者

所属	氏名
事務局	髙野 雅広
学務部	菅田 勝美
〃	宮家 康浩
施設部	成田 芳道
〃	佐々木 重晴
〃	髙橋 尚志
附属図書館	岩田 慈子
国際連携機構	川野辺 創
法学研究科	権左 武志
〃	山下 竜一
水産科学研究院	川合 祐史
〃	木村 暢夫
〃	西村 欣也
〃	前川 和義
地球環境科学研究院	大原 雅
理学研究院	石川 剛郎
〃	岩崎 克則
〃	栄 伸一郎
〃	谷岡 勇市郎
〃	野嵜 龍介
〃	水波 誠
〃	松本 健司

所属	氏名
理学・生命科学事務部	金川 眞行
理学・生命科学事務部事務課	三浦 征則
薬学研究院	周東 智
薬学事務部	藤井 恵美子
農学研究院	石黒 宗秀
〃	柿澤 宏昭
〃	近藤 則夫
〃	澁谷 正人
先端生命科学研究院	綾部 時芳
教育学研究院	松本 伊智朗
〃	宮崎 隆志
メディア・コミュニケーション研究院	河合 靖
〃	鈴木 志のぶ
〃	鈴木 純一
〃	土永 孝
工学研究院	折原 宏
〃	蟹江 俊仁
〃	清水 康行
〃	中村 孝
〃	林 基哉
〃	松井 佳彦
〃	大井 俊彦

所属	氏名
工学系事務部	佐々木　博之
工学系事務部情報科学研究院事務課	紙丸　雅実
医学研究院	渡辺　雅彦
〃	児矢野　英典
医学系事務部保健科学研究院事務課	小笠原　さおり
歯学研究院	井上　哲
〃	佐野　英彦
〃	菅谷　勉
〃	兼平　孝
〃	吉原　俊博
〃	詫間　滋
文学研究院	小杉　康
〃	佐々木　啓
〃	佐々木　亨
〃	砂田　徹
〃	冨田　康之
〃	鈴木　幸人
〃	立澤　史郎
文学事務部	柏原　麻美
情報科学研究院	小野　哲雄
〃	金井　理
〃	坂本　雄児
〃	有田　正志
〃	工藤　信樹
北海道大学病院	長　和俊
〃	加賀　基知三
〃	瀧田　恒一
〃	田中　亨
〃	山本　隆昭
〃	藤田　勝久

所属	氏名
北海道大学病院	石田　香代子
〃	本間　陽子
〃	大平　昌子
〃	永井　英子
〃	前田　香奈
〃	吉田　言子
〃	佐藤　絵美
〃	千葉　信枝
〃	西川　めぐみ
〃	藤澤　真一
〃	女池　昭子
〃	中山　絵里
〃	千葉　健
北海道大学病院事務部	中村　澄人
低温科学研究所	曽根　敏雄
〃	伊藤　美香
〃	阿部　裕幸
電子科学研究所	中村　貴義
〃	西井　準治
北キャンパス合同事務部	中田　雄二
遺伝子病制御研究所	北村　秀光
スラブ・ユーラシア研究センター	田畑　伸一郎
情報基盤センター	大宮　学
北方生物圏フィールド科学センター	柴田　英昭
〃	冨士田　裕子
〃	山羽　悦郎
〃	藤戸　永志
〃	岡内　鋭
保健センター	橋野　聡

名誉教授に50氏

本学名誉教授称号授与規程に基づき、3月15日（水）開催の教育研究評議会において、次の50氏に対し名誉教授の称号を授与することを決定し、本年4月から新たに名誉教授となられる方々には、決定通知が送付されました。

なお、称号授与式は、6月6日（火）を予定しています。

（総務企画部人事課厚生労務室）

北海道大学名誉教授

川野辺　創	（元国際連携機構教授）
権左武志	（元大学院法学研究科教授）
山下竜一	（元大学院法学研究科教授）
川合祐史	（元大学院水産科学研究院教授）
木村暢夫	（元大学院水産科学研究院教授）
大原　雅	（元大学院地球環境科学研究院教授）
石川剛郎	（元大学院理学研究院教授）
栄　伸一郎	（元大学院理学研究院教授）
加藤敦之	（元大学院理学研究院教授）
谷岡勇市郎	（元大学院理学研究院教授）
野嵜龍介	（元大学院理学研究院教授）
水波　誠	（元大学院理学研究院教授）
蓬田　清	（元大学院理学研究院教授）
周東　智	（元大学院薬学研究院教授）
石黒宗秀	（元大学院農学研究院教授）
柿澤宏昭	（元大学院農学研究院教授）
近藤則夫	（元大学院農学研究院教授）
綾部時芳	（元大学院先端生命科学研究院教授）
幸田敏明	（元大学院先端生命科学研究院教授）
松本伊智朗	（元大学院教育学研究院教授）
宮崎隆志	（元大学院教育学研究院教授）
河合　靖	（元大学院メディア・コミュニケーション研究院教授）
鈴木志のぶ	（元大学院メディア・コミュニケーション研究院教授）
鈴木純一	（元大学院メディア・コミュニケーション研究院教授）
折原　宏	（元大学院工学研究院教授）
蟹江俊仁	（元大学院工学研究院教授）
清水康行	（元大学院工学研究院教授）
中村　孝	（元大学院工学研究院教授）
松井佳彦	（元大学院工学研究院教授）
大野由夏	（元大学院経済学研究院教授）
谷口勇仁	（元大学院経済学研究院教授）
松尾　睦	（元大学院経済学研究院教授）
渡辺雅彦	（元大学院医学研究院教授）
井上　哲	（元大学院歯学研究院教授）
佐野英彦	（元大学院歯学研究院教授）
小杉　康	（元大学院文学研究院教授）
佐々木　啓	（元大学院文学研究院教授）
佐々木　亨	（元大学院文学研究院教授）
砂田　徹	（元大学院文学研究院教授）
冨田康之	（元大学院文学研究院教授）
小野哲雄	（元大学院情報科学研究院教授）
金井　理	（元大学院情報科学研究院教授）
坂本雄児	（元大学院情報科学研究院教授）
今井　晋	（元大学院公共政策学連携研究部教授）
西井準治	（元電子科学研究所教授）
田畑伸一郎	（元スラブ・ユーラシア研究センター教授）
大宮　学	（元情報基盤センター教授）
冨士田裕子	（元北方生物圏フィールド科学センター教授）
山羽悦郎	（元北方生物圏フィールド科学センター教授）
橋野　聡	（元保健センター教授）

令和4年度「北海道大学総長表彰」表彰式を挙行

表彰状を受ける教育研究総長表彰被表彰者

寶金総長による挨拶

2月22日（水）、「教育研究総長表彰」表彰式が執り行われ、関係者列席のもと、寶金清博総長から被表彰者に、賞状及び報奨金（目録）が授与されました。

教育研究総長表彰は、教育活動及び研究活動を通し、特に優れた功績をあげた教員を顕彰することにより、本学の活性化と更なる発展に資することを目的としたものです。

なお、この度表彰を受けられた方々は、下記のとおりです。

（総務企画部人事課厚生労務室）

教育研究総長表彰

所　　属	氏　　名
高等教育推進機構	山　本　堅　一
産学・地域協働推進機構	椎　名　希　美
地球環境科学研究院	RAM　AVTAR
理学研究院	小　林　達　夫
薬学研究院	佐　藤　悠　介
先端生命科学研究院	出　村　　誠
工学研究院	久保田　浩　司
経済学研究院	髙　井　哲　彦
文学研究院	田　口　　茂
公共政策学連携研究部	池　　炫　周
低温科学研究所	飯　塚　芳　徳
触媒科学研究所	清　水　研　一
触媒科学研究所	古　川　森　也
触媒科学研究所	鳥屋尾　　隆

令和4年度「北海道大学職員表彰」表彰式を挙行

左から、寶金総長、吉田氏、室田氏、平氏、山口淳二理事・副学長、行松泰弘理事
（※受賞者１名欠席）

3月7日（火）、事務局において「北海道大学職員表彰」表彰式が執り行われ、関係者列席のもと、寶金清博総長から被表彰者に賞状及びメダルが授与されました。

この表彰は、職務上顕著な功績等があった方及び職務外において職員の模範として表彰に値する善行を行った方を対象とするものです。

なお、この度表彰を受けられた方々は、下記のとおりです。

（総務企画部人事課厚生労務室）

職員表彰被表彰者

所　　属	氏　　名
先端生命科学研究院	長谷川　詠　子
工学研究院	吉　田　明　彦
遺伝子病制御研究所	室　田　宏　之
北方生物圏フィールド科学センター	平　　克　郎

令和5年度北海道大学の予算

令和5年度　北海道大学収入・支出予算書

（単位：千円）

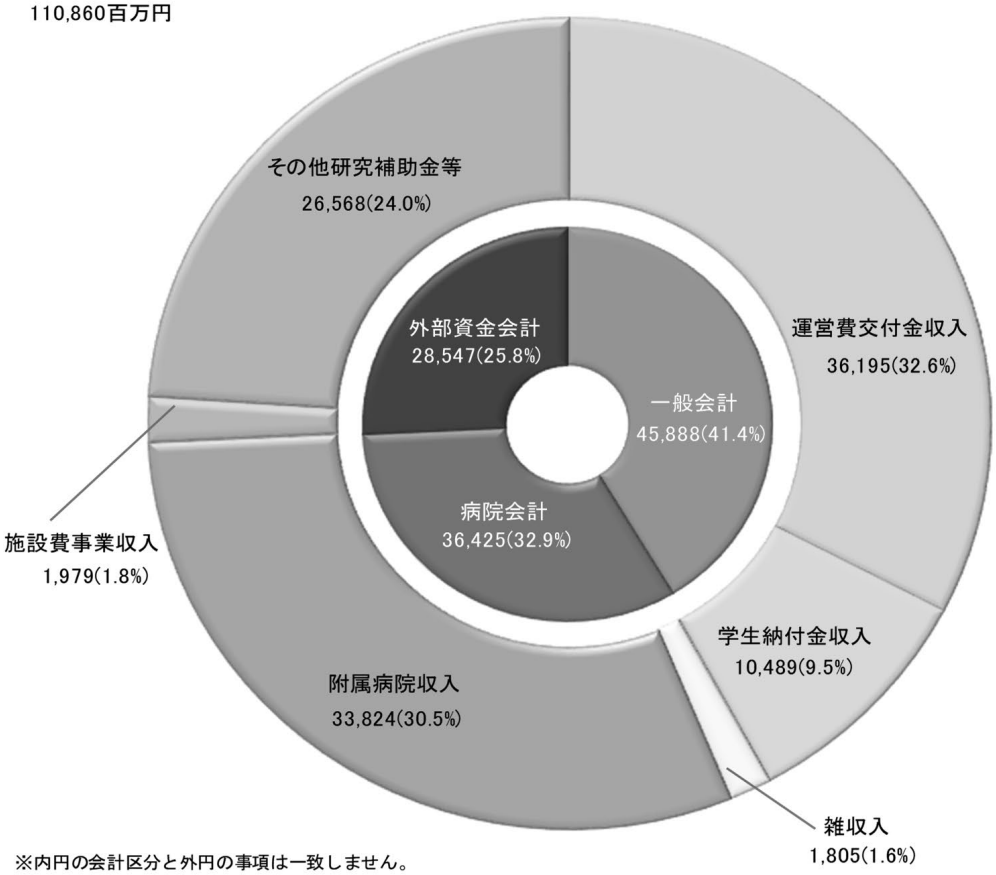
収入 事項	前年度予算額	令和5年度予算額	増減額	支出 事項	前年度予算額	令和5年度予算額	増減額
〔一般会計〕	45,789,430	45,887,956	98,526	〔一般会計〕	45,789,430	45,887,956	98,526
運営費交付金収入	33,792,372	33,779,375	△12,997	人件費	27,541,747	27,472,028	△69,719
学生納付金	10,503,718	10,489,151	△14,567	教育研究組織改革分	111,449	402,921	291,472
雑収入	1,493,340	1,619,430	126,090	共通政策課題分	706,675	781,918	75,243
				特殊要因経費	2,608,999	2,630,265	21,266
				退職手当	2,477,162	2,473,911	△3,251
				建物新営に伴う設備費	98,802	27,665	△71,137
				移転費	33,035	128,689	95,654
				大学ビジョン推進経費	4,586,311	4,266,453	△319,858
				調整費	200,000	100,000	△100,000
				特定経費	4,087,227	4,267,419	180,192
				電子計算機借料	236,602	287,232	50,630
				電子ジャーナル経費	473,976	374,748	△99,228
				公租公課、保険料等	1,143,850	1,284,821	140,971
				授業料等減免費	816,094	831,617	15,523
				収入見合経費	1,416,705	1,489,001	72,296
				基盤配分経費	5,947,022	5,966,952	19,930
〔病院会計〕	35,130,726	36,425,345	1,294,619	〔病院会計〕	35,130,726	36,425,345	1,294,619
運営費交付金収入	2,425,345	2,415,165	△10,180	人件費	8,699,734	8,674,433	△25,301
附属病院収入	32,511,421	33,824,187	1,312,766	病院診療経費	25,816,396	27,159,739	1,343,343
雑収入	193,960	185,993	△7,967	債務償還経費	15,435	0	△15,435
				大学ビジョン推進経費	499,316	491,328	△7,988
				基盤配分経費	99,845	99,845	0
〔外部資金会計〕	27,064,465	28,546,714	1,482,249	〔外部資金会計〕	27,064,465	28,546,714	1,482,249
施設費補助金等収入	2,149,920	1,978,900	△171,020	施設整備費	2,149,920	1,978,900	△171,020
保育園運営費補助金収入	89,936	87,676	△2,260	保育園運営費補助金事業費	89,936	87,676	△2,260
授業料等減免費交付金収入	261,729	285,319	23,590	授業料等減免費交付金事業費	261,729	285,319	23,590
寄附金収入	2,710,956	2,752,301	41,345	直接事業費	21,319,501	22,595,942	1,276,441
受託研究収入	7,566,591	8,878,603	1,312,012	寄附金事業費	2,667,546	2,707,414	39,868
共同研究収入	2,499,999	2,538,848	38,849	受託研究費	6,416,597	7,416,012	999,415
受託事業収入	1,604,979	1,119,608	△485,371	共同研究費	2,058,358	2,029,230	△29,128
大学改革補助金等収入	3,443,468	4,334,724	891,256	受託事業費	1,559,705	1,070,515	△489,190
文部科学省科学研究費補助金	6,582,182	6,418,267	△163,915	大学改革補助金等事業費	3,380,819	4,287,519	906,700
厚生労働省科学研究費補助金	113,940	107,244	△6,696	文部科学省科学研究費補助金	5,099,211	4,948,292	△150,919
その他助成金等	40,765	45,224	4,459	厚生労働省科学研究費補助金	96,500	91,736	△4,764
				その他助成金等	40,765	45,224	4,459
				間接経費	3,243,379	3,598,877	355,498
				特定経費（電子計算機借料）	785,160	835,160	50,000
				特定経費（燃料費）	656,241	656,241	0
				特定経費（電子ジャーナル経費）	126,024	255,252	129,228
				部局配分経費	1,675,954	1,852,224	176,270
			2.7%増				2.7%増
合計	107,984,621	110,860,015	2,875,394	合計	107,984,621	110,860,015	2,875,394

令和5年度　北海道大学収入・支出予算（グラフ）

収入予算 全体

110,860百万円

（単位：百万円）

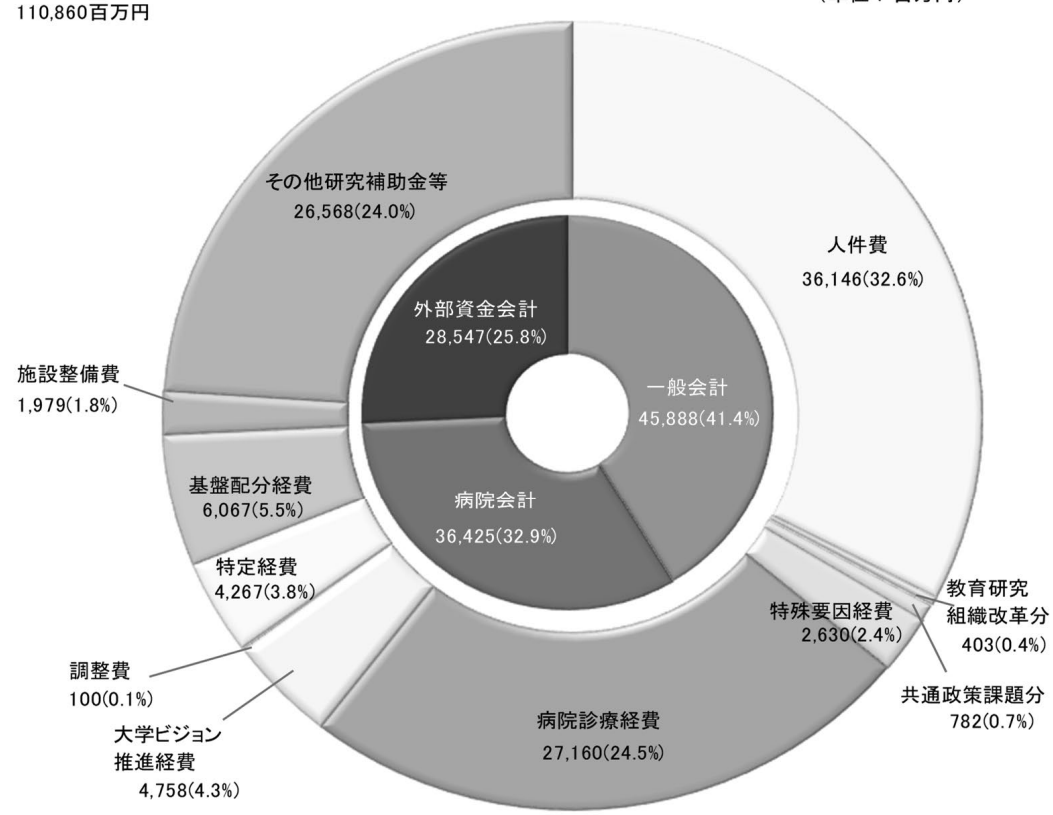


※内円の会計区分と外円の事項は一致しません。

支出予算 全体

110,860百万円

（単位：百万円）



※内円の会計区分と外円の事項は一致しません。

※項目毎に四捨五入を行っているため、合計が一致しない場合があります。

（財務部主計課）

大学院教育推進機構リカレント教育推進部がキックオフシンポジウム「学びの道は北へ、大海へ～北大が目指すべきリカレント教育とは～」を開催

3月14日（火）大学院教育推進機構リカレント教育推進部は、キックオフシンポジウム「学びの道は北へ、大海へ～北大が目指すべきリカレント教育とは～」をオンラインで開催しました。

このシンポジウムは、高等教育におけるリカレント教育の現状を俯瞰し、リカレント教育に関心を持つステークホルダーに参加を求め、今後のリカレント教育の方向性を考える目的で実施しました。

話題提供者として、企業経営者の視点から杉江和男氏（校友会エルム会長／元DIC 株式会社 代表取締役社長・取締役会長）、リカレント教育の普及・実践に関わってきた株式会社 慶應学術事業会の城取一成氏（取締役 学術事業部長／慶應丸の内シティキャンパス（慶應MCC）ゼネラルマネジャー）及び保谷範子氏（慶應MCCラーニングファシリテーター マネジャー）をお招きしました。

開会の挨拶では寳金清博総長から「北大の目指すリカレント教育」をテーマに、リカレント教育を根付かせるためには、学び直しをする社会人の方々、企業や自治体、そして大学との「三方よし」の連携が不可欠と述べられました。

次に杉江氏から、「イノベーションに繋がるリカレント教育－企業経営とキャリア教育を踏まえて」と題した話題提供で、これまでの企業経営や人材育成の経験を踏まえ、リカレント教育に期待することとしてリーダーシップマインドの涵養を挙げられました。

続いて山本文彦大学院教育推進機構長から、「大学院教育推進機構とリカレント教育」について述べられ、今後、研究力・キャンパスの魅力・遠友夜学校の伝統を踏まえた特色ある大学院レベルのリカレント教育の実践を目指すことを示されました。

城取氏からは、「『大人の学び』に大学が果たす役割とは何か」と題して「縮減の時代」における、思考・意識の枠組みの変革を促進する、ラーニングコミュニティ形成の重要性を示しました。保谷氏からは、「『大人の学び』の支援を通して学んだこと～大人の学びの場をデザインするラーニングファシリテーターとは～」と題し、学びの「サードプレイス」を提供するラーニングファシリテーターの役割を紹介しました。

話題提供の終了後、森　順子氏（フリーアナウンサー／新渡戸カレッジフェロー）の司会で、登壇者5名によるディスカッションを行いました。聴講者から多くの質問が寄せられ、リカレント教育に対する学内外の関心の高さが感じられました。

川本思心大学院教育推進機構リカレント教育推進部長によるシンポジウムの総括では、リカレント教育推進部の実施体制とビジョン「研究と共に、人の可能性を開拓する」が紹介されました。

シンポジウムは、平日夜のオンライン形式での開催でしたが、約120名の聴講者が参加し、終了後のアンケートによる感想では、多くの今後のリカレント教育の方向性を考える示唆となる意見を多数頂戴しました。

日　時：2023年3月14日（火）
　　18：30～20：30
会　場：Zoomウェビナーを用いたオンライン配信
協　力：大学院教育推進機構先端人材育成センター、大学院教育推進機構オープンエデュケーションセンター

（大学院教育推進機構リカレント教育推進部）

シンポジウム後の登壇者の集合写真、左より
川本リカレント教育推進部長、山本大学院教育推進機構長、
寳金総長、杉江校友会エルム会長、保谷氏、城取氏、森氏

ディスカッションの様子

令和4年度現代日本学プログラム課程学士学位記授与式を開催

外国人留学生を対象とした4年間の学士課程プログラムである現代日本学プログラム課程の第5期生15名が3月23日（木）に卒業の日を迎え、高等教育推進機構において挙行された現代日本学プログラム課程学士学位記授与式に出席しました。

学位記授与式では、山口淳二理事・副学長（現代日本学プログラム課程長）、髙橋　彩副理事（現代日本学プログラム副課程長）をはじめ、同課程担当教職員が参列する中、山口理事・副学長から卒業生一人一人へ学位記が授与されました。また、現代日本学プログラム課程最優秀学生賞、現代日本学プログラム課程特別賞、及び現代日本学プログラム課程最優秀卒業論文賞の表彰が併せて行われました。

引き続き、山口理事・副学長から卒業生へ祝辞が述べられ、母国を離れ異国の地での予備課程を含む4．5年間の長く険しい留学生活を自らの糧にできたこと、またコロナ禍におけるグローバルな変容にも柔軟に対応し、それを乗り越えてきたことに対する労いの言葉に、卒業生は感銘を受けていました。

卒業生の多くは、卒業後に国内外の企業への就職や北大を初めとする国内の国立大学への進学を予定しており、日本の良きパートナーとして日本と世界の架け橋の一端を担ってゆくことが期待されます。

（学務部教育推進課）

山口理事・副学長と現プロ卒業生との記念写真

新渡戸カレッジ修了式（大学院教育コース）を挙行

令和4年度新渡戸カレッジ修了式（大学院教育コース）を3月20日（月）に高等教育推進機構にて執り行いました。

基礎プログラムから、留学生20名を含む26名、オナーズプログラムから、留学生6名を含む22名が修了しました。はじめに、弛　和順副校長から修了生代表の2名に修了証書が授与されました。また、オナーズプログラム修了生にはアソシエイト（大学院）の称号を授与するとともに、特に優秀と認められた2名に対し、優秀賞を授与しました。

続いて、弛副校長から挨拶が行われ、「グローバル化の進む社会で逞しく生き抜き、そして社会に貢献するためには、これまでの時代よりも一層多くの能力が求められる」ことに触れ、基礎プログラム修了生に対しては、「オナーズプログラム入校の上、修得した知識やスキルの応用と発展をめざしてください」との激励の言葉が贈られ、またオナーズプログラム修了生に対しては「高度な専門性とそれらを「活かす力」を存分に発揮して、グローバル化社会において自らの道を切り拓くと共に、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材となることを心より祈念いたします」との期待の言葉が贈られました。

修了生代表の挨拶として、オナーズプログラム代表の李　慈慧さんが、新渡戸カレッジで学んだ経験や今後の抱負などについて挨拶を行い、修了式は終了となりました。

（優秀賞受賞者）
李　慈慧（国際広報メディア・観光学院）
イマン　フセイン　エルサエド　トゥリアバ（工学院）

（学務部教育推進課）

基礎プログラム修了生代表　シェリーンさん

オナーズプログラム修了生、優秀賞表彰代表
イマン　フセイン　エルサエド　トゥリアバさん

オナーズプログラム修了生、優秀賞表彰代表　李　慈慧さん

令和4年度北海道大学鈴木章記念賞 －自然科学実験－表彰式を挙行

3月15日（水）、高等教育推進機構において、令和4年度北海道大学鈴木章記念賞－自然科学実験－表彰式が挙行されました。

この賞は、全学教育科目「自然科学実験」において、特に優秀な成績を修め、本学の目指す全人教育の理念にふさわしい学生を表彰するために設けられた制度です。

表彰式は、山口淳二高等教育推進機構長、鈴木久男総合教育部長の列席の下、山口機構長から4名の受賞者のうち2名の欠席者を除く2名に賞状が授与されました。

続いて山口機構長から、鈴木名誉教授の経歴の紹介とともに、「学術と社会の発展に貢献できる人材へと育っていただきたい」との挨拶がありました。

受賞者は、偉大なる先輩の名を冠した賞を授与されたことにより、今後も勉学に一層励むべく自覚を新たにしていました。

（学務部学生支援課）

賞状の授与

記念撮影

被表彰者

【第1学期被表彰者】

17組	竹　田　真　翔
27組	端　山　恵　菜
28組	宇　田　理　人

【第2学期被表彰者】

38組	五十嵐　　雅

令和4年度北海道大学大塚賞授与式を挙行

3月22日（水）、事務局において、北海道大学大塚賞授与式を挙行しました。

大塚賞は、大学院博士課程を当該年度内に修了し、研究者を目指す優秀な女子学生に授与される奨励金制度です。

今回は令和4年度内の博士課程修了予定者10名が受賞者として選ばれました。

授与式には寶金清博総長、大塚榮子名誉教授、山口淳二理事・副学長、矢野理香ダイバーシティ・インクルージョン推進本部副本部長、平田公明学務部長列席の下、寶金総長より賞状が授与され、お祝いの言葉が述べられました。

式終了後には、交流会が開催され、研究分野に関する情報交換や将来の活躍を誓い合う機会となりました。

これからも、研究者を目指す多くの女子学生が受賞されることを期待しております。

（学務部学生支援課）

受賞者

環境科学院	深　井　悠　里
理学院	露　木　葵　唯
生命科学院	尾　幡　穂乃香
工学院	岩　井　　愛
工学院	チャウ　ユエンティン　レイチェル
総合化学院	瀬　尾　珠　恵
医学院	福　津　佳　苗
歯学院	余　　麗
国際感染症学院	岸　本　麻　衣
国際感染症学院	板　倉　友香里

寶金総長の祝辞

記念撮影

令和4年度北海道大学クラーク賞表彰式を挙行

3月22日（水）、高等教育推進機構において、令和4年度北海道大学クラーク賞表彰式を挙行しました。

北海道大学クラーク賞は、平成27年度末で解散した公益財団法人北海道大学クラーク記念財団が、特に優秀な学業成績を修め、かつ、人格に優れた本学学部卒業予定者を対象に実施していたクラーク賞を本学が継承して、平成28年度から北海道大学クラーク賞として制定した新しい賞です。

北海道大学クラーク賞は、本年、北海道大学を卒業される学部学生の中から、所属の学部において、最も優秀な学生であると推薦された1名を表彰するものです。

表彰式では、山口淳二理事・副学長から13名の受賞者のうち所属学部において表彰式を行う4名を除く9名に賞状盾が授与され、続いてお祝いと期待の言葉が述べられました。

なお、所属学部において表彰式を挙行する学部においては3月23日(木)、水産学部では3月24日（金）に表彰式が挙行されました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	服　部　瑞　生
教育学部	平　田　千　鶴
法学部	中　野　友　温
経済学部	尾　﨑　桃　果
理学部	長谷川　雄　也
工学部	岡　村　洋　希
農学部	林　　直　希
獣医学部	池　端　麻　里
水産学部	柴　田　夏　実
医学部医学科	荒　川　泰　璃
医学部保健学科	村　上　奈々緒
歯学部	山　本　若　奈
薬学部	宮　沢　桃　子

授与の様子

記念撮影

令和4年度北大えるむ賞授与式を挙行

3月22日（水）、事務局において、令和4年北大えるむ賞の授与式を行い、寶金清博総長から表彰状が授与されました。

北大えるむ賞は、平成9年度に本学の伝統である全人教育の充実のため、学生の健全な課外活動及び社会活動等を積極的に支援し、その振興と活性化を図ることを目的として創設されたものです。本学の学生を対象として、国際的・全国的規模の競技会等に参加し優秀な成績をおさめ課外活動の振興に功績があったもの、社会活動において優れた評価を受けたもの、自己研鑽並びに他の学生の指導等に優れた評価を受けたものなどに対して表彰するもので、今回は応募のあった18件から4件が採択されました。

寶金総長から受賞者へねぎらいと激励の言葉があり、受賞者は今後の更なる活躍を誓いました。

（学務部学生支援課）

受賞団体受賞理由

◆ 団 体

○ 競技舞踏部
第61回全日本学生選抜競技ダンス選手権大会及び、第68回全日本学生競技ダンス選手権大会において団体1位の成績をおさめたこと。

○ 交響楽団
創立100周年を記念する記念演奏会を開催し、見事な演奏会を成し遂げたこと。

○ 相撲部
第61回全国七大学総合体育大会及び、第38回全国国公立大学対抗相撲大会において優勝したこと。

○ Team Moshirekarikuru
NASA Tournament Lab主催のアイデアコンテストにおいて、全参加チームのうち4チームしか勝ち取ることのできないBest in Class Winnerに選出されたこと。

授与式での記念撮影

令和4年度「北海道大学企業研究セミナー」を開催

2月20日（月）から22日（水）及び3月1日（水）・2日（木）の計5日間、オンラインにて「北海道大学企業研究セミナー」を開催しました。

本セミナーはキャリアセンターと校友会エルムが主催する合同企業説明会であり、平成16年度から毎年開催している本学最大の就職支援イベントです。学生が主体的に企業・業界研究を行うことにより、就職活動へ向けての礎を築くことを目的としています。

令和2年度より3年連続のオンライン開催となりましたが、北大生を積極的に採用したい260社の企業・団体がZoomミーティングにて参加し、採用担当者が30分の説明を2回行いました。

学生は1日で最大12社の説明を聞くことができ、延べ1,854名の学生が視聴しました。就職活動の早期化や売り手市場など社会環境の変化に伴い参加学生は昨年度より減少しましたが、採用担当者や本学OB・OGに気兼ねなく質問することができ、企業・業界の理解をより深める機会になりました。

キャリアセンターでは、引き続き、各種の就職ガイダンス・セミナーや個別相談等を通して、学生の就職支援に努めて参ります。

（学務部キャリア支援課）

「企業研究セミナー」ポスター

仏語圏西アフリカ（セネガル及びコートジボワール）での日本留学フェアの開催

アフリカルサカオフィスでは、本学が文部科学省から受託している「日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ）」の一環として、2月11日（土）にセネガル、15日（水）にコートジボワールで対面式日本留学フェアを開催しました。このフェアは、本オフィスが仏語圏西アフリカで主催した初のフェアになります。

両国はサブサハラ・アフリカ地域の中でも経済成長が著しい地域にあり、中でもセネガルはコロナ禍以前、日本への留学生数が年間100名を超え、同地域内では英語圏の国々に次いで第4位の送り出し国でした。コートジボワールは同地域の中で日本語学習者数が最も多く、日本留学に関心のある学生が潜在的に多いと考えられる国です。同国では、コロナ禍以前にフェア開催が企画されていましたが、感染拡大の影響で延期になっていました。

セネガルでは、西アフリカ各国から留学生の多く集まるアフリカ高等経営学センター（CESAG）の協力を得てフェアを開催し、333名の参加がありました。日本からは本学と東北大学が、また現地からは在セネガル日本国大使館、JICAセネガル事務所、あしながセネガル、日本学術振興会（JSPS）ナイロビ研究連絡センター、国際交流基金が参加し、本オフィスによる日本留学に関する一般的な説明に加え、各機関・団体が持つプログラムや奨学金の紹介が行われました。さらに、セネガル人元国費留学生も司会及び座談会パネリストとして日本留学の経験談や留学後のキャリアパスについて発表を行い、参加者と活発な質疑応答がなされ、その後の個別相談会でも多くの質問が寄せられました。

コートジボワールでは、同国で最も権威のあるフェリックス・ウフェ＝ボワニ大学との共催で日本留学フェアを開催しました。本フェアには、平日にもかかわらず400名以上の参加がありました。在コートジボワール日本国大使の挨拶に続き、JICAコートジボワール事務所、あしながセネガル、JSPSナイロビ連絡センター、そして本学と東北大学のプレゼンテーションが、またセネガル同様、国費奨学金やJICA・ABEイニシアチブの元留学生との座談会や、活発な質疑応答、個別相談会が行われ、参加者にとって有意義な時間となりました。

今回は仏語圏西アフリカでのフェア開催ということもあり、広報においてもフェア当日も仏語が積極的に用いられました。発表の多くが仏語で行われたほか、英語のプレゼンテーションや質疑応答に通訳を用いることで、必ずしも英語が得意ではない学生へのアウトリーチが図られました。また、対面でフェアを行うことにより、日本語学習や日本留学に関心がある学生たちのモチベーションを高めることができました。この成功体験をもとに、本オフィスでは、今後も英語圏及び仏語圏アフリカの双方でオンライン・対面による活動を活発化させていく予定です。

（国際部国際連携課）

コートジボワールにおけるフェアでの全体説明会の様子

個別相談会の様子

サブサハラ・アフリカ地域向けに「大学院希望者向けオンライン日本留学フェア」を開催

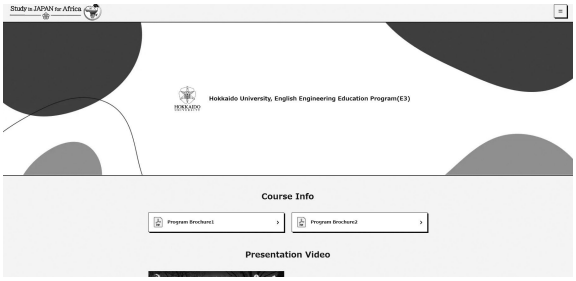
アフリカルサカオフィス及び同ナイロビ・サテライトでは、2月26日（日）にサブサハラ・アフリカ地域の大学院留学希望者を対象に、オンライン「日本留学フェア」を開催しました。本フェアは、同地域の優秀な学生の日本留学誘致を目的とした、文部科学省委託事業「日本留学海外拠点連携推進事業（サブサハラ・アフリカ）」の一環として、関係機関（在ケニア日本国大使館、JICAケニア事務所、JETROナイロビ事務所、JSPSナイロビ研究連絡センター、国際交流基金、ケニア日本語教師会、ザンビア大学日本語講座）の後援により、実施されました。

本フェアでは、大学院留学に焦点を絞り、本学環境科学院、工学院、理学院、生命科学院及び獣医学院を含む本邦16大学から29のプログラムを紹介しました。フェアは日本留学に関する全般的な情報提供を行う全体説明会と、各大学とのグループ相談会で構成され、全体説明会では、在ザンビア日本国大使館、JICAケニア事務所及びJICE・JDSケニアプロジェクトオフィスが担当している奨学金について説明が行われたほか、日系企業に勤務し、長期日本滞在経験もあるケニア人による卒業後の進路について情報提供がありました。参加者との質疑応答の時間では、本学での交換留学（HUSTEP）後に国費奨学金の支援を受けて長崎大学大学院に進学したザンビア人留学生も参加し、詳細かつ実感のこもった情報があふれる全体説明会となりました。グループ相談会も、大学側と参加者の間で熱心にやり取りがなされ、盛会の運びとなりました。

本フェアでは、ウェブ構成の改善を行ったことで、簡単にグループ相談会に参加できるようになりました。広報活動では、現地のマスメディアがもつSNS及び本事業のSNSやメーリングリストの活用、後援機関や出展大学、対象地域の在外公館や大学の協力を得たことに加え、対象地域で人気のSNSも積極的に使用してターゲット層へのアクセス力を高めました。その結果、同地域49か国中42か国から2,633人が登録し、当日は500人近くの参加がありました。本事業は令和5年度で一区切りを迎えます。これまでの挑戦や成果を踏まえ、最終年度も同地域から本学及び日本の大学への留学生増加や交流促進に努めます。

（国際部国際連携課）

アフリカルサカオフィス奥村正裕所長からの挨拶の様子



イベントサイト上のプログラムごとの紹介ページ

「北海道プライムバイオコミュニティ推進会議」を開催

3月22日（水）、北海道[3]連絡会（本学、北海道、ノーステック財団）は、北海道プライムバイオコミュニティ推進会議を開催しました。

第1部では、バイオコミュニティ構成機関の若手～中堅職員を対象としたワークショップを行い、13団体から22名が参加しました。参加者によって、今後、北海道プライムバイオコミュニティが取り組む活動について、多くのアイデアが出されました。

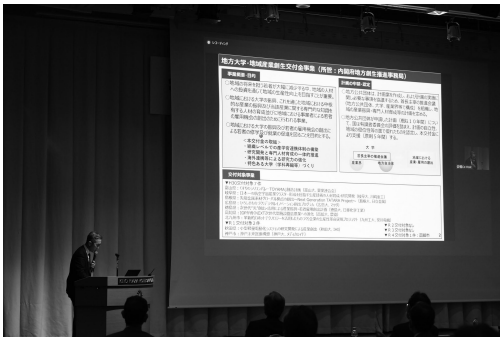
第2部では、構成機関による講演会を行い、会場参加とオンライン参加を合わせて23団体、94名が参加しました。室蘭工業大学大学院工学研究科の徳樂清孝教授から「アシル－トイタによる心と体に響く新しい食の価値共創拠点プロジェクトの開始」について講演があった後、本学水産科学研究院の福田　覚教授から「北海道大学地域水産業共創センターの開設」について、函館市企画部の相馬直仁水産海洋・高等教育担当課長と余市町の齊藤啓輔町長からそれぞれ「自治体からプライムバイオコミュニティへの期待」について講演がありました。最後に、第1部ワークショップの発表が行われ、盛況のうちに終了しました。

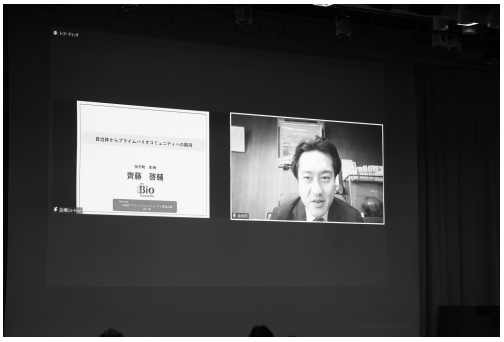
※北海道プライムバイオコミュニティは本学、北海道庁、ノーステック財団をネットワーク機関（北海道[3]連絡会）とした、道内国公私立大学、自治体、企業等により構成されるコミュニティ。2021年6月、地域に応じた特色あるバイオ分野の取組を展開する「地域バイオコミュニティ」として内閣府から認定されました。

（社会共創部社会連携課）

室蘭工業大学 徳樂教授による講演

水産科学研究院 福田教授による講演


函館市 相馬課長による講演



余市町 齊藤町長による講演（オンライン）

令和4年度第11回　定例記者会見を開催

3月16日（木）、本学の特色ある教育研究活動や運営状況等を社会に向けてわかりやすく発信することを目的とした「定例記者会見」を開催しました。黒岩麻里総長補佐の進行のもと、工学研究院の川村洋平教授が発表しました。北海道教育庁記者クラブ加盟社等から3名の参加がありました。発表内容は以下のとおりです。

（社会共創部広報課）

発表事項（発表者）

・360° VRシアターの紹介 -フィールド科学教育改革
（工学研究院　教授　川村洋平）
※発表資料掲載URL
https://www.hokudai.ac.jp/introduction/gov/org/pr/press-conference/R4.html

司会を務めた黒岩総長補佐

発表を行う川村教授

黒岩総長補佐と川村教授

VRシアターを体験する参加者

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をすることとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額（2月28日現在）　37,305件　6,241,113,557円

2月のご寄附状況

法人等37社、個人739名の方々から26,131,274円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

株式会社梓設計　北海道事務所、株式会社アドエモ、イムノサイエンス株式会社、有限会社臼谷工業、株式会社エルムプロジェクト、株式会社学生情報センター、期間工合同会社、北日本フード株式会社、共和煖房工業株式会社、株式会社クレストコンサルティング、GoDoggy合同会社、CL-Vets株式会社、高橋動物病院、辻野建設工業株式会社、株式会社データサイエンス研究所、有限会社中空知ペットケア、パルク動物病院、株式会社ビケンワーク、株式会社美深振興公社、株式会社ブルーム動物病院、北大全学教育基礎科目教科書『地球惑星科学入門』著者一同、北海道NSソリューションズ株式会社、北海道酒類販売株式会社、北海道和光純薬株式会社、株式会社丸善市町、三島会計事務所

寄附者ご芳名（個　人）

Soo-GilPark	青井　良平	青木　俊介	青木　東雄	青木　由直	淺田　為蔵	安達　三郎	阿部あけみ
阿部　弘治	阿部　敏樹	阿部　博	天崎　正博	荒川　卓	有路　明憲	在間　勇二	飯尾　真花
飯田　安利	筏井　洋之	池貝　友喜	池﨑　英二	池﨑　博之	池田　幸良	石井　哲夫	石垣　隆弘
石垣　学	石川　達雄	石川　利行	石崎　禎太	石橋　洋一	石原あけみ	石原　恵介	石原　久司
石部　雄紀	石山登志雄	石渡　悠介	伊豆元美恵	磯野　進一	伊丹　貴晴	市岡　孝男	市川　康明
市坂　有基	市原　秋男	一色　雅弘	伊藤　達	伊藤　金通	伊藤　大貴	伊藤　哲郎	井戸　清剛
井ノ口真喜	猪股　路子	井原　博	伊禮　明子	岩尾　守	岩崎　健史	岩田　宏公	植田　俊治
上田亜由美	上田　雅敏	上戸　淑男	上原　信二	上原　秀晃	上藤　洋敬	魚山　和春	碓氷　善美
梅原　宏之	梅本　由佳	榎　良一	榎本　友一	柄本　浩一	緑記　和也	遠藤　一栄	遠藤　公憲
笈川　直彦	大泉　清	大川　郁子	大川　征治	大沢　正人	大慈彌省三	大田　尚枝	大友　陽子
大西　巧洋	大西　慎一	大橋　隆夫	大畠　敏男	大原　正範	大平　友三	緒方　純俊	岡村　直利
岡本　嗣郎	岡本　利彦	岡本　万美	小川　実希	沖崎　遼	沖田　智	奥谷　圭介	奥出　聡
小椋　政俊	尾崎　由博	小田原一史	小野瀬加栄子	尾野　正治	小原　隆司	小原　大和	海保　康男
加賀宇　恵	角田與史雄	掛端　健士	柏谷　英夫	片平　靖洋	片山　修	片山　琢	加藤　彰
加藤　秀平	加藤　千明	加藤　伸康	加藤　裕貴	加藤　雅雄	金井　弘	金山　順雄	兼古　学
金田　和久	狩野　秀貴	鎌田　宜夫	栢原　英郎	狩野亜砂乃	川内　保範	川上　博史	川瀬　紀子
川添　公貴	河辺　由清	河村　裕	川本　和浩	川本真奈美	菅野　彰一	菅野　正春	蒲原　康顕
木内　淳	菊池哇喜彦	岸　憲之	北島　明	北島　直幸	喜多　司郎	北村　昭男	衣川　暢子
木下　アイ	木村　茂生	木村　秀幸	木村　祐介	木山　卓夫	工藤　勲	工藤　俊哉	工藤真記子
國吉　俊治	倉元　祥伍	黒川　一哉	桑原　弘昌	上月　浩	古口奈津子	小澤　尚晴	小島　順治

小菅　照和
小林　武司
小室　裕一
坂井　秀利
佐藤　一昌
佐藤　利枝
柴田　俊夫
白鳥　貴久
杉本　聡
須藤　勝麿
高橋　信博
橘　孝則
玉田　博亮
坪田　俊夫
永田　衛男
西尾　正己
根本　叔治
長谷川　淳
林　昭明
平田　有子
藤井　利侑
伏見　公美
別府まゆみ
増山　邦彦
松永　一敏
松本　嶺
宮尾幸之助
村井　康夫
森田　敦也
柳田　七海
山田　哲
横田　昌子
吉木　咲枝
若狭　哲
渡部　克将

小寺　義郎
小林　千尋
近藤めぐみ
酒井　洋輔
佐藤　隆三
眞田　眞
柴田　俊春
新宮　康栄
杉本　潤哉
住友　秀彦
高橋　英之
立田　節雄
田村　祥一
出井康次郎
中村冨士男
錦田真理子
野崎　直美
長谷川英機
林　基樹
平野　勝利
藤尾　敦
伏見　公花
穂垣　卓志
松井　耕二
松永　崇
三浦　勝也
宮下　和也
村上　泰一
守田　実
柳原　克彦
山田　武彦
余湖平八郎
由田　里織
渡邉　勝哉

後藤　誠也
小林　真美
今野　廣
榊　信昭
佐藤　恒久
沢　邦彦
清水　慧
新谷　一郎
鈴木　敬二
寸田　祐嗣
高柳　涼
田中　和裕
田村　秀夫
戸田　智弘
中山　茂樹
西澤　達郎
野島　俊雄
長谷川靖哉
原田　周作
弘中　久男
藤澤　裕子
藤村　憲司
細川真樹子
松浦　豊
松橋奈緒美
三上　裕子
宮下　直幸
村瀬徳啓充
森　裕明
山岸　直司
山田　久恵
横山　考
吉田　洋
渡邉　忠

小西　秀和
小林　義幸
齊藤　晋
坂口　威
佐藤　直樹
澤田　祥江
清水　正昭
末光　久雄
鈴木　信二
瀬谷　陽亮
田口　佻男
田中　稔
丹上　正安
飛澤由紀子
中山　次郎
西澤　智代
羽賀　忠大
畠山　剛
番匠　厚士
樋渡　卓也
藤田　知子
藤原　孝彰
堀　秀松
松川　晃
松原　謙一
三田　勝久
宮田　勝治
村瀬　亮太
八重樫良明
山口　智之
山中日出晴
横山　強
吉田　由久
渡部　和正

小林　孝
小松　弘
齋藤　貴子
櫻田　誠司
佐藤美紀子
椎名　希美
城　攻
菅沼　孫之
鈴木　貴之
千田　公男
武市　靖
田中　義益
千葉真由美
中井　由枝
那須　基
西田　実弘
袴田　章夫
波多由紀子
人見　琢也
深谷　昭夫
藤波　岳臣
船越　賢
前川　静男
松川　智恵
松久　倶之
道塚　佳子
宮田　信幸
村武　直樹
八木　廣
山崎　淳平
山本　健一
横山　直樹
吉村　和幸
渡辺　佳代

小林　榮治
小松　広茂
齋藤　憲寿
笹木　國春
佐藤　泰治
志済　聡子
白石　和朗
菅原　新也
鈴木　尚子
高瀬登志彦
竹内　淳子
田中　隆二
千代田堯汎
長岡　宗男
那須　桃香
丹羽　啓達
橋爪　俊明
花田　秀一
樋出　和美
福島　未希
藤野　俊彦
船越谷　花
前田　英次
松田　和也
松本　真介
道塚　翔
宮本　和彦
村山　準
矢﨑　政人
山崎　正
山本　誠
横山　望
吉本　翔
渡辺　直樹

小林　賢人
駒村　伸江
齋藤　悠城
佐々木賢一
佐藤　夕佳
篠崎　玲実
白石　悟
菅原　千穂
鈴木　仁
高橋　彩
竹田　俊明
谷口　尚弘
土田みゆき
長島　健次
納谷　峻徳
沼口　宜久
橋本　哲
林　英己
響　要二
福永　悟郎
藤丸　俊樹
船水　尚行
麻柄　利克
松田　麗子
松本　高明
道塚　敏章
棟方　正信
茂木　智子
矢嶋　剛
山崎　昇
山本　正二
横山　穣
米倉　優子
渡辺　泰之

小林　浩治
小室　八郎
左海登志雄
佐々木正彦
佐藤　嘉晃
柴崎　宏介
白倉　恒夫
杉江　和男
鈴木　康夫
高橋　歩美
竹田　利夫
谷口　裕
坪内　直人
長島　正剛
西井　成実
猫田　康徳
橋本　幸子
林　建治
平井　健之
福村　景範
伏見　公志
平島　一輝
槙　由紀
松永　章宏
松本　美生
南田　大朗
村井　亨正
森岡　一史
安陵　智代
山崎　凌
余湖　兼右
吉井　誠
米沢　惇
渡辺　倫子

銘板の掲示　20万円以上のご寄附で新規に銘板を掲示される方

（個　人）

上原　秀晃、坂井　秀利、榊　　信昭、原田　周作、藤丸　俊樹

（法　人）

株式会社梓設計　北海道事務所、北日本フード株式会社、共和煖房工業株式会社、北海道NSソリューションズ株式会社、北海道酒類販売株式会社、三島会計事務所

〈感謝状の贈呈〉

株式会社学生情報センター様（令和5年2月16日）

共和煖房工業株式会社様（令和5年2月17日）

北日本フード株式会社様（令和5年2月24日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスしてください。
https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、卒業生・基金室基金事務担当に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

卒業生・基金室基金事務担当にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、卒業生・基金室基金事務担当にご持参ください。
申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、卒業生・基金室基金事務担当にもご用意していますので、お越しいただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ
（https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ　卒業生・基金室基金事務担当（事務局・学内電話　2017）

（社会共創部広報課）

第10回北海道大学オープンファシリティシンポジウム・オープンファシリティ施設見学会を開催

創成研究機構グローバルファシリティセンター（GFC）と大学力強化推進本部の共催で、1月19日（木）に創成研究機構において国が進める共用事業の最新情報の共有を目的とした「第10回北海道大学オープンファシリティシンポジウム」を開催しました。

今回は3年ぶりに対面開催となり、オンライン配信を併用したハイブリッド形式で実施しました。

会場には66名が参加し、オンラインでは約90名の参加がありました。

本シンポジウムでは創成研究機構長の増田隆夫理事・副学長の挨拶に始まり、研究設備・機器の共用に関する文部科学省の取り組みについて文部科学省科学技術・学術政策局研究環境課の渡辺隆之氏にご講演いただきました。続いて、GFCから各部門長による事業報告を、技術支援・設備共用コアステーションから佐々木隆太研究基盤強化グループ長、岡　征子人材育成グループ長によるコアファシリティ構築支援プログラム経過報告を行いました。その後、東北大学コアファシリティ統括センター副センター長の中山啓子氏から「東北大コアファシリティ事業研究支援体制と研究支援人材育成」をテーマに同大学の取り組みについて、東海国立大学機構統括技術センター技術支援統括室長の古賀和司氏からは「全学技術センターから統括技術センターへ既存組織から複数大学の技術組織へ」と題して同センターの概要と技術職員のキャリアパス等についてご講演いただきました。

その後のパネルディスカッションでは、講演者に加えて技術支援本部長の行松泰弘理事・副学長、技術支援本部の井上　京副本部長、永井謙芝統括技術長をパネリストに迎え、「総合大学における研究支援体制のあり方と研究支援人材育成について考える」と題した討論が行われました。最後に、網塚浩GFCセンター長による挨拶で閉会となりました。

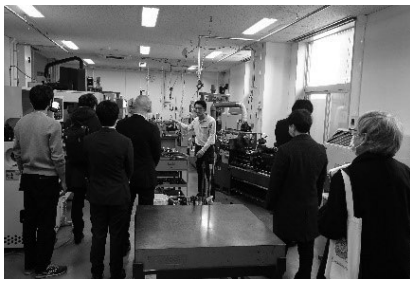
翌日20日（金）に開催したオープンファシリティ施設見学会を開催し、24名の方にご参加いただきました。

閉会後に実施したアンケートの回答によると、コアファシリティ事業に関する報告をはじめ、各報告に多くの反響があり、今後の各機関における取り組みの参考とすべき意見も寄せられました。

（創成研究機構）

シンポジウム会場の様子

パネルディスカッション


施設見学 試作ソリューション部門機械工作室

農学研究院・化学反応創成研究拠点（WPI-ICReDD）合同シンポジウムを開催

化学反応創成研究拠点（ICReDD／アイクレッド）では、令和4年9月に開催した薬学研究院との合同シンポジウムに続き、農学研究院との合同シンポジウムを3月8日（水）にハイブリッド形式により開催しました。本シンポジウムは、ICReDDと農学研究院の最新の研究動向を介して、研究者間の交流を深め、新たな共同研究や連携の機会とすることを目的とし、ICReDDから5名、農学研究院から5名の講演者による研究発表が行われました。

シンポジウムは、農学研究院の野口　伸副研究院長（当時）からの挨拶に続き、三つの各セッションで多分野におよぶ最先端の研究発表が行われました。それぞれの講演に対し、総勢90名の様々な分野の研究者が活発な議論や質疑応答を行い、今後の分野を超えた融合的研究への可能性が期待される良い機会となりました。最後に、ICReDDの前田　理拠点長から閉会挨拶が行われ、シンポジウムは盛会裏に終了しました。

ICReDDでは、様々な分野の研究者との融合研究を展開するため、今後もこのような形で各部局とのシンポジウムを開催していく予定です。

（農学研究院・化学反応創成研究拠点（ICReDD））

シンポジウムの様子

講演一覧

セッション１

1. Satoshi Maeda (Professor, Computational Science, WPI-ICReDD)
   “Artificial force induced reaction method: A computational approach for exploring chemical reactions based on quantum chemical calculations”
2. Tomomichi Kato (Associate Professor, Research Faculty of Agriculture)
   “Modeling for understanding the material cycling in land ecosystem”
3. Hajime Ito (Professor, Experimental Science, WPI-ICReDD)
   “Mechanochemistry: Revolution in organic chemical reaction”
4. Haruhide Mori (Professor, Research Faculty of Agriculture)
   “Diversity of carbohydrate-active enzymes and their application to carbohydrate conversion”

セッション２

5. Yasuhide Inokuma (Associate Professor, Experimental Science, WPI-ICReDD)
   “Polyketones as shapable molecular ropes”
6. Hideyuki Matsuura (Professor, Research Faculty of Agriculture)
   “Jasmonic acid is not a biosynthetic intermediate to produce the pyrethrolone moiety in pyrethrin ii”
7. Tasuku Nakajima (Associate Professor, Experimental Science, WPI-ICReDD)
   “Mechanical reinforcement of foods for creation of tough soft materials”

セッション３

8. Takashi Suzuki (Professor, Research Faculty of Agriculture)
   “Analysis of fructo-oligosaccharides in asparagus plant tissues utilizing MALDI-TOF MS and ESI-MS”
9. Sunao Shoji (Specially Appointed Assistant Professor, Experimental Science, WPI-ICReDD)
   “Luminescent paint film using a Eu(III) complex for accelerating plant growth”
10. Hideyuki Saito (Lecturer, Research Faculty of Agriculture)
    “Improvement of plant growth using a transparent Eu^{3+}-painted UV-to-red conversion film”

DX博士人材フェローシップ×産学・地域協働推進機構 北海道札幌西高等学校で探求学習の講義を実施

3月9日（木）、DX博士人材フェローシップの博士課程学生5名と産学・地域協働推進機構が協同して、北海道札幌西高等学校の1年生80名に向けて探求学習の講義を実施しました。

本講義は、高校2年生から始まる本格的な探求学習に向けた準備に加え、様々な人との出会いから自身のスキルの習得や自己の在り方や、生き方を考えるきっかけをつくることを目的に実施されました。大学院生との交流を通じて研究・真理探求について学ぶコースと題し、自分自身の価値観や興味関心を深堀するためのワークショップの実施や、博士課程の学生らが自身の研究テーマやそのテーマに興味関心をもったきっかけ、どのようにそれを探究しているか、高校生に伝えたいメッセージなどを発表しました。加えて、自分の興味関心やメガトレンドからリサーチクエスチョンとなる問いをたて、研究手法を考えるプロセスを1枚のワークシートを使って検討していきました。

今回の講義では、国際広報メディア・観光学院の鈴木里奈さん、文学院の松元　晶さん、生命科学院の後藤悠人さん、獣医学院のコウバアナスタシアさん、農学院の林芳弘さんらが参加しました。

受講した高校生からは、「自分の探求の大きなテーマが決まらず、探求に対して不安感を覚えていましたが、今回の探求活動で講師の方々のお話を聞いて、自分の好きなもの、やってみたいこと、興味のあるものについての見方や考え方が新しく自分のなかに入ってきて、テーマについてある程度決めることができました。今回、この探求を受講できて本当に良かったです！」「今回のプログラムで、自分の進路や興味関心を思っていたよりずっと見つけることができてとても嬉しかったです！また、大学院の方の研究内容がとても面白くて、自分のあんな風に研究したいと思い、大学に行くのがとても楽しみになりました！」「大学や探究についてお話しをしてくれてありがとうございました。私はまだ将来何をやりたいか具体的に決まってないけど、ワークシートや発表から参考になったと思うので良かったです。ワークシートで迷っているときに大学院生がアドバイスしてくれて嬉しかったし役に立ちました。」などの感想が寄せられました。講義の前後で実施したアンケートからも、「今後挑戦してみたいこと」の質問項目がより主体的な回答に変化し、自己の知識・能力・態度に関する質問項目では基礎知識を示す項目に加え、熱意、自己効力感や主体性を示す項目においても有意にポジティブな変化がみられるなど、一定の効果が表れました。講義の全体満足度も5段階評価で満足を示す4以上を選択する学生が90％を超えました。

今回は、2コマを活用した1回完結型の講義でしたが、今後に向け高校との新たな連携についても検討を続けていく予定です。

（産学・地域協働推進機構）

チームで共有する様子

ワークに取り組む高校生たち

自分自身の興味関心を深堀するワーク

大学院生による発表

「DEMOLA HOKKAIDO 5th Anniversary Alumni Meeting」を開催

3月10日（金）DEMOLA HOKKAIDOが5周年を迎えたことを記念し、DEMOLA HOKKAIDO Alumni Meeting（同窓会）を開催しました。DEMOLA HOKKAIDOはこれまでに5年間で33大学、271名の学生に参加していただきました。そのうちDEMOLA HOKKAIDO Alumni Meetingには企業の方も含め25名が参加しました。5年前に参加した学生から数ヶ月前の参加学生、すでに社会人になった学生など、幅広い人たちの交流の場となりました。

イベントではDEMOLA GLOBAL社CEO Ville Kairamo氏とDEMOLA HOKKAIDOが協力してワークショップを企画し、「将来北海道で起きる社会課題とは何か」について考え、それを解決するアイデアをチームで考えました。どのチームもDEMOLAで培ったデザイン思考を活用し、ワークに取り組んでいました。

DEMOLAはフィンランド発の産官学連携イノベーション創出プラットフォームであり、世界16ヵ国、60大学以上が参加している国際的な企業課題解決ネットワークです。学生と企業担当者が一緒にチームを組み、企業のリアルな課題解決に取組むのが特徴です。

2018年から日本では初めて、本学が導入し、約5年間かけて38社42課題に取り組む活動を展開してまいりました。参加学生は、本学をはじめ小樽商科大学、北海道情報大学、藤女子大学、札幌市立大学など北海道を中心とした地域の学生でしたが、2020年度以降は新型コロナウィルス感染拡大の影響もありフルオンラインでの開催体制を整えたことから、本州の学生や海外在住の学生の参加も実現しています。今回のDEMOLA HOKKAIDO Alumni Meetingにも東京や静岡など全国各地から参加していただきました。

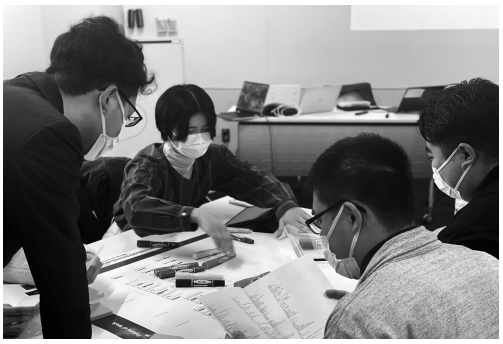
DEMOLAプログラムは2023年度も年間3回開催する予定で、現在、2023年1st batchの募集をしております。DEMOLAプログラムは4月8日よりスタートします。昨年度は北海道大学や小樽商科大学に加え、東京大学や大阪公立大学、名古屋市立大学の学生も新たに参加していただきました。来年度は過去5年間の同窓生ネットワークも活用し、より良いプログラムとなることを期待しています。

詳細に関しましては、産学・地域協働推進機構ＤＥＭＯＬＡ事務局（demola@mcip.hokudai.ac.jp）までお問い合わせください。

（産学・地域協働推進機構）

チームによるディスカッション

ワークショップの様子


意見交換を行う様子

発表を共有する様子

「スタートアップトークイベント HOKKAIDO INNOVATION HUNTER」を開催

3月10日(金)に北海道スタートアップ創出プラットフォームHSFCがスタートアップトークイベント「HOKKAIDO INNOVATION HUNTER」を開催しました。トークイベントはフィンランド・モンゴルなど海外の事例、女性の起業を阻む壁、学生の主張など様々なテーマで実施されました。海外の事例のトークセッションではフィンランドからDEMOLA Global Oy CEO Ville Kairamo氏とDIMECC Oy Chief Business Development Officer Tomi Kankainen氏が来日し、フィンランドのスタートアップ事情について語っていただきました。

女性起業家のトークセッションでは、結婚や出産、子育てなど「ライフイベントと仕事の関係」のように、男性とは少し異なる視点からの話題が上がり、会場では大変多くの共感が集まりました。また学生のトークセッションでは「起業と学業の両立が難しい。」「もっと多くの学生がアントレプレナーシップ教育を受けられるようにしてほしい。」など、経験者からのリアルな声が寄せられました。

トークイベント終了後には学生によるビジネスピッチが行われ、6組がピッチを実施しました。学生ピッチでは本学の他に、北海道情報大学や北海学園大学からも参加者が集まり、中には英語で行われるピッチもありました。ピッチ後には質疑応答にて盛んに議論が行われ、会場は盛り上がりを見せました。

HSFC（Hokkaido Startup Future Creation development by mutual support networks）は本学が主幹機関を務める、大学等発開発型スタートアップ創出のためのプラットフォームです。北海道内に広域に点在する15大学と4高専、そして複数の関係機関から組織されています。

本イベントではHSFCのネットワークを活用し、北海道内関係機関の方、北海道内の起業家、全道の学生など様々な方に協力していただきました。今後も関係機関と連携を密にしてイベントを実施し、北海道内のスタートアップ創出に貢献してまいります。

HOKKAIDO INNOVATION HUNTERは北海道のスタートアップエコシステム形成に向けて、様々な関係者から意見を募るべく開催されました。イベントでは海外、女性、学生など、様々な関係者からお話しを伺うことができました。HSFCでは今後も北海道スタートアップエコシステム形成に向けて様々なイベントを企画していきます。

詳細に関しましては、産学・地域協働推進機構ＤＥＭＯＬＡ事務局（demola@mcip.hokudai.ac.jp）までお問い合わせください。

（産学・地域協働推進機構）

フィンランドのスタートアップ事情のセッションの様子

会場の様子

学生セッションの様子

女性の起業に関するセッションの様子

北海道Society5.0みらい創造ワークショップ最終報告会を実施

産学・地域協働推進機構では、SCSK北海道株式会社（本社：北海道札幌市 代表取締役社長：梶田清隆）と連携のうえ、2022年10月より起業機会創出並びに起業人材育成に向け「北海道Society5.0みらい創造ワークショップ」を実施してきました。2023年3月18日（土）には取組の集大成として、本ワークショップの参加者によるビジネスプランの最終報告会を開催しました。

みらい創造ワークショップでは、北海道に在住する、最先端のデジタル技術に興味・関心を持つ方々を主な対象として、全8回の講義やワークショップを実施し、起業に向けたサポートを実施してきました。参加者同士が相互に知識やスキルを促進しあう関係を作り、自発的なビジネスアイデアの創出につなげることを目的としています。SCSK北海道株式会社と北海道大学産学・地域協働推進機構が主催し、北海道、札幌市、函館市、長沼町など様々な地域・自治体や空知信用金庫といった金融機関からご後援をいただき、実施しました。

講義では本学の教員に加え、小樽商科大学や旭川医科大学など様々な専門家や実務家にご協力いただき、北海道地域の叡智を合わせて臨みました。また、函館市にも開催会場を設け、同時配信を活用した2拠点で実施しました。大学生、大学院生、研究者、社会人を含む31名が参加しました。最終発表では、8チームがビジネスプランを発表し、6名の審査員の方からご講評をいただきました。最優秀賞は本学水産学部の教員・大学院生・学部生・OBで構成されるチームAQSIM（アクシム）の海産物養殖シミュレーションのプランが受賞しました。優秀賞は、本学保健科学院の大学院生と社会人で構成された家族のための健康管理プラットフォームのビジネスを考案したチームが受賞しました。特別賞には、本学留学生と教員からなる外国人情報共有プラットフォームのプランが輝きました。参加チームは、プランの社会実装化に向け、更なるブラッシュアップを続けていきます。

（産学・地域協働推進機構）

最優秀賞受賞チーム

優秀賞受賞チーム

発表を行う様子

審査員の皆様

G7気候・エネルギー・環境大臣会合プレイベント「ゼロカーボン社会に向けた大学と地域との連携 ～地球温暖化の防止、生物多様性の確保などSDGsの推進に向けて～」を開催

3月13日（月）に、学術交流会館にて、「ゼロカーボン社会に向けた大学と地域との連携 ～地球温暖化の防止、生物多様性の確保などSDGsの推進に向けて～」を開催しました。

本イベントは、4月15日（土）と16日（日）に札幌市で開催される、G7気候・エネルギー・環境大臣会合のプレイベントとして、ゼロカーボン社会に向けた本学と地域をはじめとする関係機関等との連携をテーマに、世界の課題解決への貢献について考える機会として、オンラインで開催しました。

イベントは、新渡戸カレッジフェローの森　順子フリーアナウンサーが司会を務め、最初に寳金清博総長の開会挨拶がありました。その後、北海道の鈴木直道知事と札幌市の秋元克広市長からそれぞれ来賓挨拶をいただきました。

続いて、昭和63年に本学工学研究科を修了された和田篤也環境事務次官から、カーボンニュートラルとネイチャーポジティブによる地域の未来像をテーマに基調講演が行われ、北海道は、産学官の多様な組織・人材の宝庫でもあり、社会変革にチャレンジする精神と、地域循環共生圏という未来像を担う人材の育成が北海道にある大学の真骨頂である旨お話をされました。

その後、横田　篤理事・副学長、北海道環境生活部今井太志ゼロカーボン推進監、札幌市吉岡　亨副市長、国連大学サステイナビリティ高等研究所山口しのぶ所長、総合地球環境学研究所山極壽一所長から、それぞれ講演があり、最後に、閉会の挨拶として、川野辺創国際連携機構副機構長から、本学がゼロカーボン社会に向けて地域コミュニティを巻き込んだ社会全体での取組みを進め、変革をリードし、サステイナビリティ分野の大学等の国内外のネットワークハブを担っていきたいと述べられ、イベントは終了しました。

本イベントは、学内外から220名以上の方々の登録者を得て開催しました。参加された皆様に感謝申し上げます。

（サステイナビリティ推進機構）

開会挨拶をする寳金総長

基調講演を行う和田環境事務次官

集合写真（来賓、登壇者等）

当日のプログラム

基調講演

和田篤也環境事務次官
　「カーボンニュートラルとネイチャーポジティブによる地域の未来像」

講演

北海道大学　横田　篤理事・副学長（国際、SDGs担当）
　「北海道大学におけるSDGsとカーボンニュートラル」
北海道環境生活部　今井太志ゼロカーボン推進監
　「『ゼロカーボン北海道』の取組について」
札幌市　吉岡　亨副市長
　「札幌市の脱炭素化に向けた取組　～ゼロカーボン都市「環境首都・SAPP_RO」を目指して～」
国連大学サステイナビリティ高等研究所　山口しのぶ所長
　「国連大学のグローバルネットワークを通じた地域連携の取組」
総合地球環境学研究所　山極壽一所長
　「ゼロカーボン社会と総合地球環境学」

「国民との科学・技術対話」支援事業　アカデミックファンタジスタ 札幌日大高校にて4名の研究者が講義を実施

2月22日（水）札幌日大高校にて、4名の研究者が講義を行いました。

日　　時：2023年2月22日（水）13：35－14：35、14：50－15：50
会　　場：札幌日本大学高等学校
参加生徒：1年生　約60名

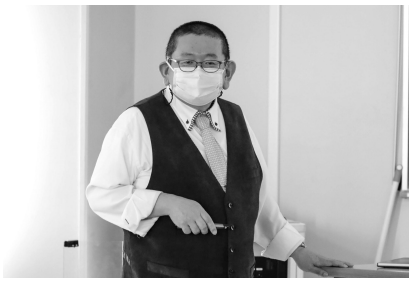
「放射線・放射能の科学」　工学研究院　教授　小崎　完

放射線や原子力の性質や、エネルギーの大きさについて、ゴジラの食事などに例えながら分かりやすく解説しました。また、北大から放射線検出器を持参し、生徒たちに塩や昆布の中に含まれる天然の放射性物質の放射線を計測してもらいました。さらに、小崎教授たちが取り組む福島第一原子力発電所の廃炉や、放射性廃棄物の処理・処分に関する研究例を紹介しました。

放射線について解説する小崎教授

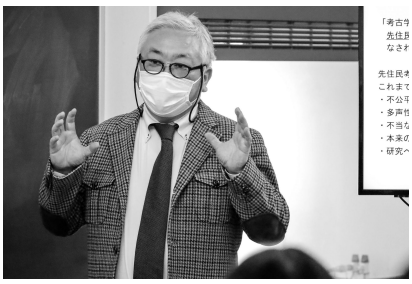
「漸化式を使って様々な現象を数式にしてみよう」　電子科学研究所附属社会創造数学研究センター　教授　長山雅晴

様々な現象を、理論的に理解するために数式で表現する「数理モデリング」について研究している長山教授。最近では、糖尿病の未病を理解するために血糖値の変化を数式にしているといいます。講義では、メトロノームや、ろうそくの炎の同期現象について、数理モデルから新たな現象を発見した事例について実験動画を交えながら紹介しました。また、感染症流行モデルや基本再生産数などニュースで良く耳にした内容についても解説もしました。


数理モデルについて解説する長山教授

「いま学ぶアイヌ民族の歴史：先住民研究で文化的多様性を考える」　アイヌ・先住民研究センター　教授　加藤博文

北海道の歴史を、従来の基本的な考え方や、国家の歴史に当てはめて調べると、見落としてしまうことが多いと話す加藤教授。既存の理論や方法を見直し、新しいものを増やしていくのが研究であると生徒たちへ説明しました。世界の歴史にも注目し、国境を越えた人類史の多様性を知ることができる先住民考古学。生徒たちは、アイヌ民族の歴史を調べることで文化的多様性を学ぶことができる考古学や人類学に、強い興味を示していました。


民族の多様性について説明する加藤教授

「動物問題は人間問題」　大学院教育推進機構 CoSTEP　特任講師　池田貴子

エキノコックス感染症は、人間を恐れない都市ギツネによって感染リスクが高まります。池田特任講師は感染の予防策として、都市公園と協働でベイト（駆虫薬入りの餌）を散布したり、地域対話を通して野生動物との共生について考える活動を行っています。講義では、都市ギツネの生態やエキノコックスについて解説し、公園でワークショップを開催したり学生とともに教材の動画や絵本制作に取り組む様子などを紹介しました。最後には、棲み分ける、交わらないことも共生であると、生徒たちへメッセージを伝えました。

都市キツネの生態について解説する池田特任講師

アカデミックファンタジスタとは？

北海道大学の研究者が知の最前線を出張講義や現場体験を通して高校生などに伝える事業、「アカデミックファンタジスタ（Academic Fantasista）」。内閣府が推進する「国民との科学・技術対話」の一環として、北海道新聞社の協力のもと2012年から継続的に実施しています。2022年度はコロナ対策を十分に行って、札幌近郊の高校等を対象に22名の教員が講義を実施しました。

北大の研究を発信するウェブマガジン「リサーチタイムズ」や、Facebookでも講義レポート等を随時更新中です。こちらもぜひご覧ください。

・リサーチタイムズ
https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/academic-fantasista/

・Facebook
@Hokkaido.univ.taiwa

（広報・社会連携本部
広報・コミュニケーション部門）

リサーチタイムズ

フェイスブック

「研究者のためのスキルアップセミナー⑯ 伝えたいことを3分プレゼンにまとめるコツ」を開催

3月2日（木）、オンラインと対面で「研究者のためのスキルアップセミナー⑯ 伝えたいことを3分プレゼンにまとめるコツ」を開催しました。今回で16回目を迎えた本セミナーでは、サイエンスコミュニケーターとして活躍する株式会社スペースタイム代表取締役の中村景子氏を講師に迎え、教職員や学生など120名が参加しました（オンライン：101名、対面：19名）。

「伝える相手を意識することが重要です」と中村氏は話し、魅力的なタイトルと、短い文章で伝えたいことをまとめるコツを解説しました。中村氏の講演後、参加者たちは事前配布されたワークシートをもとに、伝えたいことを整理する個人ワークに取り組みました。また会場では、希望者に講師から直接アドバイスを受ける機会が設けられました。

アンケートでは、「実用的なアドバイスを頂けて、大変ためになった」、「他の受講者の制作物の講評が参考になった」などの意見がありました。

（広報・社会連携本部
広報・コミュニケーション部門）

研究者のためのスキルアップセミナー⑯ 伝えたいことを3分プレゼンにまとめるコツ

日　　時：令和5年3月2日（木）18：00－20：10
開催形式：ハイブリッド開催
会　　場：学術交流会館 1階 第1会議室、オンライン（ZOOM）

講師の中村氏

個人ワークに取り組む参加者たち

▌部局ニュース

経済学院がベスト・チューター賞授与式を開催

経済学院では、令和元年度から、教育・研究の国際化及び留学生支援を促進することを目的として、優れたチューターに対して「ベスト・チューター賞」を授与してきました。今年度は、最優秀賞に学士課程4年生の柳谷壮良実さん、優秀賞に博士後期課程2年生のハサノフ　ショフルフさんが選出され、3月23日（木）に経済学部棟3階大会議室において授与式が行われました。授与式終了後には、経済学研究院長や国際交流委員長を交えて、留学生支援のあり方について意見交換を行ない、次年度に向けての留意点や改善点などを検討しました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）

意見交換会の様子

受賞者との記念撮影

令和4年度北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム修了式を開催

3月10日（金）、北海道大学物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム（ALP）8名の修了式が、理学部大会議室にて執り行われました。ALPとは物質科学を中心に分野横断的に学び、社会人として高い能力を養い、学位取得後には学術・研究機関だけではなく民間企業など社会の広い分野で国際的に活躍する人材を育成するための博士課程大学院教育プログラムです。令和2年3月に文部科学省の補助金事業としての補助期間は終了しましたが、北大の事業として継続して活動しています。修了証書授与のあと、山口淳二理事・副学長（プログラム責任者）と石森浩一郎教授（プログラムコーディネーター・副学長）より祝辞がありました。

会場となったのは90年以上の歴史がある理学部本館大会議室です。第4期～第5期生として修了した8名は、約5年間のプログラムを振り返り、身につけた能力やスキル、異分野の仲間との絆の大切さについて、一人ずつ答辞を述べました。堂々とした挨拶に会場から大きな拍手が送られました。

詳細はウェブマガジンPh.Discover https://phdiscover.jp/phd/article/1894 をご覧ください。

（総合化学院・理学院・工学院・環境科学院・生命科学院）

修了式の様子

山口理事・副学長の祝辞

石森コーディネーターの挨拶

修了生集合写真

理学研究院等にて「スマート物質科学人材育成コンソーシアム特別セミナー」を開催

理学研究院スマート物質科学人材育成コンソーシアムは、3月9日（木）に創成研究機構データ駆動型融合研究創発拠点（D-RED）との共催により、研究におけるDX・データサイエンスの活用に関する特別セミナーを開催しました。

スマート物質科学人材育成コンソーシアムは、企業と大学が連携して高度データ関連人材を育成する場として、文部科学省データ関連人材育成プログラム（D-DRIVE）の支援の下、令和４年度より理学研究院に設置されました。今回は、コンソーシアムに参画いただいている（株）D4cアカデミーより和田陽一郎氏（代表取締役社長兼学長、理学研究院客員教授）をお招きし、「DX？なにそれ？おいしいの？データ駆動型融合研究に関する一考」と題してご講演いただきました。

ご講演では、社会でDXやデータサイエンスがどのように捉えられているのか、大学の研究者がDXを研究に取り入れていくには何を考えたら良いか、そして、和田氏の考える「データ駆動型融合研究」の姿について、工学院博士課程の棚橋さんとの共同研究（インターンシップ）の事例を交えて、お話しいただきました。

Zoomを用いたハイフレックス形式で開催されたセミナーには、百年記念会館のオンサイト会場に18名、またオンラインにて20名を超える参加があり、オンサイト会場ではセミナー終了後に設けたコミュニケーションタイムにおいて和田氏に熱心に質問する参加者の姿も見られました。参加者からは、「DXについて誰もが理解できるようにさらっとお話ししてくださったので、とても分かりやすかった」「DXは便利そうだが敷居が高そうだと思っていたが、そうではないことを教えていただき、是非今後、取り組んでみたいと思った」といった感想が寄せられました。コンソーシアムでは、今後もこのような講演会を継続して開催し、高度データ関連人材の育成に努めます。

（理学研究院）

講演を行う和田氏

セミナー会場の様子

生命科学院博士後期課程科目「少人数討論型育成プログラム」（北大帝人ブレーンストーミングワークショップ）を実施

博士後期課程を対象とした生命科学院選択科目及び共通授業科目として、帝人株式会社と連携して「少人数討論型育成プログラム」（北大帝人ブレーンストーミングワークショップ）を実施しました。本講義は平成19年度に初めて開講され、今回で16年目を迎えました。今年度は令和4年10月24日（月）から同5年2月21日（火）までの間に全10回のワークショップとして開講され、先端生命科学研究院の石原誠一郎助教が担当し、2名の博士後期課程の学生（生命科学院1名、工学院1名）が受講しました。今年は対面とオンラインを併せたハイブリッド形式で実施しました。

本講義では産学連携によるワークショップ形式の授業を通じて、少人数でアイデアを創出する方法論を学び、新規技術に関するアイデアを各履修者がまとめ上げ、プレゼンテーションを行うことを目標としました。また帝人株式会社から実際に研究開発に携わっているご担当者の方をお呼びし、マーケティングや企業における研究開発についてご講義いただきました。これらを通して、アイデア創出力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成を目指しました。

全10回のワークショップのうち計8回でアイデアの創出とプレゼンテーションのブラッシュアップを行いました。1月16日（月）には、帝人株式会社から3名のご担当者様をお迎えしてワークショップを開催しました。受講生がアイデアについて中間発表を行って内容について議論するとともに、マーケティングについての基礎と企業で研究開発を行う上で鍵となるポイントについて、帝人株式会社における研究開発の実例を挙げてご講義いただきました。2月21日（火）には東京の帝人株式会社本社にて最終報告会を開催しました。受講生はテイジン未来スタジオにて帝人株式会社の開発した商品について学ぶとともに、各自のアイデアについて最終発表を行い、帝人株式会社のご担当者様から多くのコメントや質問をいただきました。さらに、受講生の将来や進路についてもご担当者様から多くのご助言をいただきました。

本講義を進める上でお力添えいただいた帝人株式会社のご担当者様をはじめ、ご協力いただいた全ての方々に感謝します。受講生の皆様がこの経験を活かし、産学含め、どの進路に進むとしても大いにご活躍いただけることを祈っています。

（生命科学院・先端生命科学研究院）

帝人株式会社本社での最終報告会の様子

総合博物館で第15回「卒論ポスター発表会」を開催

総合博物館では独自の教育プログラム「ミュージアムマイスター認定コース」の一環として、平成20年度より「卒論ポスター発表会」を開催しています。学部4年生が卒業研究をA0サイズ1枚のポスターにまとめて、さまざまな年代の市民や観光客の方々、他分野の学生や教職員にわかりやすく発表し、質問に受け答えします。北大生の研究を広く社会に伝えるだけではなく、学生のコミュニケーション能力の向上や他分野の研究への関心の喚起を図ることを目的としています。

15回目を迎えた今年度は、3月4日（土）・5日（日）に博物館1階「知の交流」ホールにて新型コロナウイルス感染防止対策を行ったうえで開催されました。

ポスターとホームページで発表者を募集した結果、理学部・工学部から5名が参加しました。発表者は、卒業研究を市民に発表するために見直し、他学部の発表者や博物館担当教員と議論する中間発表会3回とリハーサルを通して、専門分野外の方々にも伝わるようにポスターの内容やデザイン、発表方法を学んでいきました。発表会が近づくにつれて緊張気味の学生たちでしたが、当日はお客様の鋭い質問に丁寧に答えたり、後ろの列に座った方にも目線を投げかけ説明について不明な点はないか確かめたりと柔軟に対応していました。学生たちの研究に興味を持たれ、積極的にご質問を投げかける方々の姿も数多く見られました。発表会の運営には理学部・工学部・総合教育部・文学部から7名が参加しました。運営スタッフとして発表会の広報、プログラム作成、会場運営などを進め、会場の設営ではポスターの配置からライティング、また室内の換気に至るまで柔軟に対応し、発表会当日には受付や後述する各賞の授賞式の司会を担当しました。最終日には、2日間の来場者の投票による「来館者賞」、市民5名と本学教職員5名から成る審査員の評価による「最優秀賞」、ミュージアムマイスター6名が選定する「ミュージアムマイスター賞」が決定された他、昨年度新設されたSDGs賞が選定されました。5名の発表者の審査は大変拮抗し、審議の結果、今年度は特別に優秀賞を設けることとなりました。発表会2日目に行われた授賞式では、発表者全員に賞状と記念品が授与されました。

（総合博物館）

来場者に向けて説明する発表者たち

発表会当日の会場風景

終了後の記念撮影

発表者と発表題目；

1. 伊藤政矩　（理学部）
「カムイサウルスとヤマトサウルスは何を食べていたのか？～歯の傷から生態を探る～」

2. 増田啓佑　（工学部）
「北海道大学旧札幌農学校図書館の変遷と現況」

3. 矢倉鉄平　（理学部）
「イグアノドン類の尾端骨様化石の結合過程の推定～しっぽの先端に隠された新種の可能性～」

4. 髙橋　陸　（工学部）
「札幌市新川地区の三角屋根住宅群がつくる街並み」

5. 大野真緒　（理学部）
「むかわ町穂別産の頭の化石はサメ？エイ？」

運営担当学生：

幸　一尋（文学部3年）・荒川大地（理学部2年）・柿澤彩花（工学部3年）・木元友理香（工学部3年）・田口駿登（工学部2年）・佐藤　英（総合教育部1年）・徳井　翠（総合教育部1年）

受賞者：

最優秀賞　　増田啓佑（工学部 環境社会工学科）
優秀賞　　矢倉鉄平（理学部 地球惑星科学科）
マイスター賞　伊藤政矩（理学部 地球惑星科学科）
SDGｓ賞　　髙橋　陸（工学部 環境社会工学科）
来館者賞　　大野真緒（理学部 地球惑星科学科）

審査員一覧

教職員審査員（敬称略）：

小澤丈夫　（北海道大学総合博物館 館長・北海道大学大学院工学研究院 教授）
内田　努　（北海道大学大学院工学研究院 准教授）
高橋英樹　（北海道大学 名誉教授・北海道大学総合博物館 資料部研究員）
出村　誠　（北海道大学先端生命科学研究院 / 北海道大学生命科学院 / 北海道大学理学部 教授）
山内彩加林　（北海道大学低温研究所 助教）

市民審査員（敬称略）：

浅野目祥子　（NPO法人手と手 代表理事・ミュージアムカフェぽらす/ミュージアムショップぽとろ 代表）
中道洋友　（北海道札幌北高等学校 教諭）
西村卓也　（北海道新聞社 論説主幹）
藤田良治　（愛知淑徳大学創造表現学部 准教授）
矢野ひろ　（北海道遺産協議会 理事）

ミュージアムマイスター審査員（敬称略）：

太田　晶　（むかわ町経済恐竜ワールド戦略室）
押野祐大　（北海道中標津高等学校 教諭・北海道大学環境科学院 博士後期課程3年）
遠藤　優　（北海道大学理学院 博士後期課程2年）
高田健太郎　（北海道大学理学院 博士後期課程1年）
佐々木悠貴　（北海道大学工学院 修士課程2年）
大藪隼平　（北海道大学理学院 修士課程2年）

担当：

北野 一平・小林 快次・湯浅 万紀子・市來 紗都子・渡邉 洋子（総合博物館）
発表会当日の様子や参加した学生の事後考察レポートは当館ホームページで公開しています。
https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/list/18939/

医学部が令和4年度最終講義・退職記念式典を挙行

医学部では、3月13日（月）、医学部学友会館「フラテ」ホールにて、最終講義・退職記念式典を挙行しました。

最終講義終了後に引き続き行われた退職記念式典では、畠山鎮次研究院長、浅香正博同窓会会長、及び教授会代表者として久住一郎教授から挨拶がありました。続いて、長年の功績をたたえ、感謝の意を込めて、医学部医学科学友会畠山会長と医学部同窓会浅香会長から記念品が、また、学友会、保健センター、消化器内科学教室、血液内科学教室及び血液内科同門会からは花束が贈呈されました。

退職者
保健センター　橋野　聡　教授
最終講義題目
「治療医学から予防医学へ」

（医学研究院）

最終講義をする橋野教授

関係者による記念撮影

薬学研究院が「第16回薬学研究院研究発表会」を開催

薬学研究院では3月8日（水）に「第16回薬学研究院研究発表会」を開催しました。本発表会は、教員のプレゼンテーション能力向上及び、他分野の研究に関する理解を深めることによる共同研究の活性化を目的として、平成24年度に始まりました。新型コロナ感染予防のためしばらく開催を見合わせていましたが、昨年度にリモート形式で再開し、今年度は対面開催にて実施にいたりました。

発表会は、木原章雄薬学研究院長による開会の挨拶の後、薬剤分子設計学研究室の佐藤悠介助教による「脂質ナノ粒子製剤によるin vivo高分子送達」と題する発表及び、創薬有機化学研究室の渡邉瑞貴准教授による「分子のカタチを整える～シクロプロパンの可能性～」と題する2件の発表が行われました。

薬学研究院の教員47名が参加し、発表の研究分野を問わず、様々な分野の教員との質疑が行われました。異分野の教員が参加する中、発表者自身の研究に対する知見を拡大する大変活発な会となりました。次回は令和5年8月に開催予定です。

（薬学研究院・薬学部）

第16回薬学研究院研究発表会

日時：2023年3月8日（水）13:00－

13:00－13:05　開会の挨拶　木原章雄（薬学研究院長）

13:05－14:15　研究発表
座長 勝山彬（創薬センター・有機合成医薬学部門）

13:05－13:35　脂質ナノ粒子製剤によるin vivo高分子送達
佐藤悠介（薬剤分子設計学研究室・助教）

13:35－14:15　分子のカタチを整える ～シクロプロパンの可能性～
渡邉瑞貴（創薬有機化学研究室・准教授）

第16回薬学研究院研究発表会プログラム

令和4年度第2回農学研究院FD研修会を開催

農学研究院では、3月2日（木）に農学部大講堂にて、令和4年度第2回FD研修会を開催しました。幸田圭一教務委員による開会挨拶の後、「北大の障害学生支援を取り巻く現状と合理的配慮の実際」をテーマに、学生相談総合センター副センター長・アクセシビリティ支援室長の榊原佐和子先生による講演がありました。障害を持つ学生や、北大における対応事例の現状を皮切りに、教育的配慮と障害者差別解消法に基づく「合理的配慮」に関する基本的な考え方が前半で紹介され、大学の教育現場で進められている合理的配慮の申請手続や、その場で今後も進められるべき建設的対話に関する示唆などのお話がありました。後半では、応用的な対応事例も交えて幅広くお話がありました。

冒頭部のアクセシビリティ支援室の紹介では、同支援室が障害のある学生に対する個別相談業務といったソフト面を担うとともに、そうした支援に必要な環境整備（人的・設備的・情報組織的）といったハード面も担っている点を北大における豊富な事例と共に紹介がありました。次に「大学における合理的配慮」に話が進み、配慮に当たっては、障害のある学生からの意思表明がまず必要であること、また、実施に伴う負担を勘案しながら、社会的障壁を取り除くために必要かつ合理的な配慮が法的にも求められていること、といった基本事項をお話がありました。「発達障害」が話題に上ることが多くなった昨今ですが、程度の差はあれ、「ものの見え方、注意が向かう方向性」が、多くの「定型発達者」とは異なる人たちが潜在的にも一定数存在し、子供時代に発達障害の傾向が顕著でなく、被支援経験のなかった人たちが、成人後（例えば大学入学後）に深刻な「生きづらさ」を抱えてしまう場合があるなど、まず認識を共有しておきたい点の説明がありました。後半、合理的配慮を求める申請があった場合の対応についてのお話では、実際に対応経験のある教員の関心が集まり、「学部や研究室レベルでどこまで対応したら良いのか」「実験系での対応はどのようにしたら良いのか」「対応できることとできないことが書類上併記されているので、改善して欲しい」といった質問が講演後に寄せられ、活発な質疑応答がありました。

榊原先生には、講演会に限らずワークショップの開催や様々な支援・連携体制の構築等を提案いただきました。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

（農学院・農学研究院・農学部）

幸田教務委員の開会の挨拶

榊原先生の講演の様子

国際広報メディア・観光学院にて留学生（研究生）説明会を実施

国際広報メディア・観光学院では、2月19日（日）に留学生向け説明会を実施しました。

今年は3年ぶりに対面（とオンラインのハイブリット）で、韓国・ソウルの会場での開催となり、約60名（対面5名、オンライン約55名）の参加がありました。加えて、在学生3名と修了生5名も参加しました。

河合　靖学院長の挨拶に続き、例年通り、大学院の全体説明、研究生と大学院生としての学修システム、本研究院独自の書類審査応募の注意点など、留学希望者にとって必要な情報が提供されました。

また、今回も在学生と修了生による、自らの体験をもとにした留学や学修に関するアドバイスを行いました。

360度webカメラを利用した全体説明とZOOMを利用した個別相談においては、広報、メディア、観光、公共ジャーナリズム、言語などの分野に別れて質疑応答の時間が設けられました。

説明会終了後に行った参加者アンケートでは、教員による親切な対応と分かりやすい説明、在学生・修了生によるアドバイス、韓国語・中国語での対応などについて評価をいただきました。今年は、以前のような北京や上海での現地開催は叶いませんでしたが、今後も対面とオンラインのそれぞれの強みを生かして、様々な地域で説明会を開催していければと考えています。

（国際広報メディア・観光学院）

参加者集合写真

生物生産研究農場生産の鶏卵をホテルの朝食メニューに提供

北方生物圏フィールド科学センターの生物生産研究農場（以下、農場）で生産された鶏卵が、4月1日より期間限定で京王プレリアホテル札幌の朝食メニューとして提供されました。

これは北海道大学の卒業・入学を記念し、農場で生産する鶏卵を「北海道大学卒業卵」と称し、創作されたメニュー3品を朝食ブッフェにて1品ずつ日替わりで提供するものです。

メニューは、オードブルが「北海道大学卒業卵のエッグベネディクト プレリアスタイル」、メインは「北海道大学卒業卵のロワイヤル ブイヤベース仕立て」、デザートは「北海道大学卒業卵の生フレンチトースト」です。

この取り組みは令和2年6月から農場の「北大牛乳」を用いた朝食定番スイーツや、令和3年7月に静内研究牧場の「北大短角牛」を用いた限定メニュー、令和4年11月に農場や余市果樹園の野菜や果物などの「北大食材」を組み合わせた限定メニューなどのシリーズの一環で、京王プレリアホテル札幌を通じて本学のフィールドで生産された食材の情報発信を継続的に行っています。

今後も北方生物圏フィールド科学センターでは教育・研究の成果としての生産品や、フィールドで産出される資源の有効活用に取り組んでいきます。

プレスリリース：
https://www.hokudai.ac.jp/news/pdf/230316_pr3.pdf

（北方生物圏フィールド科学センター）

左から時計回りにエッグベネディクト、ロワイヤル、フレンチトースト

脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第19期修了生に修了証書授与

3月23日（木）、本学修士・専門職学位・博士学位授与式後に、医学部百年記念館大会議室において、脳科学研究教育センターが設置する発達脳科学専攻教育プログラム修了生に対し、田中真樹センター長から修了証書が授与されました。

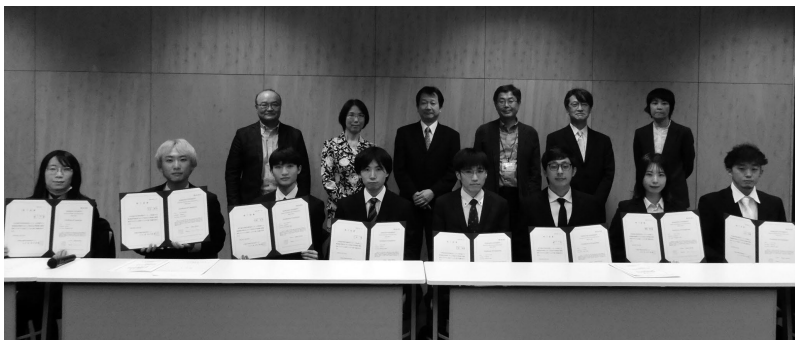
今年度は第19期生として、修士課程10名（喬 ア楠：文学院、平山詠大、辻万里奈：教育学院、白旗洸太、千田 輝：生命科学院、大西祥貴、韓 宇、米田菜乃：保健科学院、都築明日香、久井漱誠：医学院）が所属学院の学位取得に加えて発達脳科学専攻の定める修了要件を満たし、修了が認定されました。

センターでは、脳科学に関する大学院共通授業科目の開設に加え、研究分野の垣根を越えた融合的研究指導の一環として、札幌近郊での合宿研修、脳科学シンポジウムの開催、複数部局の基幹教員による修了論文の審査などを行っています。中でも、合宿研修や修了論文の公開発表会では、できるだけ専門用語を使わず、他専攻の院生・教員に自分の研究を分かりやすく紹介し、議論することを重視しています。

発達脳科学専攻は、文理融合型の脳科学研究のバーチャル専攻として、平成15年度に発足しました。令和5年度からは従来のグループ制を廃止するとともに「脳科学専攻」と専攻名称を変更し、より柔軟な研究交流を加速させ、学内6学院にわたる大学院生を対象として複雑な機能をもつ脳に関した分野融合的な教育プログラムを提供し、広い視野をもった次世代を担う人材の育成を進めています。これまでに修士課程131名及び博士（後期）課程26名、計157名の修了生を送り出しています。

（脳科学研究教育センター）

田中センター長から修了証書の授与



今年度の修了生と基幹教員

▌お知らせ

令和5年度人間ドック・特定健康診査の実施について

文部科学省共済組合北海道大学支部では、文部科学省共済組合本部の指導の下、保健事業の一環として健康管理の推進を目的に人間ドック・特定健康診査を次のとおり実施しております（任意継続組合員を含む）。

なお、受付等については専門業者へ外部委託となり、組合員が直接文部科学省共済組合ホームページから申込みしていただくこととなります。

1. 申込期間

2024年1月10日（水）まで

2. 受診期限

2024年1月31日（水）まで

3. 対 象 者

①人間ドック

2023年4月1日現在満35歳以上となる組合員及びその被扶養配偶者、任意継続組合員本人及びその被扶養配偶者

②特定健診

2024年3月31日までに40歳以上となる組合員の被扶養者、任意継続組合員本人及びその被扶養者

③生活習慣病予防健診

2024年3月31日までに40歳以上となる組合員の被扶養者、任意継続組合員本人及びその被扶養者

※人間ドック、特定健診、生活習慣病予防健診は、受診期限内にいずれか1回受診できます。

※特定健診、生活習慣病予防健診は、組合員は受診できません。
（任意継続組合員は除く。）

※申込日及び受診日の両時点において、組合員資格または被扶養者資格があることをご確認ください。

4. 補助額

①人間ドック

共済組合が指定する健診機関での受診に限り、

組合員（任意継続を含む）　30,000円（上限・税込）

被扶養配偶者（任意継続を含む）　25,000円（上限・税込）

※補助額を超えた料金は、自己負担となります。

※オプション検査料は、ドック本体料金と合わせ、補助額を超過した分は自己負担になります。

※受診料の自己負担額は、当日医療機関で支払います。

②特定健診

共済組合が指定する健診機関での受診に限り、全額補助（自己負担なし）

③生活習慣病予防健診

共済組合が指定する健診機関での受診に限り、全額補助（自己負担なし）

※オプション検査料は、全額自己負担となります。

※受診料の自己負担額は、当日医療機関で支払います。

5. 申込方法　※本年度より一部変更あり

文部科学省共済組合ホームページ内の「ベネフィット・ステーション」よりお申し込み願います。事前に「ベネアカウント」の登録が必要となります。ご不明な点は所属部局等の担当事務へお問い合わせ願います。

健診申込方法は「人間ドック・特定健康診査のご案内」をご確認願います。

6. 個人情報について

平成20年度から健康保険組合に「特定健康診査」が義務づけられたことに伴い、今回実施する健康診断結果のうち、法定健診及び特定健診項目に関する診断内容及び問診結果等の個人情報については保有・利用させていただきます（目的外利用はいたしません）。

健診お問い合わせ先

（株）ベネフィットワン・ヘルスケア健診予約受付センター

ＴＥＬ　0800-8888-009（フリーコール）

受付時間：平日10～20時、土日10～17時、祝日・年末年始休

文部科学省共済組合HP　http://www.monkakyosai.or.jp

（文部科学省共済組合北海道大学支部）

▌博士学位記授与

3月23日（木）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は315人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は8人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

（学務部学務企画課）

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（法学）	髙波（たかなみ） 千代子（ちよこ）	重度障害児者の母親の権利保障－障害福祉制度における社会関係モデルの導入可能性－ 主査：准教授　川久保　寛
博士（水産科学）	賈（カ）川（センチュアン）	Study on the monitoring methods for early warning of harmful organisms such as jellyfish and macroalgae near the water intake of the nuclear power plant （原子力発電所取水口の周辺海域におけるクラゲ類・海藻類等有害生物の早期警戒のためのモニタリング手法に関する研究） 主査：教授　向井　徹
	酒井（さかい） 健一（けんいち）	漁家経営の持続安定化に向けた小型底びき網漁業の省エネ・省力化に関する研究 主査：教授　藤森　康澄
	長野（ながの） 晃輔（こうすけ）	青森県周辺海域におけるミズダコ漁業の改良と漁獲量予測に関する研究 主査：教授　藤森　康澄
	村松（むらまつ） 美幌（みほろ）	Subsurface warming process associated with Pacific Summer Water transport north of the Chukchi shelf in the Arctic Ocean （チュクチ海北方域における太平洋夏季水の輸送に伴う亜表層貯熱量の増加過程） 主査：教授　綿貫　豊
	山田（やまだ） 寛之（ひろゆき）	Evolution reducing downstream displacement in juvenile salmonids （サケ科魚類の稚魚における流下を抑制する進化） 主査：教授　綿貫　豊
	王（ワン） 栄夫（ロンフ）	Trophic ecology of Pacific cod *Gadus macrocephalus* off the southern and northeastern coasts of Hokkaido （北海道南岸および北東岸沖合におけるマダラ*Gadus macrocephalus*の栄養生態に関する研究） 主査：教授　高津　哲也
	Ulfah（ウルファ） Amalia（アマリア）	Study on Potential Allergenicity of *TERASI*, Indonesian Shrimp Seasoning, and its Reduction by Processing Technology （インドネシア産エビ調味料テラシのアレルギー誘発性と加工技術による低減化に関する研究） 主査：教授　山﨑　浩司
	柴田（しばた） 季子（きこ）	クローン生殖を行うドジョウに特異的な遺伝学的マーカーの開発と野生型系統の実験交配による特殊な生殖様式の再現に関する研究 主査：教授　澤辺　智雄
	由比（ゆひ） 智春（ともはる）	キタムラサキウニ（*Mesocentrotus nudus*）の新規卵黄タンパク質であるApolipoprotein B様タンパク質に関する生化学および分子生物学的研究 主査：教授　岸村　栄毅
	楊（ヨウ） 博学（ハクガク）	Study on the functional enhancement of fish collagen by glycation using the Maillard reaction （メイラード反応を用いた糖修飾による魚類コラーゲンの機能性増強に関する研究） 主査：教授　栗原　秀幸
	和根崎（わねざき） 智（さとし）	糖・脂質代謝改善に寄与するβ-コングリシニンおよび魚油併用効果の基礎研究 主査：教授　酒井　隆一
博士（環境科学）	Md.（エムディ） Khorshed（コーシェッド） Alam（アラン）	Structural and functional assessments of hyporheic macroinvertebrates across multiple environmental gradients in rivers of Hokkaido, Japan （北海道河川における複数環境傾度に沿った河床飽和間隙水域無脊椎動物の構造および機能評価） 主査：准教授　根岸　淳二郎

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（環境科学）	デスカラール アンジェム Descallar Angem リブランド Librando	Secondary metabolites produced by endosymbionts of shipworm woodborers (Bivalvia: Teredinidae) along the coast of Hokkaido （北海道沿岸の木材穿孔動物フナクイムシ類（二枚貝綱：フナクイムシ科）の共生生物によって生産される二次代謝産物） 主査：教授　沖野　龍文
	どばし つかさ 土橋　司	Role of marine nitrogen-fixing organisms in the formation of atmospheric reactive nitrogen （大気反応性窒素の放出生成に対する海洋窒素固定生物の役割） 主査：教授　鈴木　光次
	ノゴビチン NOGOVITCYN アレクサンダー ALEKSANDR	The effect of the extreme wet event on the larch forest ecosystem in northeastern Siberia （北東シベリアのカラマツ林生態系に及ぼす湿潤イベントの影響） 主査：教授　山本　正伸
	ハン センリョウ 潘　先亮	Development and application of parameterization techniques for next-generation Southern Ocean oceanographic observations （次世代南大洋海洋観測に対するパラメタリゼーション技術の開発と展開） 主査：准教授　渡辺　豊
	ふかい ゆうり 深井　悠里	Community dynamics and photophysiological capabilities of diatoms in the water column and sediments of the Pacific Arctic region （太平洋側北極海の水柱および堆積物中における珪藻類の群集動態と光生理能力に関する研究） 主査：教授　鈴木　光次
	たけうち たかあき 竹内　猛晶	A study on an interaction between an upper-layer eddy and a bottom topography using a quasi-geostrophic model （準地衡流モデルを用いた上層の渦と海底地形の相互作用に関する研究） 主査：特任教授　久保川　厚
	ユアン ナン Yuan Nan	Cross-shelf overturning in geostrophic-stress-dominant coastal fronts （地衡流シアー応力が卓越する沿岸フロントにおける陸棚上の鉛直循環） 主査：教授　三寺　史夫
	かわかみ かおる 川上　薫	A study on inclusions in ice layers formed by melting and refreezing processes in ice cores （アイスコアに含まれる融解再凍結によって形成された氷板内の不純物に関する研究） 主査：准教授　飯塚　芳徳
	シ ボクシン 史　穆清	Estimating streamflow of the Abashiri River under likely future climate and land use land cover conditions （将来起こりうる気候と土地利用・土地被覆変化による網走川の流出推定） 主査：准教授　白岩　孝行
	つづき よういち 都築　洋一	Theoretical and empirical studies on the roles of life history variation in maintaining genetic diversity in stage-structured perennial plant populations （生育段階構造を持つ多年生植物集団において生活史変異が遺伝的多様性に及ぼす影響の理論的および実証的研究） 主査：教授　大原　雅
	いしだ けん 石田　拳	Effects of ocean current fluctuations on community dynamics in rocky intertidal habitat （海流系変動が岩礁潮間帯ハビタットにおける群集動態に及ぼす効果） 主査：教授　野田　隆史
	シュ ケンキ 朱　妍卉	Study on quantification of commercial fisheries echo sounder information for visualization of fish school distribution in Hyuga-nada, Miyazaki, Japan （日向灘における魚群分布の可視化に向けた漁業用魚群探知機の定量化に関する研究） 主査：教授　宮下　和士
博士（理学）	しまたに はるき 島谷　晴基	On the pulse dynamics for reaction-diffusion systems on one-dimensional domains with various boundary conditions （1次元領域上の反応拡散系に現れるパルスの様々な境界条件下におけるダイナミクスについて） 主査：教授　栄　伸一郎

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（理学）	井上（いのうえ） 天（たかし）	Theory on inelastic photon and neutron scattering in two-dimensional quasiperiodic Heisenberg antiferromagnets （2次元準周期Heisenberg反強磁性体における光子及び中性子の非弾性散乱理論） 主査：教授　山本　昌司
	MUHAMMAD（ムハッマド） REDO（レド） RAMADHAN（ラマダン）	μSR and DFT Investigations Quantum Electronic States of La_2CuO_4 （La_2CuO_4中の量子的電子状態に関するμSRとDFTによる研究） 主査：客員教授　渡邊　功雄
	横田（よこた） 健太（けんた）	Surface atomic-layer superconductors modified by adsorption of organic molecules （有機分子吸着により変調された表面原子層超伝導体の研究） 主査：客員教授　内橋　隆
	石橋（いしばし） 篤季（あつき）	極低温氷表面におけるラジカル反応の高感度非破壊分析装置の開発：氷星間塵上での複雑有機分子形成過程の解明 主査：教授　渡部　直樹
	内田（うちだ） 光（ひかる）	Flavor structure in magnetized orbifold and blow-up manifold compactification （背景磁場入りオービフォルドおよびブローアップ多様体コンパクト化におけるフレーバー構造に関する研究） 主査：教授　小林　達夫
	Elizabeth Jayne（エリザベス ジェーン） Latrobe Iles（ラトロブ アイルス）	Relating The Origins Of Disk Bar Structure To Star Formation And Stellar Dynamics In Simulations Of Resolved Galaxies （円盤銀河のバー構造の起源とその銀河内の星形成と星の動径移動に与える影響について） 主査：教授　岡本　崇
	申（シン） 承憲（スンフン）	α Cluster Structure and Resonance States of ^{13}C （炭素13のアルファクラスター構造と共鳴状態） 主査：教授　木村　真明
	本木（もとき） 英陽（ひであき）	Cluster formation in neutron-rich Be and B isotopes （中性子過剰なBeとB同位体におけるクラスター形成） 主査：教授　木村　真明
	森谷（もりや） 元（はじめ）	Comprehensive study of ^{12}C by precise three-α cluster model wave functions （精密3αクラスター模型波動関数による炭素12原子核の包括的研究） 主査：客員准教授　堀内　渉
	朝日（あさひ） 啓泰（ひろやす）	Organic sedimentological studies on the Miocene turbidites and Holocene paleotsunami deposits of Hokkaido, Japan （北海道の新第三系タービダイトおよび古津波堆積物の有機堆積学的研究） 主査：教授　沢田　健
	池田（いけだ） 雅志（まさし）	Organic geochemical study on the life history of lichen and fungi: Search for the molecular fossils and the reconstruction of fungal flora evolution （地衣類・菌類の有機地球化学的手法による地球生命史研究：分子化石の探索と菌類フロラの変遷史復元） 主査：教授　沢田　健
	井上（いのうえ） 智裕（ともひろ）	Magnetotelluric 法探査による火山の比抵抗構造研究 －マグマ供給系と浅部熱水系のイメージング－ （Study on the electrical resistivity structure of volcanoes based on magnetotellurics – Imaging the magmatic and hydrothermal systems –） 主査：教授　橋本　武志
	小林（こばやし） 航大（こうだい）	Crystallization Kinetics of Amorphous Silicate and Alumina Dust in Protoplanetary Disks （原始惑星系円盤における非晶質ケイ酸塩およびアルミナダストの結晶化速度論） 主査：教授　坂本　尚義
	孫（ソン） 鎭煐（ジンヨン）	Influence of the Gulf Stream on ascending airstreams in extratropical cyclones （メキシコ湾流による温帯低気圧の上昇気流への影響 ） 主査：教授　見延　庄士郎

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（理学）	丹治 星河（たんじ せいか）	Diagnosis of the Blowing Snow Potential and Development of a Snowdrift Model with the Lattice Boltzmann Method （吹雪発生可能性の診断と格子ボルツマン法を用いた吹きだまりモデルの開発） 主査：教授 稲津 將
	露木 葵唯（つゆき あおい）	Taxonomy and Phylogeny of Cotylea (Platyhelminthes: Polycladida) from Japan （日本産吸盤亜目ヒラムシ類（扁形動物門：多岐腸目）の系統分類学的研究） 主査：教授 柁原 宏
	水谷 歩（みずたに あゆむ）	Estimation of Diverse Tsunami Excitations with Ocean Bottom Arrays （海底観測網記録から推定される多様な津波励起源） 主査：特任教授 蓬田 清
	横倉 伶奈（よこくら れな）	Identification of multiple components of noble gas isotopes in backarc lithospheric mantle （背弧域マントルの希ガス同位体比に基づいた不均質同定） 主査：教授 圦本 尚義
博士（農学）	中山 忠彦（なかやま ただひこ）	北海道における農外企業の農業参入の形態と存続要因 主査：教授 板橋 衛
	下田 智子（しもだ ともこ）	ラットにおける12α水酸化胆汁酸による肝脂質蓄積と血圧上昇との関連に関する研究 主査：教授 石塚 敏
	赤井 浩太郎（あかい こうたろう）	ジャガイモYウイルス抵抗性遺伝子*Rychc*の同定および機能発現メカニズムの解析と*Rychc*遺伝子座が農業形質に与える影響 主査：客員准教授 大木 健広
	DALKHSUREN Davaajav（ダルフスレン ダワァジャブ）	Methodology for reducing particulate matter emissions during combustion by improving fuel quality of low-grade biomass （低品位バイオマスの燃料品質改善による燃焼時の微粒子状物質排出低減化のための方法論） 主査：教授 岩渕 和則
	石神 広太（いしがみ こうた）	Ecological and evolutionary traits of pathogenic bacteria hijacking the Stinkbug-*Caballeronia* symbiotic system （カメムシ-*Caballeronia* 共生系を乗っ取る病原性細菌の進化生態学的特性に関する研究） 主査：客員准教授 菊池 義智
	小西 健司（こにし けんじ）	グラム陰性細菌*Burkholderia stabilis*由来コレステロールエステラーゼの基質結合メカニズムと高生産化に関する研究 主査：客員教授 田村 具博
	佐々木 駿（ささき しゅん）	植物の核小体ストレス応答におけるANAC082転写因子の機能と発現制御に関する研究 主査：教授 尾之内 均
	翟 洋（ザイ ヤン）	Studies on the formation mechanism of zinc protoporphyrin IX from heme proteins *via* the heme dissociation in nitrite/nitrate-free meat products （亜硝酸塩/硝酸塩無添加食肉製品中におけるヘムの解離を介したヘムタンパク質からの亜鉛プロトポルフィリンIX の形成機構に関する研究） 主査：准教授 若松 純一
	関口 真理（せきぐち まり）	膜融合タンパク質GP64 のアミノ酸多型とカイコ核多角体病ウイルスの増殖・病原性に関する研究 主査：准教授 佐藤 昌直
	LIU Hongxia（リュウ コウカ）	Induction of ileal permeability and alterations in metabolome in the gut–liver axis induced by 12α-hydroxylated bile acids in rats （ラットにおける12α水酸化胆汁酸による回腸透過性の誘導と腸肝軸における代謝物の変動） 主査：教授 石塚 敏
	渡邉 統之（わたなべ もとゆき）	Identification and genetic characterization of microbes which are highly sensitive to hydrogen peroxide in the agar plate （寒天培地中の過酸化水素に極めて高い感受性を示す微生物の同定および遺伝学的分析） 主査：客員准教授 北川 航
	萱場 亙起（かやば のぶゆき）	害虫発生予測における気象データの利用手法と予測精度に関する研究 主査：特任教授 鮫島 良次

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（農学）	北沢 宗大（きたざわ むねひろ）	Broad-scale and long-term assessment of bird diversity in agricultural landscapes : Focusing on farmland intensification and abandonment （農地景観における鳥類多様性の広域・長期評価：耕作放棄と農業集約化に着目して） 主査：教授　中村　太士
	瑤寺 裕（たまでら ゆたか）	Revision of the leaf-mining jewel beetle tribe Tracheini from Japan (Coleoptera, Buprestidae, Agrilinae), with notes on the morphology-based phylogeny of genera and species （日本産潜葉性チビタマムシ族の分類学的再検討および形態に基づく属ならびに種の系統について） 主査：教授　大原　昌宏
	山岸 松平（やまぎし しょうへい）	広葉樹辺材の道管相互壁孔に観察される被覆物に関する研究 主査：教授　佐野　雄三
	吉野 孝彦（よしの たかひこ）	Effects of Thick Clay Layers on Hydrological Processes in Headwater Catchments Underlain by Impermeable and Permeable Bedrock （厚い粘土層が不透水性・透水性基岩を有する山地源流域における水文プロセスに与える影響） 主査：教授　山田　孝
博士（生命科学）	石坂 優人（いしざか まさと）	Mechanistic insights into tRNA thiolation catalyzed by iron-sulfur enzymes （鉄硫黄クラスター含有酵素が触媒するtRNA硫黄修飾の反応機構解析） 主査：教授　尾瀬　農之
	大平 修也（おおひら しゅうや）	Novel transgenic enteroid to establish platform for investigating mechanisms of intestinal epithelial cell function （新規遺伝子改変 enteroidを用いた小腸上皮細胞機能解析プラットフォームの開発） 主査：准教授　中村　公則
	VILLONES, LARENO JR.（ヴィリオネス ラレーノジュニア） LOPEZ（ロペス）	Exploring the *In situ* Pairing of Human Galectins and α-Dystroglycan *O*-Mannosylated Core M1 Glycopeptides （コアM1 型糖鎖を有するα-ジストログリカン糖ペプチドとガレクチンの*In situ*ペア探索研究） 主査：教授　比能　洋
	ジェ 琳南（リンナン）	Studies on histone chaperones and protein kinases involved in nutrient-responsive growth regulation in *Arabidopsis thaliana* （栄養環境に応じた植物の成長制御に関与するヒストンシャペロンとタンパク質リン酸化酵素の研究） 主査：准教授　佐藤　長緒
	水野 歩（みずの あゆみ）	Testing the roles of visual preference in the evolution of white dot plumage patterns in Estrildid finches (Family Estrildidae) （カエデチョウ科鳥類の羽装の白い水玉模様と視覚選好の進化関係） 主査：准教授　相馬　雅代
	尾幡 穂乃香（おばた ほのか）	Basis research and development of DNA-targeted radio-platinum agents for Auger electron cancer therapy （Auger電子を用いたがん治療創成に向けたDNAを標的とする放射性白金薬剤の基礎開発研究） 主査：教授　小川　美香子
博士（薬科学）	家口 凛太郎（かぐち りんたろう）	ペプチドスキャニング法と*in situ*スクリーニング法の併用によるポリミキシンBの活性改変 主査：教授　市川　聡
	加藤 佳美（かとう よしみ）	新規キラルカルボン酸の創製を基盤とする不斉C(sp^3)-H官能基化反応及び鉄/光増感剤協働触媒系を用いた反応の開発研究 主査：教授　松永　茂樹
	木村 誠悟（きむら せいご）	Extrahepatic gene delivery for cancer treatment and an investigation of factors that affect *in vivo* functional gene delivery （肝臓外組織への遺伝子送達及び機能的遺伝子送達に影響する因子の探索） 主査：教授　原島　秀吉
	日下 慎太郎（くさか しんたろう）	ヌクレオシド系天然物を基盤としたMraY阻害剤の開発研究 主査：教授　市川　聡

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（薬科学）	熊谷（くまがい） 悠平（ゆうへい）	外輪型キラル二核ルテニウム（Ⅱ,Ⅲ）触媒の構造的特徴を活かした不斉Hetero-Diels-Alder反応の開発 主査：教授　松永　茂樹
	佐藤（さとう） 圭一郎（けいいちろう）	養育行動と攻撃行動に関する扁桃体海馬野ニューロンの同定と機能研究 主査：教授　南　雅文
	戸子臺（とこだい） 泰光（やすあき）	新規EZH2アロステリック活性化剤の創製とその機能解析 主査：准教授　薬師寺　文華
	萩野（はぎの） 裕太（ゆうた）	肺標的脂質ナノ粒子「GALA-LNP」の新規核酸分子への応用展開 主査：教授　原島　秀吉
	堀（ほり） 生実（いくま）	ベルベリン搭載脂質ナノ粒子によるミトコンドリア機能向上と神経内局在制御 主査：教授　原島　秀吉
	前本（まえもと） 道寛（みちひろ）	非全身曝露型化合物を指向した腸管NaPi阻害薬の創製 主査：教授　周東　智
	藪田（やぶた） 明優（あきまさ）	Pd触媒による α－ヒドロキシケトン誘導体のC-O結合切断を鍵とした脱炭酸型アルキニル化反応 主査：教授　佐藤　美洋
博士（ソフトマター科学）	谷（コク） 昊（コウ）	Production and analysis of recombinant antimicrobial peptides by fusion expression with calmodulin （カルモジュリンとの融合発現によるリコンビナント抗菌ペプチドの生産と解析） 主査：教授　相沢　智康
	Zannatul（ザナトゥル） Ferdous（フェルドス）	Study of Morphological Difference in Hydrogel Induced Cancer Stem Cell in Synovial Sarcoma Model Cells （滑膜肉腫モデル細胞におけるハイドロゲル誘導幹細胞の形態学的解析） 主査：准教授　津田　真寿美
	宋（ソウ） 雨遅（ウチ）	Efficient recombinant production of mouse-derived cryptdin family peptides by a novel facilitation strategy for inclusion body formation （新規封入体形成促進技術によるマウス由来 cryptdinファミリーペプチドの組換え体の効率的生産） 主査：教授　相沢　智康
	熊（ユウ） 坤（クン）	Precise Control of Thermo-responsive Properties of OEG-alkanethiol Modified Gold Nanoparticles （OEGを有するアルカンチオールで修飾した金ナノ粒子の温度応答性の精密制御） 主査：教授　居城　邦治
博士（臨床薬学）	田中（たなか） 寛之（ひろゆき）	Pazopanibの至適投与量と血中濃度変動要因に関する研究 主査：教授　菅原　満
	宮井（みやい） 貴之（たかゆき）	機械学習を利用したバンコマイシンの腎機能障害発現リスクおよび投与量推定を目的とするモデルの構築 主査：教授　菅原　満
博士（教育学）	ESKELSON（エスケルソン） Tyrel Cameron（タイレル キャメロン）	The Expansion of Knowledge Transmission and Social Institutions in Western Modernity: The State, Literacy, and Formal Education from Medieval to Modern Times 近代西欧における知識伝達と社会制度の拡大―中世から近代までの国家、リテラシーとフォーマル教育― 主査：教授　宮﨑　隆志
	及川（おいかわ） 智博（ともひろ）	幼児とともに「課題」を受容する保育者の実践知―専門性論議における「生活の共同生成」の定位― 主査：准教授　川田　学
	王（オウ） 佳寧（カネイ）	中国における公費師範生政策の展開とその可能性―採用・配置の視点から― 主査：教授　横井　敏郎
	木戸（きど） 調（しらべ）	アイヌの行為と同化・文化伝承―民族関係を通して 主査：教授　ゲーマン・ジェフリー

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（教育学）	木下（きのした） 卓弥（たくみ）	1960 年代の農村地域における地域づくりに向けた学習組織化の展開論理 ―長野県栄村・望月町の住民の学習運動と信濃生産大学実践との関連に注目して― 主査：教授　宮﨑　隆志
	草岡（くさおか） 章大（あきひろ）	初任セラピストの自己開示と職業的発達－臨床場面における主観的体験の質的研究－ 主査：准教授　渡邊　誠
	張（チョウ） 思銘（シメイ）	高齢寡婦世帯の貧困―ライフコース・アプローチから見るシングルマザーの経済的困難― 主査：教授　松本　伊智朗
	戸澤（とざわ） 里美（さとみ）	協働を創出する社会的基盤：ソーシャリー・エンゲイジド・アートとしての Art City の実践に着目して 主査：教授　宮﨑　隆志
	中澤（なかざわ） 翔（しょう）	陸上競技・長距離走のコーチングに関する研究－大学男子選手を対象にして－ 主査：准教授　﨑田　嘉寛
	沼崎（ぬまさき） 麻子（まこ）	大学博物館における成人ASD（自閉スペクトラム症）当事者就労支援プログラムの開発と評価 主査：教授　安達　潤
博士（観光学）	王（オウ） 楚君（ソクン）	Creating 'Heritage' in Theme Parks:The Case of Newly Constructed Ancient Towns in China （テーマパークにおける「遺産」の創造：中国の新築古鎮を例に） 主査：教授　エデルヘイム　ヨハン　リチャード
博士（保健科学）	沖野（おきの） 太一（たいち）	Assessment of Automatic Software for Detecting Radiographic Joint Space Narrowing Progression in Rheumatoid Arthritis （関節リウマチにおける単純X線写真を用いた関節裂隙狭小化進行の自動検出ソフトウェアの評価） 主査：教授　石津　明洋
	崔（サイ） 佳宏（カコウ）	The Mechanism of Audiovisual Cross-Modal Conflict: Establishment of Neuropsychological Evidence and Application for Non-Invasive Neuromodulation Techniques （視聴覚クロスモーダル葛藤のメカニズムの解明-神経心理学的エビデンスの確立と非侵襲的ニューロモジュレーション技術の応用-） 主査：教授　横澤　宏一
	谷内（やち） 淑恵（よしえ）	放射線照射下におけるDNA損傷生成率のシミュレーション研究 主査：教授　神島　保
	盧（ロ） 雨桐（ウトウ）	Visceral Obesity and Lipid Profiles in Chinese Adults with Normal and High Body Mass Index （正常および高BMIの中国人成人における内臓肥満および血中脂質分析結果） 主査：教授　石津　明洋
博士（看護学）	羅（ラ） 云潔（ウンケツ）	Development and evaluation of a mental health promotion intervention among Chinese women living in Japan （在日中国人母親へのメンタルヘルス促進の介入プログラムの開発・評価） 主査：教授　田高　悦子
博士（工学）	河崎（かわさき） 真樹男（まきお）	開放量子系における非平衡トポロジカル相 主査：教授　矢久保　考介
	林田（はやしだ） 健二（けんじ）	バンド間遷移機構に基づく交換スピン軌道結合と電子状態・輸送特性・熱力学的特性に関する理論研究 主査：教授　明楽　浩史
	岩井（いわい） 愛（まな）	新規な電解質を用いたアノード酸化によるポーラスアルミナのナノ構造制御 主査：准教授　菊地　竜也
	XU（ジョ） Guangye（コウヨウ）	Control of Concentration Boundary Layer Development by Time-Varying Electromagnetic Force Imposition near Solid-Liquid Interface （固液界面近傍への振動電磁気力の印加による濃度境界層の制御） 主査：教授　岩井　一彦
	ZHU（ズー） Mingbei（ミンベイ）	Synthesis of mono-, bi-, and tri-metallic alloy nanoparticles by co-sputtering onto liquid substrate （液体基板への同時スパッタによるモノ、バイ、およびトリメタリック合金ナノ粒子の合成） 主査：教授　米澤　徹

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（工学）	ゾウン ユン ZONG Yun	Study on refractory high-entropy alloys for nuclear fusion application （核融合用のBCC型高エントロピー合金に関する研究） 主査：教授　橋本　直幸
	ユエン ティン Yuen Ting レイチャル チャウ Rachel Chau	Synthesis and Femtosecond Laser Excited-Terahertz Wave Emission of Cu-based and ZnTe Nano/Micro Materials （Cu系とZnTeナノ・マイクロ材料の合成およびフェムト秒レーザーを用いたテラヘルツ波の発生） 主査：教授　米澤　徹
	ビー ペン BI Peng	Oxidation behavior and irradiation effects of Co-free FCC high entropy alloys for nuclear application （原子力用CoフリーFCCハイエントロピー合金の酸化挙動と照射効果） 主査：教授　橋本　直幸
	やまなか　しゅうき 山中　柊生	低次状態図情報に基づくハイエントロピー合金の相平衡理解と複相合金展開 主査：教授　三浦　誠司
	リ レ 李　礼	実用金属材料の金属カチオンによる腐食抑制機序の解明と耐食性表面の創製 主査：准教授　坂入　正敏
	おおはし　こうたろう 大橋　広太郎	非凝縮性気体分子の存在下における蒸気分子の蒸発と凝縮に関する平均場運動理論解析 主査：准教授　小林　一道
	さかい　ゆうま 酒井　佑実	振り子運動計測に基づく滑膜関節摩擦特性評価に関する研究 主査：教授　東藤　正浩
	じょうこう　やすゆき 上甲　康之	衣類挙動を考慮したドラム式洗濯乾燥機の逐次近似最適化 主査：准教授　本田　真也
	とよはら　りょうた 豊原　涼太	Numerical and experimental analysis of mechanical characterization of sacroiliac joint in physiology and pathology （生理病理状態における仙腸関節の力学的役割に関する数値的および実験的解析） 主査：教授　大橋　俊朗
	よねざわ　あんせい 米沢　安成	Active Vibration Control Without Using Mathematical Model of Actual Controlled Object （実制御対象の数理モデルを使用しないアクティブ振動制御） 主査：教授　梶原　逸朗
	ごとう　じゅん 後藤　隼	改質ガス添加による火花ノック抑制効果に関する研究 主査：准教授　柴田　元
	さかね　ゆうへい 坂根　悠平	ディーゼル燃焼の着火遅れ特性および予測モデルに関する研究 主査：特任教授　小川　英之
	しばた　なおと 柴田　尚人	Study of Nitrogen-Brine Two-Phase Flow Behavior under High-Pressure Condition （高圧条件における窒素-塩水系の気液二相流挙動に関する研究） 主査：教授　澤　和弘
	たなか　たいじ 田中　泰爾	Drag reduction induced by void waves propagating in turbulent boundary layers （乱流境界層を伝播するボイド波による抵抗低減効果） 主査：教授　村井　祐一
	ハン シュンソウ Fan Junshuang	Study on Neutronics Simulation Applicable to Various Design Requirements for Fast Spectrum Reactor （高速炉の多様な設計要件に適用可能な核特性シミュレーションの研究） 主査：准教授　千葉　豪
	ルクエサ ビネス Lukwesa Biness	Study on effective measures of power fluctuation mitigation for wind and solar power and electricity prices toward a predetermined social optimum （風力・太陽光発電の効果的な出力変動抑制対策と社会最適誘導電力料金に関する研究） 主査：教授　田部　豊
	いながき　よしのぶ 稲垣　慶修	プラズマと相互作用する液体における溶媒和電子の検出と診断 主査：教授　佐々木　浩一

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（工学）	マミー リジャ Mamy Rija アンジアンブアヴォンジー Andriamboavonjy	Bedrock incision due to the interaction between flow and sediment transport in uniformly curved channels （一様湾曲水路における流れと土砂輸送の相互作用によって生じる基盤岩穿入プロセス） 主査：教授　泉　典洋
	おぐら ひろし 小椋　浩	地盤凍結工法における土の凍結膨張対策に関する研究 主査：教授　蟹江　俊仁
	なかむら ゆうき 中村　裕貴	道路画像と気象情報を利用した冬期道路上の視界情報に関する基礎的研究 主査：教授　萩原　亨
	ハカス プラユダ Hakas Prayuda	Investigation and Estimation of Restrained Expansion and Shrinkage Behavior of Expansive Concrete Structures （膨張コンクリートを用いた構造物の拘束膨張および収縮挙動の検討と評価） 主査：准教授　松本　浩嗣
	おぎの のぶゆき 荻野　伸行	多段速度依存型可変減衰オイルダンパーを用いた免震建物の応答変位抑制法に関する研究 主査：教授　菊地　優
	パク ジヒョン PARK Ji Hyun	Study on the characteristics and response control effects of a seismic mass damper system utilizing scrap tire pads （スクラップタイヤパッドを利用した地震用マスダンパーシステムの特性と応答制御効果に関する研究） 主査：准教授　白井　和貴
	やなぎ まさゆき 柳　勝幸	長周期地震動に対する錫プラグ入り免震積層ゴムの力学挙動に関する研究 主査：教授　菊地　優
	ロペス ディアス Lopes Dias イラニルド レナート Ilanildo Renato	Seismic Performance and Design of Japanese Steel Chevron-Braced Moment-Resisting Frames （ブレース付ラーメン鋼架構の耐震性能と設計） 主査：教授　岡崎　太一郎
	おおさわ ひさと 大沢　飛智	GISデータを用いた周辺環境を加味した日射データの大量作成と応用 主査：教授　森　太郎
	しながわ こういち 品川　浩一	低環境負荷建物のエネルギー消費実態と設計手法 主査：教授　森　太郎
	しょうじ ゆたか 小司　優陸	地中熱交換器数値シミュレーションにおけるデータ科学手法の応用に関する研究 主査：准教授　葛　隆生
	しらかわ だいき 白川　大樹	トウガラシ微斑ウイルスの水中病原ウイルスに対する指標性と実浄水工程における処理性 主査：教授　松井　佳彦
	チン イーゼー CHEN Yize	Hydrolysis of Polyaluminum Chloride and its Effect on Coagulation Performance: Role of Inorganic Ions （ポリ塩化アルミニウムの加水分解とその凝集性能に及ぼす影響:無機イオンの役割） 主査：教授　松井　佳彦
	やまだ ゆうじ 山田　裕史	実稼働施設の測定データに基づく竪型ストーカ式焼却炉内の現象解明と運転特性に関する研究 主査：准教授　東條　安匡
	あいかわ こうせい 相川　公政	Mineral processing of complex sulfide ores combined with extraction, flotation, and cementation for sustainable development of complex sulfide deposits （複雑硫化鉱の持続可能な開発のための抽出・浮選・セメンテーションを組み合わせた選鉱手法の開発） 主査：教授　伊藤　真由美
	エルサ パンシルバニア Elsa Pansilvania アンドレ マンジャテ Andre Manjate	Study on the Development of an AI-Based Mining Methods Recommendation System （AIによる採掘手法レコメンデーションシステム開発に関する研究） 主査：教授　川村　洋平
	パードゥン シンカラ Pardon Sinkala	Prediction of Rockburst at Mufulira Mine, Copperbelt, Zambia （ザンビア共和国カッパーベルトに位置するムフリラ鉱山における山はねの予測） 主査：特任教授　藤井　義明
	にしき ゆうと 西木　悠人	マグネシウムシリケートハイドレートに関する鉱物学的・地球化学的研究 主査：教授　佐藤　努

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（工学）	LI Zhaoxin（リ チョウキン）	A three-dimensional constitutive model for rocks based on a variable elastic modulus （可変型弾性係数に基づいた岩石の三次元構成モデル） 主査：特任教授　藤井　義明
	李　闖（リ チン）	Hydration and durability characteristics of a new composite cementitious binder containing of slag and calcite （スラグとカルサイトを含む新しい複合セメントバインダーの水和と耐久性に関する研究） 主査：准教授　エラクネス　ヨガラジャ
博士（総合化学）	Aunsaya Eksatit（アンサヤ エクサティ）	Study on Dual-phase Oxygen Separation Membrane with Percolation Structures of Oxide Ionic and Electronic Conductors （酸化物イオン・電子伝導体のパーコレーション構造を持つ二相酸素分離膜に関する研究） 主査：教授　忠永　清治
	Bastian Bjerkem（バスティアン ビュルケム）Skjelstad（シェルスター）	Theoretical Study on Formation and Reactivity of Coordination Compounds Employing AFIR （人工力誘起反応法を用いた配位化合物の生成と反応性に関する理論的研究） 主査：教授　武次　徹也
	张　美齐（チョウ メイチイ）	Exploration and Development of Novel Functional MoS_2-based Nanomaterials （新規機能性MoS_2系ナノ材料の探索と開発） 主査：教授　島田　敏宏
	Yang Xiaoran（ヨウ ショウゼン）	Experimental and Simulation Studies on Crystal Growth and Crystallinity Evaluation of Organic Materials and Polymers （有機材料および高分子の結晶成長と結晶化度の評価に関する実験とシミュレーションによる研究） 主査：教授　忠永　清治
博士（理学）	上田　悠介（うえだ ゆうすけ）	Photoinduced Copper-Catalyzed Asymmetric Acylation Reactions （光銅触媒不斉アシル化反応） 主査：教授　永木　愛一郎
	海老澤　修一（えびさわ しゅういち）	Analysis of Chemical Reaction on Adiabatic Potential Energy Surface from a Viewpoint of Anharmonicity and Orbital Mixing: Bifurcation of Anharmonic Downward Distortion Following Paths and Natural Reaction Orbitals （非調和性と軌道混合から見た断熱ポテンシャル上の化学反応解析：非調和下方歪追跡経路の分岐と自然反応軌道） 主査：教授　前田　理
	王　慶宇（オウ ケイウ）	Studies on Synthesis, Structure, and Properties of Optically Active Poly(benzene-1,4-diyl) Derivatives （光学活性ポリ(ベンゼン-1,4-ジイル)誘導体の合成、構造および物性に関する研究） 主査：教授　鈴木　孝紀
	大村　翼世（おおむら いっせい）	The Reaction Mechanism Analysis of Enzymes with Degrading Persistent Dyes and its Rational Designs （難分解性色素分解酵素の反応機構解析とその合理的設計） 主査：教授　佐田　和己
	小山田　伸明（おやまだ のぶあき）	Studies on Molecular Manipulation for Polariton Electrochemistry （ポラリトン電気化学反応に向けた分子制御の研究） 主査：教授　武次　徹也
	加藤　港介（かとう こうすけ）	New Method for Constructing Caged Skeleton Directed toward Terpenoid Synthesis （テルペノイド合成を志向した新規カゴ型骨格構築法） 主査：教授　鈴木　孝紀
	川越　聡一郎（かわごえ そういちろう）	Molecular Mechanism of the Hsf1-Chaperone System Responsible for Proteostasis （タンパク質恒常性の維持を担うHsf1-シャペロンシステムの分子機構解明） 主査：教授　坂口　和靖
	呉　鵬飛（ゴ ポンヒ）	Synthesis, Conformation, and Chiral Properties of Optically Active Polyfluorenevinylene Derivatives （光学活性ポリフルオレンビニレン誘導体の合成、コンホメーションおよびキラル特性） 主査：教授　谷野　圭持

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（理学）	齋藤（さいとう） 大将（だいすけ）	Studies on Self-Assembled Platinum(II) and Palladium(II) Complexes: Control of Crystal Structures and Luminescence Properties （自己集積型白金(II)及びパラジウム(II)錯体に関する研究： 結晶構造および発光特性の制御） 主査：教授　上野　貢生
	谷（たに） 愛海（いつみ）	核小体タンパク質Nucleophosminによる液-液相分離を介した核小体形成に関する研究 主査：教授　村上　洋太
	邓（デン） 博文（ボウェン）	Solar Energy-Driven Photothermal Catalytic CO_2 Hydrogenation over Nanometals/Oxides Catalysts （ナノ金属/酸化物触媒を用いた光誘起熱触媒反応による二酸化炭素の水素化に関する研究） 主査：教授　村越　敬
	林（はやし） 裕貴（ゆうき）	Development of Unique Switching Systems Based on Multifunctional Hydrocarbons with Dibenzo-Fused Seven-Membered Rings （ジベンゾ縮環型七員環骨格をもつ多機能性炭化水素に基づく特異なスイッチングシステムの開拓） 主査：教授　澤村　正也
	黄（ファン） 文元（ウェンユアン）	Study of the Rate-Limiting Step on Extracellular Electron Transfer of *Shewanella Oneidensis* MR-1 （*Shewanella Oneidensis* MR-1の細胞外電子伝達の律速段階に関する研究） 主査：教授　村越　敬
	Davin（デヴィン） Philo（フィロ）	Structural Engineering and Surface Modulation of Monoclinic $BiVO_4$ for Efficient Visible-Light-Driven Photocatalysis （単斜晶 $BiVO_4$の構造制御および表面修飾による効率的な可視光応答光触媒反応に関する研究） 主査：教授　村越　敬
	村西（むらにし） 和佳（かずよし）	Characterizations of Ferric Uptake Regulator (Fur) and Development of Antimicrobial Agents Based on Fur-mediated Polymyxin Resistance in *Vibrio cholerae* （コレラ菌におけるFerric Uptake Regulator (Fur) の機能解析とFurを介して発現するPolymyxin耐性を利用した抗菌薬の開発） 主査：教授　村上　洋太
	Mst. Rubaya（モサンマツ ルバヤ） Rashid（ラシッ）	Force Measurement of Kinesin Propelled Microtubules in Swarming Using an Electromagnetic Tweezer （電磁ピンセットを用いたキネシンにより推進する微小管の群れにおける力測定） 主査：教授　坂口　和靖
	山田（やまだ） 博之（ひろゆき）	Chemical Synthesis of Luminescent Silicon Quantum Dots for Light-Emitting Diodes （シリコン量子ドット蛍光体の化学合成と発光ダイオードへの応用） 主査：教授　村越　敬
	游（ユー） 震生（ジェンセイ）	Defluorinative Synthesis of Organophosphorus Compounds （有機リン化合物の脱フッ素的合成法） 主査：教授　鈴木　孝紀
	吉村（よしむら） 修隆（のぶたか）	Construction of Multimolecular Assembled Water Reduction Photocatalyst Nanoparticle for One-directional Electron Transfer （一方向的な電子移動を志向した分子多層膜担持光水素発生ナノ粒子触媒系の開発） 主査：教授　村越　敬
	王（ワン） 琦（チィ）	Construction and Modification of Ternary Metal Sulfide for Efficient Photocatalytic CO_2 Reduction （三元系金属硫化物の組成および表面構造制御による効率的な光触媒CO_2還元に関する研究） 主査：教授　村越　敬
博士（工学）	石丸（いしまる） 裕也（ひろや）	オルガノソルブ法によるバイオマス廃棄物の高度利用に関する研究 主査：教授　菊地　隆司
	井藤（いとう） 浩明（ひろあき）	Low-temperature Synthesis of $MgCr_2S_4$ and Li_3YCl_6 and the Type of Metastability （$MgCr_2S_4$およびLi_3YCl_6の低温合成と準安定性の種類） 主査：教授　忠永　清治

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（工学）	うえまつ　まさこ 植松　昌子	Study on Pore Structure Control and Characterization of Porous Ceramics using Starch as a Pore-forming Agent （デンプンを造孔剤に用いたセラミックス多孔体の気孔構造制御とその評価に関する研究） 主査：教授　忠永　清治
	オウ　ギョクハク 王　鈺博	Dispersion and Stabilization of Gold and Silver Nanoparticles by Topology Effect of Cyclic Poly(Ethylene Glycol) （環状ポリエチレングリコールのトポロジー効果による金および銀ナノ粒子の分散安定化） 主査：教授　松本　謙一郎
	かつはら　さとし 勝原　哲	Molecular Design and Synthesis of Oligosaccharide-Based Block Copolymers for Functional Materials （機能性材料への応用を目指したオリゴ糖鎖含有ブロック共重合体の設計と合成） 主査：教授　松本　謙一郎
	くぼた　ひろえ 窪田　博愛	*Operando* Spectroscopic Studies on Reaction and Regeneration Mechanism of Lean DeNOx Catalysis （*Operando* 分光法を用いたリーン脱硝触媒の反応機構と触媒再生機構の解明） 主査：教授　菊地　隆司
	さわだ　ゆか 澤田　由佳	Development of Microfluidic Devices to Accelerate Clinical Application of Lipid-Based Nanomedicines （脂質ナノ粒子製剤の臨床応用を加速化するマイクロ流路デバイスの開発） 主査：教授　佐藤　敏文
	シン　フェロン 邢　飛龍	Developing a Highly Efficient Multimetallic Catalyst for CO_2-assisted Oxidative Dehydrogenation and Dry Reforming of Propane （CO_2によるプロパンの酸化脱水素および改質反応に有効な多元素合金触媒の開発） 主査：教授　清水　研一
	ジン　ユアン 井　元	Promotional Effect of Support Materials in the Three-Way Catalysis of Supported Metal Catalysts （担持金属系三元触媒における担体促進効果） 主査：教授　長谷川　淳也
	せお　たまえ 瀬尾　珠恵	Development of Palladium-Catalyzed Mechanochemical Cross-Coupling Reactions （パラジウム触媒を用いたメカノケミカルクロスカップリング反応の開発） 主査：教授　大熊　毅
	たけうち　たくみ 竹内　拓未	Development of Efficient Synthesis of Organometallic Compounds Using Functionalized Organoboron Compounds （官能性有機ホウ素化合物を用いた有機金属化合物の精密合成法の開発） 主査：教授　大熊　毅
	チョウ　ケンシャク 张　建烁	Development of Electroassisted Catalysis Based on Surface Protonics and Alloying （表面プロトニクスと合金化を駆使した電場触媒反応系の開拓） 主査：教授　清水　研一
	ティン　カーウェイ 陳　家偉	Supported Re Catalysts for the Transformation of CO_2 to Value-added Chemicals （担持レニウム触媒を用いた二酸化炭素変換反応による高付加価値化合物の合成） 主査：教授　菊地　隆司
	ながいし　しんたろう 永石　新太郎	炭素材料の細孔構造および表面官能基の精密分析に基づくリチウム空気電池の正極開発 主査：教授　菊地　隆司
	のど　しょうと 野土　翔登	$Co_xFe_{3-x}O_4$/Pt界面における磁気近接効果と輸送特性に関する研究 主査：教授　島田　敏宏
	ヒョウ　チ 冯　驰	Crystal Structures and Mechanical Properties of Luminescent Gold(I) Complexes （発光性有機金錯体の結晶構造と力学特性） 主査：教授　大熊　毅
	まなべ　ゆめひろ 眞部　夢大	Synthesis of Discrete Aliphatic Polyketones and their Functionalization （脂肪族ポリケトンの単分散合成と機能化） 主査：教授　伊藤　肇

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（工学）	安村　駿作（やすむら　しゅんさく）	Rational Development of Heterogeneous Catalysis Based on Understanding of Active Species in Zeolite （ゼオライト内活性種の理解に基づく合理的触媒開発） 主査：教授　長谷川　淳也
	山根　伊知郎（やまね　いちろう）	Synthesis and Function Exploration of New Composite Materials from Designable Precursors Containing Carbon Using Ultrahigh Pressure （炭素を含む設計可能な前駆体への超高圧処理を用いた複合材料の合成と機能探索） 主査：教授　幅﨑　浩樹
博士（経済学）	Iziga Jude Ikemefuna（イジガ ジュード イケムフナ）	Prioritizing Economic Development for Increasing Dietary Diversity （十分な栄養摂取を行うための優先的な経済発展） 主査：教授　齋藤　久光
博士（医学）	安　寧（アン　ネイ）	Dual epigenetic interventions with DNA demethylation and HDAC inhibition synergistically boost MHC-I-dependent anti-cancer immunity through NLRC5 （DNA脱メチル化とHDAC阻害の2つのエピジェネティック治療は、NLRC5を介するMHC-I依存性の癌免疫応答を相乗的に増強する） 主査：教授　近藤　亨
	井上　綾乃（いのうえ　あやの）	MHC class IIタンパク質発現を制御するユビキチンリガーゼの機能解析 （Functional analysis of a ubiquitin ligase that regulate MHC class II expression） 主査：教授　高橋　將人
	上田　泰弘（うえだ　やすひろ）	小児期発症特発性ネフローゼ症候群における長期ステロイド投与中止後の骨代謝マーカー変化に関する研究 （Studies on the effect of discontinuation of long-term glucocorticoid administration on changes in bone turnover markers in childhood-onset idiopathic nephrotic syndrome） 主査：教授　久住　一郎
	打浪　有可（うちなみ　ゆか）	ビデオ喉頭鏡の使用が気管挿管に与える影響についての研究 （Studies on the effect of using a video laryngoscope on tracheal intubation） 主査：教授　南須原　康行
	王　向東（オウ　コウトウ）	アルギナーゼ1の発現と大腸がんの悪性化に関する研究 （Studies on the arginase-1 expression and malignant alteration of colorectal cancer） 主査：准教授　七戸　俊明
	甲斐原　拓真（かいばら　たくま）	ハイドロキシアパタイト複合化ダブルネットワークハイドロゲル上での骨髄間葉系幹細胞の骨分化能評価 （Hydroxyapatite-hybridized double-network hydrogel surface enhances differentiation of bone marrow-derived mesenchymal stem cells to osteogenic cells） 主査：教授　近藤　英司
	加藤　紘一（かとう　こういち）	肝細胞癌における癌微小環境を構成する癌関連線維芽細胞に関する研究 （Studies on cancer-associated fibroblasts that constitute the tumor microenvironment in hepatocellular carcinoma） 主査：教授　谷口　浩二
	門坂　崇秀（かどさか　たかひで）	選択的SGLT2阻害薬エンパグリフロジンの糖尿病性心筋症に対する心室筋細胞内カルシウムハンドリング改善を介した心室性不整脈抑制効果の検討 （Empagliflozin attenuates arrhythmogenesis in diabetic cardiomyopathy by normalizing intracellular Ca^{2+} handling in ventricular cardiomyocytes） 主査：教授　大場　雄介
	木田　博朗（きだ　ひろあき）	Dupuytren拘縮における疾患関連SNPsと炎症誘導機構の関係性の解析 （Analysis of disease-associated SNPs and inflammatory mechanisms in Dupuytren's contracture） 主査：教授　清野　研一郎
	金　芝萍（キン　シヘイ）	Studies on developing a water-soluble polymer bearing adjacent cation-aromatic sequence as a novel embolic material （新規塞栓物質としてのカチオン-アロマ配列隣接型水溶性高分子の開発に関する研究） 主査：教授　工藤　與亮

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（医学）	黒鳥（くろとり） 偉作（いさく）	北るもい地域におけるホタテガイ養殖従事者の納豆アレルギーに関する調査研究 （The observational study of natto-induced hypersensitivity reactions among scallop aquaculture workers in a local area of northern Japan） 主査：准教授　倉島　庸
	小泉（こいずみ） 拓也（たくや）	糖尿病ラットにおけるエンパグリフロジンによるミトコンドリア由来の活性酸素種産生の抑制と心房細動誘発性の低下に関する研究 （Empagliflozin suppresses mitochondrial reactive oxygen species generation and mitigates the inducibility of atrial fibrillation in diabetic rats） 主査：教授　大場　雄介
	齊藤（さいとう） 良玄（よしひろ）	妊娠糖尿病が周産期アウトカム及び生後の神経発達に及ぼす影響 （Effects of gestational diabetes on perinatal outcomes and neurodevelopment in children） 主査：教授　伊藤　陽一
	桜井（さくらい） 健介（けんすけ）	低亜鉛血症を伴う炎症性腸疾患患者に対する酢酸亜鉛水和物製剤投与の有効性 （Effectiveness of administering zinc acetate hydrate to patients with inflammatory bowel disease and zinc deficiency） 主査：教授　本間　明宏
	佐藤（さとう） 琢真（たくま）	植込型補助人工心臓装着患者における運動耐容能とQuality of Lifeの長期推移に関する研究 （Long-term preservation of functional capacity and quality of life in advanced heart failure patients with bridge to transplant therapy: A report from Japanese nationwide multicenter registry） 主査：教授　藤村　幹
	佐藤（さとう） 峰嘉（みねよし）	血管新生阻害剤先行投与がもたらす肺癌免疫療法に与える影響に関する研究 （Studies on the effects of pre-administering an angiogenic inhibitor in immunotherapy for lung cancer） 主査：教授　松野　吉宏
	SHAN（シャン） Yifan（イーファン）	Association of changes in behavioral activities on mental and physical health among age-specific Japanese older adults: a cohort study （特定年齢の日本人高齢者における行動活動の変化と心身の健康との関連性：コホート研究） 主査：教授　高橋　誠
	菅原（すがわら） 正成（まさなり）	自己免疫疾患の治療反応性予測因子と新規バイオマーカーの探索 （Explorations of predictors and new biomarkers in the treatment for autoimmune diseases） 主査：教授　村上　正晃
	SULAIMAN（スリマン） Haares（ハレス） Zuhal（ズハル）	Association of the age at smoking initiation and cessation on all-cause and cause-specific mortality: The Japan Collaborative Cohort Study （喫煙開始年齢と禁煙年齢の全死亡及び死因別死亡に対する関連：JACC研究） 主査：教授　上田　佳代
	関崎（せきざき） 知紀（とものり）	ニューロメジンB受容体を標的としたACTH産生下垂体腺腫の新規治療法の探索 （Exploration of novel treatment for ACTH-producing pituitary adenoma targeting neuromedin B receptor） 主査：教授　久住　一郎
	五月女（そうとめ） 慧人（あきひと）	脊髄障害を対象とした動物モデルと血液脊髄関門機能に着目した治療方法の開発 （Research of Spinal Cord Disorders for Development of an Animal Model and a Therapeutic Strategy via Protection of Blood-Spinal Cord Function） 主査：教授　神谷　温之
	髙林（たかばやし） 早枝香（さえか）	料理数を用いた栄養適切性の評価、および食事の多様性と総死亡との関連 （Nutritional adequacy assessment using the number of dishes, and an association of dietary diversity with all-cause mortality） 主査：教授　伊藤　陽一
	瀧新（たきしん） 悠之介（ゆうのすけ）	膵臓癌における超音波せん断波弾性測定法を用いた分散画像の臨床的意義の検討 （Clinical significance of dispersion imaging in shear wave elastography in the field of pancreatic cancer） 主査：准教授　七戸　俊明

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（医学）	竹中（たけなか） 秀（さかえ）	日本人心臓サルコイドーシス患者におけるAHA/ACC/HRSガイドライン植込み型除細動器適応の外的妥当性 （Applicability of the AHA/ACC/HRS Guideline for Implantable Cardioverter Defibrillator Implantation in Japanese Patients with Cardiac Sarcoidosis） 主査：教授　若狭　哲
	得地（とくち） 景子（けいこ）	皮膚有棘細胞癌におけるFAM83Hの機能解析 （Functional analysis of FAM83H in cutaneous squamous cell carcinoma） 主査：教授　園下　将大
	得地（とくち） 祐匡（よしまさ）	DAAs治療によるHCV排除が肝病変及び肝外病変に与える影響についての検討 （Study of the impact of HCV elimination by DAAs treatment on hepatic and extrahepatic disease） 主査：教授　平野　聡
	中薗（なかぞの） 彬（あきら）	鼻腔粘膜上皮細胞における新型コロナウイルス細胞侵入因子の発現制御機構に関する研究 （Studies on the regulatory mechanism for gene expression of coronavirus-2019 cell entry factors in primary human nasal epithelial cells） 主査：教授　今野　哲
	中山（なかやま） 加奈子（かなこ）	日本人先天性甲状腺機能低下症の重症度とAdiposity rebound年齢および青年期BMIの検討 （Evaluation of the factors associated with adiposity rebound and adolescent body mass index in Japanese children with congenital hypothyroidism） 主査：准教授　倉島　庸
	永井（ながい） 孝輔（こうすけ）	膵管/胆管狭窄病変の診断ための膵液および胆汁中cell-free DNAを用いたliquid biopsyに関する研究 （Genetic analyses of cell-free DNA in pancreatic juice or bile for diagnosing pancreatic duct and biliary tract strictures） 主査：教授　武冨　紹信
	NAIM（ネイム） Fayrouz Shawky（フェイロウズ シャウキー） Abdelmoneim（アブデルモネイム）	Gold-nanocluster-mediated microinflammation detection using a tissue clearing method and Molecular mechanism for SARS-CoV-2-specific $CD4^+$ T-cell activation in healthy people （組織透明化法を用いた金ナノクラスターによる微小炎症検出と健常人におけるSARS-CoV-2特異$CD4^+$ T細胞活性化の分子機構に関する研究） 主査：教授　野田　展生
	能代（のしろ） 究（きわむ）	妊娠中から産後の栄養状態が胎児と妊婦転帰に及ぼす影響の検討 （Study on the effect of nutritional status of pregnant women on fetuses and outcomes） 主査：教授　玉腰　暁子
	羽馬（はま） 直希（なおき）	腫瘍由来IL34 依存的に誘導される免疫抑制機構の解明およびIL34 を基軸とした新規がん治療法の検討 （Elucidation of immunosuppressive mechanisms induced by tumor-derived IL34 and examination of novel cancer therapy targeting IL34） 主査：教授　小林　弘一
	原（はら） 健人（まさと）	神経組織特異的線維芽細胞が末梢神経再生に及ぼす影響とその分子機構に関する研究 （Elucidation of the role of Nerve Tissue-Specific Fibroblasts on Peripheral Nerve Regeneration and Their Molecular Mechanisms） 主査：教授　近藤　亨
	福津（ふくつ） 佳苗（かなえ）	糖尿病網膜症における不飽和アルデヒドの病的意義に関する探索的研究 （Exploratory research on the pathological significance of an unsaturated aldehyde in diabetic retinopathy） 主査：教授　藤山　文乃
	星野（ほしの） 善允（よしただ）	マウス後肢リンパ浮腫モデルにおける低酸素誘導因子の影響に関する研究 （Study of the effects of hypoxia inducible factor in a mouse hindlimb lymphedema model） 主査：教授　上田　佳代

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（医学）	眞井 翔子（まい しょうこ）	遺伝子編集により単離したネイティブ自己抗原を用いた自己免疫性水疱症の新規診断法 （Novel diagnostic method for autoimmune bullous disease using native autoantigen isolated by gene editing） 主査：教授　石田　晋
	前田 拓哉（まえだ たくや）	乳房外Paget病に対する新規治療実験系の確立 （Establishment of a new experimental model for extramammary Paget's disease） 主査：教授　木下　一郎
	水口 賢史（みずぐち よしふみ）	悪性心室性不整脈による院外心停止を伴う急性心筋梗塞患者の来院時臨床所見と院内死亡率に関する研究 （A study of clinical findings at presentation and in-hospital mortality in patients with acute myocardial infarction with out-of-hospital cardiac arrest due to malignant ventricular arrhythmias） 主査：准教授　中丸　裕爾
	村田 智己（むらた ともき）	他家iPS細胞由来組織移植を想定したドナー血液細胞を用いた免疫制御法の開発に関する研究 （Development of methods for immune regulation using donor hematopoietic cells for allogeneic induced pluripotent stem cell-based transplantation） 主査：教授　橋野　聡
	本居 昂（もとい こう）	左室グローバルストレインの後負荷依存性変動：ハンドグリップ負荷心エコー法を用いた検討 （Afterload-dependent variability of the left ventricular global longitudinal strain: handgrip stress echocardiographic study） 主査：教授　藤村　幹
	山崎 博之（やまざき ひろゆき）	婦人科悪性腫瘍における既知のバイオマーカーの新たな臨床的意義に関する研究 （A study of clinical significance of known biomarkers in the diagnosis and treatment of gynecological malignancies） 主査：教授　篠原　信雄
	山田 修平（やまだ しゅうへい）	シスプラチン耐性膀胱がんにおけるClaspinの発現とその免疫応答性に関する研究 （Studies on expression of Claspin and its immunoreactivity in cisplatin-resistant urothelial carcinoma） 主査：准教授　北村　秀光
	山本 拓（やまもと たく）	眼内血管新生性疾患の病態形成における候補分子の探索 （Exploration of the candidate molecules for the pathogenesis of ocular neovascular diseases） 主査：教授　渡邉　雅彦
	山本 励志（やまもと れいじ）	中枢神経と関節における慢性炎症モデルの増悪因子の解明 （Investigation for factors that accelerate inflammation in chronic inflammation model of central niveous system and joints） 主査：教授　氏家　英之
	楊 子健（ヨウ シケン）	Studies on the drug resistance mechanisms in hepatocellular carcinoma （肝細胞癌の薬剤耐性機構の解析） 主査：准教授　七戸　俊明
	横田 隼一（よこた しゅんいち）	股関節疾患の病態と治療に関する研究 （Studies on mechanism and treatment of hip joint diseases） 主査：教授　村上　正晃
	吉村 大（よしむら まさる）	関節リウマチ患者の合併症評価ならびに病態解明に関する研究 （Research on evaluation of complications and elucidation of pathophysiology in patients with rheumatoid arthritis） 主査：教授　福原　崇介
	葭本 倫大（よしもと のりひろ）	17型コラーゲン特異的CD4陽性T細胞クローンはTh2サイトカインの産生を介して水疱性類天疱瘡を誘発する （Type XVII collagen-specific CD4$^+$ T cell clones induce bullous pemphigoid in mice by producing Th2 cytokines） 主査：教授　石田　晋

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（医学）	上村　志臣（うえむら　しおん）	食道癌患者の術前骨格筋量および栄養状態が術後短期・長期成績に与える影響に関する研究 （Studies on the association of the preoperative muscle mass and nutritional status with short- and long-term outcomes after esophagectomy for esophageal cancer） 主査：教授　本間　明宏
	下條　暁司（しもじょう　あつし）	新規漢字単語の学習による脳活動の変化 （Changes in brain activity by learning new kanji words） 主査：教授　田中　真樹
	村瀬　亮太（むらせ　りょうた）	ラット心臓全虚血モデルにおけるERK1/2活性化を介したクロロキンの心保護効果 （Cardioprotective effects of chloroquine pretreatment on ischemic reperfusion injury through the activation of ERK1/2 in isolated rat hearts） 主査：教授　安斉　俊久
	森本　浩史（もりもと　ひろふみ）	肺癌におけるbiglycanの発現解析とバイオマーカーとしての可能性についての研究 （Studies on biglycan as a possible marker for lung cancer） 主査：教授　園下　将大
博士（歯学）	澤口　萌（さわぐち　めぐみ）	歯科診療時における重症心身障害者の精神的ストレスの評価方法の検討―心拍変動解析と皮膚電気活動を用いて― 主査：教授　八若　保孝
	蘇　韶懿（ソ　ショウイ）	Effects of area postrema lesions and bilateral subdiaphragmatic afferent vagotomy on emetine-induced conditioned taste avoidance in rats （ラットにおけるエメチン誘発条件付け味覚忌避に対する最後野破壊および横隔膜下両側迷走神経求心路切除の効果） 主査：教授　舩橋　誠
	髙橋　静香（たかはし　しずか）	Incremental Lines in Human Cellular Cementum: a Histological Study （ヒト有細胞セメント質の成長線の組織学的研究） 主査：教授　山本　恒之
	石丸　智也（いしまる　ともや）	日中覚醒時咬筋活動の実態解明 主査：教授　山口　泰彦
	菊池　媛美（きくち　えみ）	味覚嫌悪学習の想起に関与する中枢神経機序の解明 主査：教授　舩橋　誠
	大坪　周平（おおつぼ　しゅうへい）	モンモリロナイトおよびナノポーラスシリカを用いた抗菌性を有する常温重合レジン材料の開発 主査：教授　佐藤　嘉晃
	木村　徳子（きむら　あつこ）	AI駆動型形態計測法の確立と骨粗鬆症モデルラットを用いた病態薬理学的手法による歯槽骨骨小腔微細構造の動的特異性に関する研究 主査：教授　飯村　忠浩
	工藤　円（くどう　つぶら）	マイクロナノパターンの表面形状がヒト歯根膜線維芽細胞に与える影響について 主査：教授　横山　敦郎
	Alruwaili（アルルワイリ） Mohammed（モハメッド） Katib R（カティブ アール）	The osteogenic potential of Phosphorylated-Pullulan/β-TCP composite scaffolds and low doses of Bone Morphogenetic Protein-2 (BMP-2) in subcutaneous tissues （リン酸化プルラン/β-TCP複合スキャホールドと低用量骨形成タンパク質2による骨形成） 主査：教授　菅谷　勉
	平良　賢周（たいら　けんしゅう）	Association between denture use and food form in older adults requiring long-term care:A multicenter cross-sectional study （要介護高齢者における義歯使用と食形態の関連について：多施設横断研究） 主査：教授　山崎　裕
	百海　啓（どうかい　けい）	接着治療を行った垂直破折歯根の予後因子に関する後ろ向き観察研究 主査：教授　菅谷　勉
	馬場　陽久（ばば　はるひさ）	Oral frailty and carriage of oral *Candida* in community-dwelling older adults（Check-up to discover Health with Energy for senior Residents in Iwamizawa; CHEER Iwamizawa） （地域在住高齢者におけるオーラルフレイルと口腔カンジダの保菌状態との関連） 主査：教授　山崎　裕

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（歯学）	松下（まつした） 祐也（ゆうや）	一般歯科医院に定期的に通院している高齢患者の口腔機能の低下とBody Mass Indexおよびサルコペニアの関係 主査：教授　山崎　裕
	宮本（みやもと） 幸奈（ゆきな）	Histochemical assessment of osteoclast-like giant cells in *Rankl*$^{-/-}$ mice （*Rankl*遺伝子欠損マウスにおける破骨細胞様細胞の組織学的検索） 主査：教授　網塚　憲生
	宗山（むねやま） 昂史（たかふみ）	Increased numbers but reduced resorption activity of osteoclasts in toll-like receptor 2 (TLR2) deficient mice （Toll様受容体2（TLR2）欠損マウスの破骨細胞数増加と骨吸収能低下について） 主査：教授　網塚　憲生
	王（ワン） 林紅（リンホン）	Effect of an extra hydrophobic resin layer on the bond strength of universal adhesives （ユニバーサルアドヒーシブの接着に対する疎水性ボンディング材の影響） 主査：教授　佐野　英彦
	武田（たけだ） 雅彩（まあや）	Observational Variables for Considering a Switch from a Normal to a Dysphagia Diet among Older Adults Requiring Long-Term Care：Cross-sectional study～A One-Year Multicenter Longitudinal Study （長期介護を必要とする高齢者の常食から嚥下食への切り替えを検討するための観察変数:横断研究～1年間の多施設縦断研究） 主査：教授　山崎　裕
	庵（いおり） 敬（たかし）	骨形成促進薬テリパラチドによる骨粗鬆症性神経炎症抑制機構に関する薬理学的研究 主査：教授　飯村　忠浩
	大内（おおうち） 千里（ちさと）	Comparison of the virulence of *Candida albicans* strains on oral candidiasis and non-oral candidiasis. （口腔カンジダ症由来株と非口腔カンジダ症由来株の*Candida albicans* の病原性の比較） 主査：教授　長谷部　晃
	木村（きむら） 拓（たく）	新規口腔がん治療法開発のための個体解析基盤の創出 主査：教授　北川　善政
	Nguyen（グェン） Thi（ティ） Trang（チャン）	3D Quantification of the condylar and glenoid fossa remodeling following orthognathic surgery on class II and class III skeletal malocclusions （II級・III級骨格性不正咬合に対する顎矯正手術後の下顎頭および下顎窩リモデリングの3次元的解析） 主査：教授　大廣　洋一
	竹川（たけかわ） 英輝（ひでき）	Biglycanを標的とした化合物による腫瘍血管新生抑制効果の検討 主査：教授　樋田　京子
	武田（たけだ） 遼（りょう）	Antiviral effect of cetylpyridinium chloride in mouthwash on SARS-CoV-2 （洗口液中成分セチルピリジニウム塩化物水和物のSARS-CoV-2に対する抗ウイルス効果） 主査：教授　樋田　京子
	千田（ちだ） 健博（たけひろ）	近赤外線光免疫療法による腫瘍微小環境変化の病理組織学的解析 主査：教授　樋田　京子
	羽藤（はとう） 裕之（ひろゆき）	ヒト口腔粘膜上皮細胞のIL-1 α および β -defensin 1の産生に対する半夏瀉心湯とデキサメタゾンの作用比較 主査：教授　北川　善政
	Yu（ユ） Li（リ）	The oral bacterium *Streptococcus mutans* promotes tumor metastasis by inducing vascular inflammation （口腔細菌, *Streptococcus mutans*は、血管炎症を誘発し転移を促進する） 主査：教授　樋田　京子
博士（獣医学）	河野（カワノ） 光平（コウヘイ）	Mechanisms causing reduced fertility under heat stress in relation to uterine environment and oocyte developmental competence in dairy cows （乳牛の子宮環境と卵母細胞の発生能に関連した暑熱ストレス下での受胎性低下のメカニズム） 主査：教授　坪田　敏男

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（獣医学）	サンダー ウー Thandar Oo	Steroid Profiling for assesing Adrenal Hepatic Syndrome in Canine Hepatocellular Carcinoma （ステロイドプロファイリングによる肝細胞癌発症メカニズムとしての副腎－肝臓連関の探索） 主査：教授　池中　良徳
	チュルンバートル CHULUUNBAATAR ソロモン Tsolmon	Morphological studies on lymphoid tissues locally formed in the ductal organs of animals （動物の管状臓器に局所的に形成されるリンパ組織の形態学的研究） 主査：教授　滝口　満喜
	チン ギョクキ 陳　玉琪	Morphogenesis of ellipsoidal camelid red cells: a possible role of a hyperstable membrane skeleton due to a novel alternatively spliced 4.1R （ラクダ科動物の赤血球が楕円形である仕組み：特徴的構造をもつ4.1Rによる膜骨格の超安定化作用） 主査：教授　木村　和弘
	なんば たかし 難波　貴志	Studies on the epithelial injury-related molecules inducing the urinary system disorders in animals （動物の泌尿器異常を導く上皮障害関連分子の研究） 主査：教授　木村　享史
	パウデル PAUDEL ラジャン プラサド Rajan Prasad	Sloth bears (***Melursus ursinus***) in Nepal: Ecology, genetic diversity, and human- sloth bear conflict （ネパールにおけるナマケグマ（***Melursus ursinus***）：生態、遺伝的多様性および人との軋轢） 主査：教授　石塚　真由美
	フルカワ エリ 古川　瑛理	Studies on energy metabolism–related lipid compositions in blood and oocytes at different lactation stages in dairy cows （乳牛の異なる泌乳時期における血液と卵子のエネルギー代謝関連脂質の組成に関する研究） 主査：教授　坪田　敏男
	モトヒラ コウダイ 本平　航大	Evaluation and method establishment of biological and ecological effects of DDT: Imaging technique and molecular analysis approach （殺虫剤DDTの生体・生態影響評価とその手法の確立：イメージングと分子解析アプローチ） 主査：教授　坪田　敏男
博士（医理工学）	かさまつ こうき 笠松　幸生	スキャニング陽子線治療における線量付与の空間・時間的構造が生物学的効果に及ぼす影響に関する研究 （Studies on impact of spatial and temporal structure of the dose delivery on biological effectiveness in scanning proton therapy） 主査：准教授　髙尾　聖心
博士（獣医学）	いたくら ゆかり 板倉　友香里	Studies on mechanisms of rabies virus infection, prolifiration, and pathogenesis （狂犬病ウイルスの感染増殖および病態発現機構に関する研究） 主査：教授　苅和　宏明
博士（感染症学）	ウィ ゾーシン 危　卓行	Pathological studies on hantavirus using hemorrhagic fever with renal syndrome mouse model and development of a novel serodiagnosis method for shrew-borne hantaviruses （腎症候性出血熱マウスモデルを用いたハンタウイルスの病原性解析及び新規トガリネズミ由来ハンタウイルスの血清診断法開発） 主査：教授　苅和　宏明
博士（獣医学）	もぎ（かさじま） のどか 茂木（笠島）和	Site-directed mutagenesis study of host and viral proteins: single nucleotide variants of human TBK1 and functional sites of ebolavirus VP35 （部位特異的変異導入法による宿主およびウイルス蛋白質の研究：ヒトTBK1の一塩基多型とエボラウイルスVP35の機能的アミノ酸残基） 主査：教授　澤　洋文
	きしもと まい 岸本　麻衣	Studies on zoonotic viruses isolated from wild animals with an optimal isolation method for protease-dependent viruses （プロテアーゼ依存性ウイルスの高効率分離法により分離された野生動物由来ウイルスに関する研究） 主査：教授　迫田　義博

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（獣医学）	田畑（たばた） 耕史郎（こうしろう）	Studies on the mosquito-borne flavivirus serology useful for diagnosis of flavivirus infections （蚊媒介性フラビウイルス感染症の新規血清診断法の確立に向けた研究） 主査：特任教授　大橋　和彦
博士（感染症学）	服部（はっとり） 貴成（たかなり）	Studies on genetic polymorphisms of host cell receptors affecting viral entry into cells （ウイルスの細胞侵入に影響を及ぼす宿主細胞受容体の遺伝子多型に関する研究） 主査：教授　澤　洋文
	PIANTHAM（ピアンサム） Chayada（チャヤダ）	Population genetics of variants in infectious diseases and its application to the prediction of variant replacement （感染症における変異株の集団遺伝学と変異株の置き換わりの予測） 主査：教授　高田　礼人
	RETENG（レテン） Patrick（パトリック）	Development of Highly Efficient Methods for Comprehensive Pathogen Detection Using Next Generation Sequencing （次世代シーケンサーを用いた高効率網羅的病原体検出法の開発） 主査：教授　澤　洋文
博士（文学）	肖（ショウ） 潔（ケツ）	現代日本語交感発話の社会語用論的研究 主査：教授　加藤　重広
	熊（ユウ） 征（セイ）	陶淵明の隠逸詩とその思想 主査：教授　近藤　浩之
博士（人間科学）	鎌谷（かまたに） 美希（みき）	衛生マスクによる顔の部分遮蔽における魅力増幅・減少効果 主査：教授　河原　純一郎
	中田（なかた） 星矢（せいや）	累積的文化進化のメカニズム：階層性、語順規則、技術に注目して 主査：教授　竹澤　正哲
博士（文学）	西本（にしもと） 優樹（ゆうき）	企業倫理における企業の道徳的責任の問題－推論主義に基づく企業の道徳的行為者性の検討－ 主査：教授　藏田　伸雄
	末森（すえもり） 晴賀（はるか）	17世紀オスマン朝-ヴェネツィア間の「海賊」をめぐる海上秩序 主査：教授　佐藤　健太郎
	覚知（かくち） 頌春（のぶはる）	低地ドイツ語の動詞統語論 主査：特任教授　清水　誠
	小楠（おぐす） なつき	社会環境の変動に対する心の可塑性とその限界：関係流動性の変化に伴う心理的順応の検討 主査：教授　結城　雅樹
	佐藤（さとう） 千歳（ちとせ）	中国社会における宗教の役割と政教関係－政権移行期にみるキリスト教非公認教会の生存戦略と社会参加－ 主査：教授　櫻井　義秀
博士（情報科学）	中島（なかじま） 直道（なおみち）	特異モデルに対する双対平坦構造とその応用 主査：教授　沼田　泰英
	水丸（みずまる） 和樹（かずき）	ロボットからの社会的なはたらきかけのデザインに関する研究 主査：教授　小野　哲雄
博士（工学）	欧（オウ） 亜非（アヒ）	Automatic Joint Space Narrowing Quantification in Radiographic Images with Sub-pixel Accuracy for Rheumatoid Arthritis （関節リウマチ診断に向けたX線画像における関節狭小化の自動定量化） 主査：教授　富田　章久
	金澤（かなざわ） 悠里（ゆうり）	グローバルシャッタCMOSテラヘルツイメージセンサとその画素ばらつき補正技術 主査：教授　葛西　誠也
	金子（かねこ） 竜也（たつや）	エッジAIハードウェアに向けたニューラルネットワークの新学習アルゴリズムとその低電力アーキテクチャに関する研究 主査：教授　池辺　将之
	蒲生（がもう） 浩憲（ひろのり）	Growth of III-V Compound Semiconductor Nanowire Heterostructures and Their Electron Device Applications （III-V族化合物半導体ナノワイヤヘテロ構造の成長と電子デバイス応用） 主査：教授　本久　順一
	癙師（ぎゃくし） 貴幸（たかゆき）	ランダムに分布した金属ナノドットアレイにおける単電子伝導特性に関する研究 主査：教授　葛西　誠也

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者 氏名	博士論文名
博士（情報科学）	チョウ ソウロ 張　霜露	Study on Spatial Mode Conversion Technique for Space Division Multiplexing （空間分割多重通信における空間モード変換技術に関する研究） 主査：教授　富田　章久
博士（工学）	チン ビンジェ 陳　斌杰	Study on the Epitaxial Strain Effects on Optoelectronic Properties of Functional Oxides with Rutile Structure （ルチル構造を有する機能性酸化物の光電子特性に及ぼすエピタキシャル歪の効果に関する研究） 主査：教授　本久　順一
	パク ソヨン 朴　昭暎	Temperature Dependence of Electric Field Control of Electron Spin Polarization in Semiconductor Quantum Well-Dot Coupled Nanostructures （半導体量子井戸-ドット結合ナノ構造における電子スピン偏極の電界制御の温度依存性） 主査：准教授　樋浦　諭志
博士（情報科学）	ウェン ハン 文　晗	Gold-coated silver nanowire-based Tip-Enhanced Raman Spectroscopy probe for long life and high enhancement （金コート銀ナノワイヤを用いた探針増強ラマン散乱プローブの開発） 主査：教授　雲林院　宏
	やまと なおき 大和　尚記	Applications of deep learning to accelerate label-free nerve imaging rate using coherent Raman rigid endoscopy -- Construction of transfer learning method with fluorescence images and evaluation method for maximum imaging rate -- （非線形ラマン硬性内視鏡による無標識神経イメージング高速化への深層学習の応用―蛍光画像を用いた転移学習法と最大撮像速度の評価法の構築―） 主査：教授　橋本　守
	いとう やすお 伊藤　泰雄	広視野プロジェクター型電子ホログラフィ表示装置の開発およびスペックル低減に関する研究 主査：教授　坂本　雄児
	うどう あつひと 有働　篤人	Automatic generation of stage data for music games with an appropriate difficulty control method （音楽ゲームのステージデータの自動生成における適切な難易度調整手法について） 主査：教授　土橋　宜典
博士（工学）	かない たくや 金井　拓也	広域光アクセスシステムにおけるデジタルコヒーレント伝送技術に関する研究 主査：客員教授　吉田　智暁
博士（情報科学）	まつなが ゆうと 松永　悠斗	音響機器の特性を利用した情報ハイディングの研究 主査：教授　土橋　宜典
博士（工学）	アッサーリム ホセイン ナセル ALSALEM Hussain Nasser S	Development of Microwave Non-destructive Inspection Equipment for Outer Wall Tiles （外壁タイル用マイクロ波非破壊検査装置の開発） 主査：教授　田中　孝之
博士（情報科学）	ゴン ユンイ 龔　云羿	A study on design optimization and anomaly detection of wireless power transfer （非接触給電の最適設計および異常検出に関する研究） 主査：教授　五十嵐　一
	シュ ヤジュン 許　雅俊	A study on stacked object recognition and stacking operation planning combining 3D point cloud representation, deep-learning and physics engine （3次元点群表現,深層学習および物理エンジンを用いた積み上げ物体認識と積み上げ作業計画に関する研究） 主査：教授　金井　理
博士（工学）	なかざわ りゅうしょう 仲沢　龍翔	回転子に界磁巻線を備えた逆突極性を有するハイブリッド界磁モータの研究 主査：特任教授　小笠原　悟司
	パク ジソン 朴　志成	Study on Hybrid-Type PM Motor for BEV/HEV Traction to Reduce PM Cost （PMコスト低減のためのBEV/HEV牽引用ハイブリッドタイプPMモーターに関する研究） 主査：特任教授　小笠原　悟司
博士（情報科学）	まるお あきと 丸尾　昭人	イジングマシンを用いた最適設計およびロバスト最適化に関する研究 主査：教授　五十嵐　一

博士の専攻 分野の名称	博士の学位を授与された者 氏　名	博　士　論　文　名
博士（情報科学）	吉田（よしだ）　道拓（みちひろ）	アクティブコルセットの可変締付力制御の開発に向けた骨盤締付力による腰部負担軽減機序の解明 主査：教授　田中　孝之
博士（工学）	SRIKRAM（スリクラム） Pitchayapatchaya（ピッチャヤパッチャヤ）	Ring-VCO-based ADC design for low-energy smart sensing devices （低電力スマートセンシングデバイスに向けたリングVCO型A/D変換器の設計手法） 主査：教授　浅井　哲也
博士（情報科学）	王（オウ）　亜光（アコウ）	Plasmon Enhanced Photocurrent Generation and Water Splitting on Photoanode of Gold Nanoparticles Loaded Gallium Oxide （金ナノ粒子を担持した酸化ガリウム光アノードによるプラズモン増強光電流発生と水分解） 主査：特任教授　三澤　弘明
	宮﨑（みやざき）　善行（よしゆき）	音響的類似単語の雑音ロバストフレーズ音声認識に関する研究 主査：准教授　筒井　弘

論文博士

博士の専攻 分野の名称	博士の学位を授与された者 氏　名	博　士　論　文　名
博士（環境科学）	明本（あけもと）　靖広（やすひろ）	Study on the interaction of cesium with clay minerals aiming electrokinetic remediation of contaminated soil （汚染土壌の動電的修復を指向したセシウムと粘土鉱物との相互作用に関する研究） 主査：教授　野呂　真一郎
	Kamal（カマル）, Shuvro（シュヴロ） Sajjad（サジャッド）	Establishment of artificial symbiosis between *Lemna minor* and the diazotrophic bacterium *Azotobacter vinelandii*, and elucidation of the mechanisms of bacterial plant growth promotion （ウキクサ *Lemna minor* と窒素固定細菌 *Azotobacter vinelandii* の人工共生系構築と植物成長促進機構の解析） 主査：教授　森川　正章
	岸（きし）　和樹（かずき）	ラベル化可能な蛍光ソルバトクロミック色素の合成と化学センサーポリマーの開発 （Synthesis of labelable fluorescent solvatochromic dyes and development of chemical sensor polymers） 主査：准教授　山田　幸司
博士（理学）	齊藤（さいとう）　義人（よしと）	Study on hydrogen ion migration of $BaTiO_3$-based dielectric materials in multi-layer ceramic capacitors （積層セラミックコンデンサにおける$BaTiO_3$系誘電体材料の水素イオンマイグレーションに関する研究） 主査：教授　坏本　尚義
博士（農学）	日向（ひなた）　貴久（たかひさ）	農業経営における環境負荷を考慮した意思決定の支援に関する研究 主査：教授　東山　寛
博士（薬科学）	橋場（はしば）　一毅（かずき）	イオン性脂質の分岐足場は脂質ナノ粒子の安定性と *in vivo* mRNA送達効率を高める 主査：教授　原島　秀吉
博士（医学）	大原（おおはら）　克仁（よしひと）	胃癌におけるKaryopherin α 2およびkaryopherin β 1発現と予後に関する研究 （Studies on expression of karyopherin alfa 2 and karyopherin beta 1 as the prognostic factors in gastric cancer patients） 主査：教授　武冨　紹信
博士（感染症学）	登（のぼり）　治謙（はるあき）	Studies on development of novel therapeutic agent against RNA virus infection （RNAウイルス感染症に対する新規治療薬の開発に関する研究） 主査：教授　澤　洋文

▌表敬訪問

海外

年月日	来　訪　者	来 訪 目 的
5.3.3	駐日インド大使館　Sibi George 特命全権大使	今後の交流に関する懇談
5.3.7	スイス連邦工科大学チューリッヒ校（スイス連邦）　Eric J. Windhab 教授	今後の交流に関する懇談
5.3.10	駐日コソボ共和国大使館　Sabri Kiçmari 特命全権大使	今後の交流に関する懇談
5.3.29	ウズベキスタン共和国スルハンダリヤ州　Anvar Oripov 第一副知事	今後の交流に関する懇談

Sibi George 駐日インド共和国特命全権大使（中央）

Eric J. Windhab スイス連邦工科大学チューリッヒ校教授（中央左）

Sabri Kiçmari 駐日コソボ共和国特命全権大使（中央）

Anvar Oripov ウズベキスタン共和国スルハンダリヤ州第一副知事（中央）

（国際部国際連携課）

▌人事

令和5年3月15日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【部長】		
総務企画部長（兼）国際部長	奥　山　敏　之	総務企画部長
（転出）		
文部科学省大臣官房付（命）大臣官房教育改革調整官	本　村　宏　明	国際部長

令和5年3月31日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【教授】		
（定年）	権　左　武　志	大学院法学研究科教授
	川　合　祐　史	大学院水産科学研究院教授
	木　村　暢　夫	大学院水産科学研究院教授
	大　原　　雅	大学院地球環境科学研究院教授
	石　川　剛　郎	大学院理学研究院教授
	岩　崎　克　則	大学院理学研究院教授
	栄　　伸一郎	大学院理学研究院教授
	谷　岡　勇市郎	大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター教授
	野　嵜　龍　介	大学院理学研究院教授
	水　波　　誠	大学院理学研究院教授
	周　東　　智	大学院薬学研究院教授
	石　黒　宗　秀	大学院農学研究院教授
	柿　澤　宏　昭	大学院農学研究院教授
	近　藤　則　夫	大学院農学研究院教授
	澁　谷　正　人	大学院農学研究院教授
	綾　部　時　芳	大学院先端生命科学研究院教授
	松　本　伊智朗	大学院教育学研究院教授
	宮　崎　隆　志	大学院教育学研究院教授
	河　合　　靖	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
	鈴　木　志のぶ	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
	鈴　木　純　一	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
	折　原　　宏	大学院工学研究院教授
	蟹　江　俊　仁	大学院工学研究院教授
	清　水　康　行	大学院工学研究院教授
	中　村　　孝	大学院工学研究院教授
	林　　基　哉	大学院工学研究院教授
	松　井　佳　彦	大学院工学研究院教授
	渡　辺　雅　彦	大学院医学研究院教授
	井　上　　哲	大学院歯学研究院教授
	佐　野　英　彦	大学院歯学研究院教授
	菅　谷　　勉	大学院歯学研究院教授
	小　杉　　康	大学院文学研究院教授
	佐々木　　啓	大学院文学研究院教授
	佐々木　　亨	大学院文学研究院教授
	砂　田　　徹	大学院文学研究院教授
	冨　田　康　之	大学院文学研究院教授
	小　野　哲　雄	大学院情報科学研究院教授
	金　井　　理	大学院情報科学研究院教授
	坂　本　雄　児	大学院情報科学研究院教授
	中　村　貴　義	電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター教授

	西　井　準　治	電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター教授
	田　畑　伸一郎	スラブ・ユーラシア研究センター教授
	大　宮　　学	情報基盤センター教授
	冨士田　裕　子	北方生物圏フィールド科学センター教授
	山　羽　悦　郎	北方生物圏フィールド科学センター教授
	橋　野　　聡	保健センター教授
（任期満了）	JUNG GEUNHWA	大学院農学研究院教授
	宇　都　正太郎	北極域研究センター教授
（辞職）	山　下　竜　一	大学院法学研究科教授
	木　村　真　明	大学院理学研究院教授
	澤　　和　弘	大学院工学研究院教授
	大　野　由　夏	大学院経済学研究院教授
	松　尾　　睦	大学院経済学研究院教授
	柴　田　英　昭	北方生物圏フィールド科学センター教授
	川野辺　　創	国際連携機構教授
【准教授】		
（定年）	西　村　欣　也	大学院水産科学研究院准教授
	松　本　健　司	大学院理学研究院准教授
	土　永　　孝	大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
	大　井　俊　彦	大学院工学研究院准教授
	兼　平　　孝	大学院歯学研究院准教授
	吉　原　俊　博	大学院歯学研究院准教授
	有　田　正　志	大学院情報科学研究院准教授
	工　藤　信　樹	大学院情報科学研究院准教授
	長　　和　俊	北海道大学病院准教授
【講師】		
（定年）	田　中　　亨	北海道大学病院講師
	山　本　隆　昭	北海道大学病院講師
【助教】		
（定年）	立　澤　史　郎	大学院文学研究院助教
	曽　根　敏　雄	低温科学研究所助教
【部長】		
（定年）	金　川　眞　行	理学・生命科学事務部長（兼）理学・生命科学事務部事務課長
	佐々木　博　之	工学系事務部長
	髙　野　雅　広	事務局付（旭川工業高等専門学校から出向復帰）
【課長・事務長】		
（定年）	西　田　政　利	学務部学務企画課長
	宮　家　康　浩	学務部学生支援課長
	菅　田　勝　美	学務部キャリア支援課長
	紙　丸　雅　実	工学系事務部情報科学研究院事務課長
	井　上　義　彦	北海道大学病院医療支援課長
	伊　藤　美　香	低温科学研究所事務長
	中　田　雄　二	北キャンパス合同事務部事務長
【課長補佐】		
（定年）	三　浦　征　則	理学・生命科学事務部事務課課長補佐
【係長】		
（定年）	佐々木　重　晴	施設部施設整備課付係長
	藤　井　恵美子	薬学事務部係長
	小笠原　さおり	医学系事務部保健科学研究院事務課係長
	柏　原　麻　美	文学事務部係長
	中　村　澄　人	北海道大学病院医療支援課係長

	岡　内　　鋭	北方生物圏フィールド科学センター係長
【主任】 （定年）	阿　部　裕　幸	低温科学研究所主任
【技術職員等】 （定年）	船　木　典　子	北海道大学病院看護部副看護部長
	大　平　昌　子	北海道大学病院看護部副看護師長
	吉　田　言　子	北海道大学病院看護部副看護師長
	永　井　英　子	北海道大学病院看護部副看護師長
	千　葉　信　枝	北海道大学病院看護部看護師
	女　池　昭　子	北海道大学病院看護部助産師
	藤　田　勝　久	北海道大学病院医療技術部長
	児矢野　英　典	技術支援本部付（大学院医学研究院）技術専門員
	藤　戸　永　志	北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員

令和5年4月1日付発令

新　職　名（発令事項）	氏　　名	旧　職　名（現職名）
【役員】 理事（副学長） （期間：令和6年3月31日まで）	髙　橋　　彩	高等教育推進機構教授
【副理事】 副理事 （期間：令和6年3月31日まで）	長谷川　康　弘	産学・地域協働推進機構・特任教授
副理事 （期間：令和6年3月31日まで）	阿　部　　弘	大学力強化推進本部・特任教授
副理事 （期間：令和6年3月31日まで）	土　屋　　努	産学・地域協働推進機構・特任教授
【総長補佐】 （期間：令和6年3月31日まで）	谷　本　晃　久	国際連携研究教育局・大学院文学研究院教授
（期間：令和6年3月31日まで）	門　出　健　次	大学院先端生命科学研究院教授
（期間：令和6年3月31日まで）	江　本　理　恵	高等教育推進機構教授
【経営協議会委員】 （期間：令和7年3月31日まで）	河　合　江理子	京都大学名誉教授
【部局長・施設長等】 大学院理学院長 （期間：令和7年3月31日まで）	永　井　隆　哉	大学院理学研究院教授
大学院理学研究院長 理学部長 （期間：令和7年3月31日まで）	網　塚　　浩	大学院理学研究院教授
大学院薬学研究院長 薬学部長 （期間：令和7年3月31日まで）	木　原　章　雄	大学院薬学研究院教授
大学院農学研究院長 大学院農学院長 農学部長 （期間：令和7年3月31日まで）	野　口　　伸	大学院農学研究院教授
大学院先端生命科学研究院長 （期間：令和7年3月31日まで）	芳　賀　　永	大学院先端生命科学研究院教授
大学院生命科学院長 （期間：令和7年3月31日まで）	佐　藤　美　洋	大学院薬学研究院教授

大学院メディア・コミュニケーション研究院長	奥　　聡	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
大学院国際広報メディア・観光学院長 （期間：令和7年3月31日まで）		
大学院保健科学研究院長	矢野理香	大学院保健科学研究院教授
大学院保健科学院長 （期間：令和7年3月31日まで）		
大学院工学院長	泉　　典洋	大学院工学研究院教授
（期間：令和7年3月31日まで）		
大学院工学研究院長	幅崎浩樹	大学院工学研究院教授
工学部長 （期間：令和7年3月31日まで）		
大学院医学研究院長	畠山鎮次	大学院医学研究院教授
大学院医学院長 医学部長 （期間：令和7年3月31日まで）		
大学院獣医学院長	石塚真由美	大学院獣医学研究院教授
（期間：令和7年3月31日まで）		
大学院獣医学研究院長	滝口満喜	大学院獣医学研究院教授
獣医学部長 （期間：令和7年3月31日まで）		
大学院医理工学院長	久下裕司	アイソトープ総合センター教授
（期間：令和7年3月31日まで）		
大学院国際感染症学院長	堀内基広	大学院獣医学研究院教授
（期間：令和7年3月31日まで）		
大学院国際食資源学院長	曾根輝雄	大学院農学研究院教授
（期間：令和7年3月31日まで）		
大学院公共政策学連携研究部長	空井　　護	大学院公共政策学連携研究部教授
大学院公共政策学教育部長 （期間：令和7年3月31日まで）		
電子科学研究所長	居城邦治	電子科学研究所教授
（期間：令和7年3月31日まで）		
人獣共通感染症国際共同研究所長	高田礼人	人獣共通感染症国際共同研究所教授
（期間：令和7年3月31日まで）		
情報基盤センター長	棟朝雅晴	情報基盤センター教授
（期間：令和7年3月31日まで）		
アイソトープ総合センター長	工藤與亮	大学院医学研究院教授
（期間：令和6年7月31日まで）		
観光学高等研究センター長	山村高淑	国際連携研究教育局・観光学高等研究センター教授
（期間：令和7年3月31日まで）		
北極域研究センター長	深町　　康	北極域研究センター教授
（期間：令和7年3月31日まで）		
広域複合災害研究センター長	山田　　孝	大学院農学研究院教授
（期間：令和6年3月31日まで）		
人間知・脳・ＡＩ研究教育センター長	田口　　茂	大学院文学研究院教授
（期間：令和7年3月31日まで）		
外国語教育センター長	濵井祐三子	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
（期間：令和7年3月31日まで）		
数理・データサイエンス教育研究センター長	大鐘武雄	大学院情報科学研究院教授
（期間：令和7年3月31日まで）		
総合博物館長	坪田敏男	大学院獣医学研究院教授
（期間：令和7年3月31日まで）		
保健センター長	朝倉　　聡	保健センター教授
（期間：令和7年3月31日まで）		

埋蔵文化財調査センター長 （期間：令和7年3月31日まで）	高　瀬　克　範	大学院文学研究院教授
情報環境推進本部長 （期間：令和6年3月31日まで）	行　松　泰　弘	理事
総合IR本部長 （期間：令和6年3月31日まで）	長谷山　美　紀	副学長
国際連携機構長 （期間：令和6年3月31日まで）	髙　橋　　彩	理事（副学長）
質保証推進本部長 （期間：令和6年3月31日まで）	山　本　文　彦	理事（副学長）
広報・社会連携本部長 （期間：令和6年3月31日まで）	行　松　泰　弘	理事
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター長 （期間：令和7年3月31日まで）	桑　原　朝　子	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
大学院理学研究院附属原子核反応データベース研究開発センター長 （期間：令和7年3月31日まで）	野　村　昂　亮	大学院理学研究院准教授
大学院先端生命科学研究院附属次世代物質生命科学研究センター長 （期間：令和7年3月31日まで）	門　出　健　次	大学院先端生命科学研究院教授
大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター長 （期間：令和6年3月31日まで）	松　田　康　子	大学院教育学研究院教授
大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター長 （期間：令和7年3月31日まで）	渡　辺　精　一	大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター教授
大学院医学研究院附属動物実験施設長 （期間：令和7年3月31日まで）	大　場　雄　介	大学院医学研究院教授
大学院獣医学研究院附属動物病院長 （期間：令和7年3月31日まで）	滝　口　満　喜	大学院獣医学研究院教授
大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター長 （期間：令和7年3月31日まで）	宇　野　二　朗	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授
水産学部附属練習船うしお丸船長 （期間：令和7年3月31日まで）	坂　岡　桂一郎	水産学部附属練習船うしお丸准教授
電子科学研究所附属社会創造数学研究センター長 （期間：令和7年3月31日まで）	長　山　雅　晴	電子科学研究所附属社会創造数学研究センター教授
【副研究科長・副研究院長等】		
大学院理学研究院副研究院長 （期間：令和7年3月31日まで）	久　保　英　夫	大学院理学研究院教授
大学院理学研究院副研究院長 （期間：令和7年3月31日まで）	村　越　　敬	大学院理学研究院教授
大学院薬学研究院副研究院長 （期間：令和7年3月31日まで）	市　川　　聡	大学院薬学研究院教授
大学院農学研究院副研究院長 （期間：令和7年3月31日まで）	石　塚　　敏	大学院農学研究院教授
大学院農学研究院副研究院長 （期間：令和7年3月31日まで）	久　保　友　彦	大学院農学研究院教授
大学院先端生命科学研究院副研究院長 （期間：令和7年3月31日まで）	門　出　健　次	大学院先端生命科学研究院教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院副研究院長 （期間：令和7年3月31日まで）	濵　井　祐三子	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
大学院保健科学研究院副研究院長 （期間：令和7年3月31日まで）	石　津　明　洋	大学院保健科学研究院教授
大学院工学研究院副研究院長 （期間：令和7年3月31日まで）	伊　藤　真由美	大学院工学研究院教授
大学院工学研究院副研究院長 （期間：令和7年3月31日まで）	佐　藤　太　裕	大学院工学研究院教授

大学院工学研究院副研究院長 （期間：令和7年3月31日まで）	林　　重　成	大学院工学研究院教授
大学院医学研究院副研究院長 （期間：令和7年3月31日まで）	田　中　伸　哉	創成研究機構化学反応創成研究拠点・大学院医学研究院教授
大学院医学研究院副研究院長 （期間：令和7年3月31日まで）	本　間　明　宏	大学院医学研究院教授
大学院獣医学研究院副研究院長 （期間：令和7年3月31日まで）	迫　田　義　博	大学院獣医学研究院教授
電子科学研究所副所長 （期間：令和7年3月31日まで）	太　田　裕　道	電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター教授
人獣共通感染症国際共同研究所副所長 （期間：令和7年3月31日まで）	東　　秀　明	人獣共通感染症国際共同研究所教授
【教育研究評議会評議員】		
（期間：令和7年3月31日まで）	村　越　　敬	大学院理学研究院教授
（期間：令和7年3月31日まで）	市　川　　聡	大学院薬学研究院教授
（期間：令和7年3月31日まで）	久　保　友　彦	大学院農学研究院教授
（期間：令和7年3月31日まで）	林　　重　成	大学院工学研究院教授
（期間：令和7年3月31日まで）	田　中　伸　哉	創成研究機構化学反応創成研究拠点・大学院医学研究院教授
（期間：令和7年3月31日まで）	迫　田　義　博	大学院獣医学研究院教授
【教授】		
大学院法学研究科教授	尾　崎　一　郎	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授	桑　原　朝　子	大学院法学研究科教授
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授	鈴　木　　敦	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター准教授
大学院水産科学研究院教授	大　木　淳　之	大学院水産科学研究院准教授
大学院水産科学研究院教授	安　間　洋　樹	大学院水産科学研究院准教授
大学院地球環境科学研究院教授	内　海　俊　介	北方生物圏フィールド科学センター准教授
大学院理学研究院教授	中　野　亮　平	（採用）
大学院理学研究院教授	眞　崎　　聡	大阪大学准教授
大学院理学研究院教授	山　田　敏　弘	（採用）
大学院薬学研究院教授	ALDRICH COURTNEY CORTEZ	国際連携研究教育局教授
大学院薬学研究院教授	山　田　勇　磨	大学院薬学研究院准教授
大学院薬学研究院教授	ROWLANDJONES SARAH LOUISE	国際連携研究教育局教授
大学院農学研究院教授	庄　子　　康	大学院農学研究院准教授
大学院農学研究院教授	濱　本　昌一郎	東京大学准教授
大学院先端生命科学研究院教授	中　村　公　則	大学院先端生命科学研究院准教授
大学院教育学研究院教授	辻　　智　子	大学院教育学研究院准教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院教授	神　山　裕　之	（採用）
大学院工学研究院教授	青　木　芳　尚	大学院工学研究院准教授
創成研究機構化学反応創成研究拠点・大学院工学研究院教授	猪　熊　泰　英	創成研究機構化学反応創成研究拠点・大学院工学研究院准教授
大学院工学研究院教授	岸　　邦　宏	大学院公共政策学連携研究部教授
大学院工学研究院教授	平　野　陽　子	（採用） （(株)ドット・コーポレーションを本籍機関としてクロスアポイントメント適用）
大学院工学研究院教授	松　下　　拓	大学院工学研究院准教授
大学院工学研究院教授	渡　部　要　一	大学院公共政策学連携研究部教授
大学院経済学研究院教授	春日部　光　紀	大学院経済学研究院准教授
大学院歯学研究院教授	岩　崎　正　則	（採用）
大学院歯学研究院教授	友　清　　淳	九州大学講師
大学院歯学研究院教授	宮　治　裕　史	北海道大学病院講師
大学院文学研究院教授	浅　沼　敬　子	大学院文学研究院准教授
大学院文学研究院教授	川　口　暁　弘	大学院文学研究院准教授
大学院文学研究院教授	田　村　容　子	大学院文学研究院准教授
大学院文学研究院教授	林　寺　正　俊	大学院文学研究院准教授
大学院情報科学研究院教授	竹　井　邦　晴	（採用）

大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授	宇野二朗	大学院公共政策学連携研究部教授
大学院公共政策学連携研究部教授	西村　聡	大学院工学研究院教授
大学院公共政策学連携研究部教授	松本高志	大学院工学研究院教授
電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター教授	太田裕道	電子科学研究所教授
電子科学研究所教授	田中嘉人	東京大学助教
電子科学研究所教授	長島一樹	東京大学准教授
電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター教授	松尾保孝	電子科学研究所教授
触媒科学研究所教授	髙草木達	触媒科学研究所准教授
情報基盤センター教授	重田勝介	情報基盤センター准教授
保健センター教授	朝倉　聡	大学院医学研究院准教授
創成研究機構化学反応創成研究拠点教授	美多　剛	（採用）
創成研究機構ワクチン研究開発拠点教授	澤　洋文	人獣共通感染症国際共同研究所教授
高等教育推進機構教授	江本理恵	高等教育推進機構准教授
国際連携機構教授	三代川典史	（採用）
大学院教育推進機構教授	宮本　淳	（採用）
広報・社会連携本部教授	南波直樹	国際連携機構学術主任専門職
（転出）		
京都大学教授	松永茂樹	国際連携研究教育局・大学院薬学研究院教授
文部科学省	藤原志保	大学院工学研究院教授
一橋大学教授	今井　晋	大学院公共政策学連携研究部教授

【部長・次長】		
企画調整役（兼）監事支援室長	桃山光樹	総務企画部人事課厚生労務室長
国際部長	秦　絵里	文部科学省大臣官房国際課専門官（国際連合大学サステイナビリティ高等研究所大学院プログラム事務局長）
理学・生命科学事務部長（兼）理学・生命科学事務部事務課長	岩佐俊明	北方生物圏フィールド科学センター事務長
工学系事務部長	佐々木好美	研究推進部研究支援課化学反応創成研究拠点事務室長
北海道大学病院事務部長	長川武司	浜松医科大学事務局次長
財務部長（兼）財務部主計課長	加賀谷次朗	財務部長
総務企画部長	奥山敏之	総務企画部長（兼）国際部長
（出向）		
旭川工業高等専門学校事務部長	佐々木　尊	文学事務部事務長
函館工業高等専門学校事務部長	花畠　純	経済学事務部事務長
（転出）		
佐賀大学総務部長	粒來英雄	総務企画部次長（兼）人事課長
北海道国立大学機構事務局次長（兼）施設企画課長	成田芳道	施設部環境配慮促進課長
（兼）帯広畜産大学事務部管理課施設管理室長		
浜松医科大学事務局次長	西村敏信	北海道大学病院事務部次長

【課長・事務長・室長】		
総務企画部人事課長	玉城　直	国立科学博物館経営管理部総務課長
総務企画部人事課厚生労務室長	藤瀬智雄	監査室室長補佐（兼）監事支援室室長補佐
財務部調達課長	馬場勝浩	メディア・観光学事務部事務長
学務部学務企画課長	的野裕司	学務部教育推進課長
学務部教育推進課長	土本光一	工学系事務部教務課長
学務部キャリア支援課長	西村直樹	理学・生命科学事務部事務課課長補佐
研究推進部研究振興企画課研究公正推進室長	山岡寧子	日本学術振興会国際統括本部国際事業部研究協力第一課専門員
研究推進部研究支援課化学反応創成研究拠点事務室長	菅原育哉	財務部調達課長
施設部施設企画課長	青山寛之	文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部計画課整備計画室整備計画第一係長
施設部環境配慮促進課長	空橋博幸	北海道教育大学財務部施設課長
監査室長	吉田　茂	監査室長（兼）監事支援室長
附属図書館利用支援課長	横井有紀	奈良国立大学機構情報課長（兼）奈良女子大学学術情報課長
工学系事務部教務課長	鈴木百江	工学系事務部教務課課長補佐
文学事務部事務長	泉澤成実	学務部入試課課長補佐
低温科学研究所事務長	清水智之	総務企画部総務課課長補佐

北方生物圏フィールド科学センター事務長	舘　山　雅　樹	施設部施設企画課課長補佐
北キャンパス合同事務部事務長	小田切　和　博	財務部経理課課長補佐
（出向復帰）		
学務部学生支援課長	八　戸　勇　人	函館工業高等専門学校総務課長
メディア・観光学事務部事務長	勘　原　和　彦	北海道国立大学機構小樽商科大学事務部学生支援課長
工学系事務部情報科学研究院事務課長	佐　藤　規　久	苫小牧工業高等専門学校総務課長
経済学事務部事務長	土　橋　祐　美	北海道教育大学総務企画部総務課長
北海道大学病院医療支援課長	久　米　繁　輝	北海道教育大学総務企画部人事課長
（出向）		
北海道教育大学総務企画部総務課長	大　峡　賢　也	総務企画部人事課課長補佐
旭川医科大学研究支援課長	金　森　淳　二	財務部資産運用管理課課長補佐
室蘭工業大学経理課長	岩　部　　順	医学系事務部会計課課長補佐
（転出）		
大学改革支援・学位授与機構基金事業部助成課長	宮　倉　尚　之	財務部主計課長
日本学術振興会経営企画部企画調整官（兼）学術情報分析センター事務長	阿　部　成　剛	研究推進部研究振興企画課研究公正推進室長
文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部施設助成課専門官	佐々木　匡　史	施設部施設企画課長
東海国立大学機構岐阜大学教学事務部門学術情報課長	米　谷　昌　代	附属図書館利用支援課長
（兼）東海国立大学機構情報管理課主幹		
北海道国立大学機構北見工業大学事務部情報図書課長	中　村　　陽	附属図書館管理課課長補佐
北海道教育大学財務部施設課長	石　原　貴　文	施設部施設整備課課長補佐
放送大学学園情報部図書情報課長	磯　本　善　男	総務企画部人事課係長（千葉大学から出向復帰）
釧路工業高等専門学校学生課長	吉　田　哲　也	学務部学生支援課係長

新任役員紹介

令和5年4月1日現在

理事・副学長に

髙橋（たかはし）　彩（あや）　氏

髙橋　彩教授は、令和5年4月1日付で理事・副学長に発令されました。

任期は、令和6年3月31日までです。

担　当

国際統括（国際戦略、戦略的パートナーシップ、国際競争力強化、国際大学連携、国際交流、国際教育等）

兼務する職

国際連携機構長

略　歴

平成 4年 3月　国士舘大学政経学部卒業
平成 6年11月　MA in Women's History（ロンドン大学）
平成11年 9月　Ph.D（ロンドン大学）
平成12年 4月　いわき明星大学人文学部専任講師
平成15年 3月　北海道大学留学生センター助教授
平成22年 7月　北海道大学国際本部留学生センター准教授
平成26年 4月　佐賀大学国際交流推進センター教授
平成27年 4月　北海道大学国際本部留学生センター教授
平成28年 1月～令和 4年 3月　北海道大学総長補佐
平成28年 3月　北海道大学国際本部グローバル教育推進センター教授
平成28年10月　北海道大学国際連携機構国際教育研究センター教授
平成30年 8月　北海道大学高等教育推進機構教授
平成30年 8月　北海道大学高等教育推進機構副機構長
令和 3年 3月　北海道大学国際連携機構副機構長
令和 4年 4月　北海道大学副理事
令和 5年 4月　北海道大学理事・副学長

役員等（再任）紹介

※令和5年4月1日に設置または改組した運営組織における就任状況を記載しています。

令和5年4月1日付

質保証推進本部長に
山本（やまもと）　文彦（ふみひこ）　氏

山本文彦氏は、令和5年4月1日付で質保証推進本部長に就任されました。

任期は令和6年3月31日までです。

総合IR本部長に
長谷山（はせやま）　美紀（みき）　氏

長谷山美紀教授は、令和5年4月1日付で総合IR本部長に就任されました。

任期は令和6年3月31日までです。

情報環境推進本部長、広報・社会連携本部長に
行松（ゆきまつ）　泰弘（やすひろ）　氏

行松泰弘氏は、令和5年4月1日付で情報環境推進本部長、広報・社会連携本部長に就任されました。

任期は令和6年3月31日までです。

新任部局長等紹介

令和5年4月1日付

農学研究院長・農学院長・農学部長に

野口（のぐち）　伸（のぼる）　教授

令和5年3月31日限りで西邑隆徳農学研究院長・農学院長・農学部長が任期満了となり、その後任として野口　伸教授が発令されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日　昭和36年7月17日
昭和60年 3月　北海道大学農学部卒業
昭和62年 3月　北海道大学大学院農学研究科修士課程修了
平成 2年 3月　北海道大学大学院農学研究科博士課程修了
平成 2年 3月　農学博士（北海道大学）
平成 2年 4月　北海道大学農学部助手
平成 9年 4月　北海道大学農学部助教授
平成11年 4月　北海道大学大学院農学研究科助教授
平成16年 4月　北海道大学大学院農学研究科教授
平成18年 4月　北海道大学大学院農学研究院教授
平成29年 4月～令和 5年 3月　北海道大学大学院農学研究院副研究院長・大学院農学院副学院長・農学部副学部長
平成31年 4月～令和 5年 3月　北海道大学教育研究評議会評議員

先端生命科学研究院長に

芳賀（はが）　永（ひさし）　教授

令和5年3月31日限りで門出健次先端生命科学研究院長が任期満了となり、その後任として芳賀　永教授が発令されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日　昭和42年1月14日
平成元年 3月　北海道大学理学部卒業
平成元年 4月　民間（株式会社ほくさん）
平成 7年 3月　北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了
平成 7年 3月　博士（理学）（北海道大学）
平成 7年 6月　アメリカ合衆国マサチューセッツ工科大学博士研究員
平成 9年 3月　北海道大学大学院理学研究科助手
平成14年11月　北海道大学大学院理学研究科助教授
平成18年 4月　北海道大学大学院理学研究院助教授
平成19年 4月　北海道大学大学院理学研究院准教授
平成22年 4月　北海道大学大学院先端生命科学研究院准教授
平成25年 5月　北海道大学大学院先端生命科学研究院教授
平成31年 4月　北海道大学大学院生命科学院副学院長

メディア・コミュニケーション研究院長、国際広報メディア・観光学院長に

奥（おく）　聡（さとし）　教授

令和5年3月31日限りで河合　靖大学院メディア・コミュニケーション研究院長、大学院国際広報メディア・観光学院長が任期満了となり、その後任として奥　聡教授が発令されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日　昭和36年8月29日
昭和60年 3月　北海道大学文学部卒業
昭和63年 3月　北海道大学大学院文学研究科修士課程修了
平成 2年 3月　北海道大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学
平成 2年 4月～平成 8年 8月　北海道大学文学部助手
平成 8年 8月～平成 9年 8月　コネチカット大学日本語講師
平成10年 8月　コネチカット大学大学院言語学部博士課程修了、Ph.D（言語学）
平成10年 9月　北海道大学言語文化部助教授
平成19年 4月　北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
平成27年 4月　北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
令和 3年 4月　北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院副研究院長
令和 3年 4月　外国語教育センター長
令和 5年 4月　北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院研究院長

保健科学研究院長・保健科学院長に

矢野（やの）　理香（りか）　教授

不在となっていた大学院保健科学研究院長・大学院保健科学院長に矢野理香教授が発令されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日　昭和40年7月13日
昭和62年 3月　北海道大学医療技術短期大学部卒業
平成 2年 3月　聖路加看護大学看護学部卒業
平成 4年 3月　聖路加看護大学大学院看護学研究科博士前期課程修了
平成22年 9月　看護学博士（聖路加看護大学）

平成 5年 4月　北海道大学医療技術短期大学部助手
平成 9年 4月　天使女子短期大学衛生看護学科講師
平成12年 4月　天使大学看護栄養学部講師
平成16年 4月　北海道大学医学部講師
平成20年 4月　北海道大学大学院保健科学研究院講師
平成23年 4月　北海道大学大学院保健科学研究院准教授
平成30年 4月　北海道大学大学院保健科学研究院教授
令和元年 4月～令和 2年 3月　北海道大学人材育成本部女性研究者支援室長
令和 2年 4月～令和 4年 3月　北海道大学ダイバーシティ研究環境推進室長
令和 3年 7月～令和 4年 3月　北海道大学総長補佐
令和 4年 4月　北海道大学副理事
令和 4年 4月　北海道大学大学院保健科学研究院副研究院長
令和 4年 4月　北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部副本部長

工学研究院長・工学部長に

幅﨑　浩樹（はばざき　ひろき）　教授

令和5年3月31日限りで瀬戸口剛工学研究院長・工学部長が任期満了となり、その後任として幅﨑　浩樹教授が発令されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和38年7月28日
昭和61年 3月	東北大学理学部卒業
昭和63年 3月	東北大学大学院理学研究科修士課程修了
昭和63年 4月	東北大学金属材料研究所助手
平成 3年 6月	理学博士（東北大学）
平成12年 4月	北海道大学大学院工学研究科助教授
平成18年 4月	北海道大学大学院工学研究科教授
平成22年 4月	北海道大学大学院工学研究院教授
平成28年 4月 平成31年 3月	北海道大学大学院工学研究院附属エネルギー・マテリアル融合領域研究センター長
平成31年 4月 令和 5年 3月	北海道大学教育研究評議会評議員
平成31年 4月 令和 5年 3月	北海道大学大学院工学研究院副研究院長
令和 5年 4月	北海道大学大学院工学研究院長・工学部長

工学院長に

泉　　典洋（いずみ　のりひろ）　教授

令和5年3月31日限りで瀬戸口剛工学院長が任期満了となり、その後任として泉　典洋教授が発令されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和38年5月22日
昭和62年 3月	東京大学工学部卒業
平成 5年 9月	米国ミネソタ大学大学院博士課程修了
平成 5年 9月	Ph.D.（ミネソタ大学）
平成 5年10月	東京工業大学工学部助手
平成 8年 4月	東北大学工学部助教授
平成 9年 4月	東北大学工学研究科助教授
平成11年 8月 平成13年 9月	タイ国アジア工科大学助教授
平成18年 4月	北海道大学大学院工学研究科教授
平成22年 4月	北海道大学大学院工学研究院教授
平成27年 4月	北海道大学大学院公共政策学連携研究部教授
平成29年 4月	北海道大学大学院工学研究院教授
平成31年 4月 令和 5年 3月	北海道大学大学院工学研究院副研究院長
令和 5年 4月	北海道大学大学院工学院長

国際食資源学院長に

曾根　輝雄（そね　てるお）　教授

令和5年3月31日限りで高橋昌志国際食資源学院長が任期満了となり、その後任として曾根輝雄教授が発令されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和44年5月11日
平成 4年 3月	北海道大学農学部卒業
平成 6年 3月	北海道大学大学院農学研究科修士課程修了
平成 9年 3月	北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了
平成 9年 3月	博士（農学）（北海道大学）
平成 9年 5月	ブリティッシュコロンビア大学ポストドクトラルフェロー
平成10年 4月	日本学術振興会特別研究員
平成13年 2月	北海道大学大学院農学研究科助手
平成15年10月	北海道大学大学院農学研究科講師
平成18年 4月	北海道大学大学院農学研究院講師
平成19年 4月	北海道大学大学院農学研究院准教授
平成28年 4月	北海道大学国際連携研究教育局及び大学院農学研究院准教授
平成28年 8月 令和 2年 3月	北海道大学国際連携研究教育局教授
平成28年 8月	北海道大学大学院農学研究院教授
令和 3年 4月 令和 5年 3月	北海道大学大学院国際食資源学院副学院長

人獣共通感染症国際共同研究所長に

髙田　礼人（たかだ　あやと）　教授

令和5年3月31日限りで人獣共通感染症国際共同研究所長が任期満了となり、その後任として髙田礼人教授が発令されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和43年12月16日
平成 5年 3月	北海道大学獣医学部獣医学科卒業
平成 8年 3月	北海道大学大学院獣医学研究科予防治療学専攻博士課程修了
平成 8年 4月 平成 9年 2月	日本学術振興会特別研究員
平成 9年 3月	北海道大学大学院獣医学研究科助手
平成12年10月	東京大学医学研究所助手
平成17年 5月	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター教授
平成18年 3月 平成22年 2月	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター副センター長
平成29年 4月 令和 3年 3月	北海道大学国際感染症学院副学院長
令和 3年 4月	北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所教授

外国語教育センター長に

濱井（はまい）　祐三子（ゆみこ）　教授

令和5年3月31日限りで奥　聡外国語教育センター長が任期満了となり、その後任として濱井祐三子教授が発令されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和45年2月11日
平成 4年 3月	東京大学教養学部卒業
平成 8年 9月	University of Warwick（イギリス連合王国）修士課程修了（MA）
平成 9年 3月	東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了（修士（学術））
平成11年 3月	東京大学大学院総合文化研究科博士課程中退
平成11年 4月	東京大学大学院総合文化研究科助手
平成12年10月	北海道大学言語文化部講師
平成16年 4月	北海道大学言語文化部助教授
平成19年 4月	北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
令和 2年 4月	北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授

数理・データサイエンス教育研究センター長に

大鐘（おおがね）　武雄（たけお）　教授

令和5年3月31日限りで長谷山美紀数理・データサイエンス教育研究センター長が辞任したため、その後任として大鐘武雄教授が発令されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和37年3月2日
昭和59年 3月	北海道大学工学部卒業
昭和61年 3月	北海道大学大学院工研究科修士課程修了
昭和61年 4月	郵政省電波研究所研究員
平成 4年 7月	民間（株式会社ATR光電波通信研究所研究員）
平成 6年12月	博士（工学）（北海道大学）
平成 7年 4月	北海道大学大学院工学研究科助教授
平成16年 4月	北海道大学情報科学研究科助教授
平成19年 4月	北海道大学情報科学研究科准教授
平成27年10月	北海道大学情報科学研究科教授
平成31年 4月	北海道大学情報科学研究院教授
令和 4年 4月	北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター副センター長

総合博物館長に

坪田（つぼた）　敏男（としお）　教授

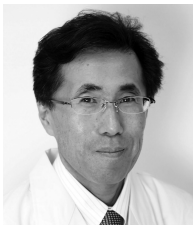
令和5年3月31日限りで小澤丈夫総合博物館長が任期満了となり、その後任として坪田敏男教授が発令されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和36年2月9日
昭和58年 3月	北海道大学獣医学部卒業
昭和63年 3月	北海道大学大学院獣医学研究科博士後期課程修了
昭和63年 3月	獣医学博士（北海道大学）
昭和63年 4月	岐阜大学農学部助手
平成 7年 3月	岐阜大学農学部助教授
平成13年 4月	岐阜大学応用生物科学部教授
平成19年 4月	北海道大学大学院獣医学研究科教授
平成29年 4月	北海道大学大学院獣医学研究院教授
平成29年 4月 令和元年 3月	北海道大学教育研究評議会評議員

保健センター長に



朝倉（あさくら）　聡（さとし）　教授

令和5年3月31日限りで橋野　聡保健センター長が任期満了・退職となり、その後任として朝倉　聡教授が発令されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和41年11月7日
平成 5年 3月	北海道大学医学部卒業
平成15年 9月	博士（医学）（北海道大学）
平成13年 4月	北海道大学大学院医学研究科助手
平成16年 4月	北海道大学保健管理センター講師
平成22年 4月	北海道大学保健センター准教授
平成22年 7月	北海道大学大学院医学研究院准教授
令和 5年 4月	北海道大学大学院医学院教授

埋蔵文化財調査センター長に

高瀬（たかせ）　克範（かつのり）　教授

令和5年3月31日限りで小杉　康埋蔵文化財調査センター長が任期満了となり、その後任として高瀬　克範教授が発令されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

略　歴

生　年　月　日	昭和49年3月16日
平成 8年 3月	北海道大学文学部卒業
平成10年 3月	北海道大学大学院文学研究科修士課程修了
平成13年 3月	北海道大学大学院文学研究科博士課程修了
平成13年 3月	博士（文学）（北海道大学）
平成13年 4月	岩手文化振興事業団 埋蔵文化財センター 調査員
平成14年 4月	東京都立大学 人文学部 助手
平成19年 4月	明治大学 文学部 専任講師
平成21年 4月	明治大学 文学部 准教授
平成23年 4月	北海道大学大学院文学研究科 准教授
令和元年 4月	北海道大学大学院文学研究院 准教授
令和 3年 4月	北海道大学大学院文学研究院 教授

部局長等（再任）紹介

令和5年4月1日付

理学研究院長・理学部長に
網塚（あみづか）　浩（ひろし）　教授

網塚　浩教授は、令和3年4月1日から理学研究院長・理学部長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

薬学研究院長・薬学部長に
木原（きはら）　章雄（あきお）　教授

木原章雄教授は、令和3年4月1日から薬学研究院長・薬学部長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

医学研究院長・医学院長・医学部長に
畠山（はたけやま）　鎮次（しげつぐ）　教授

畠山鎮次教授は、令和3年4月1日から医学研究院長・医学院長・医学部長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

獣医学院長に
石塚（いしづか）　真由美（まゆみ）　教授

石塚真由美教授は、令和3年4月1日から獣医学院長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

国際感染症学院長に
堀内（ほりうち）　基広（もとひろ）　教授

堀内基広教授は、令和3年4月1日から国際感染症学院長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

理学院長に
永井（ながい）　隆哉（たかや）　教授

永井隆哉教授は、令和3年4月1日から理学院長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

生命科学院長に
佐藤（さとう）　美洋（よしひろ）　教授

佐藤美洋教授は、令和3年4月1日から生命科学院長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

獣医学研究院長・獣医学部長に
滝口（たきぐち）　満喜（みつよし）　教授

滝口満喜教授は、令和3年4月1日から獣医学研究院長・獣医学部長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

医理工学院長に
久下（くげ）　裕司（ゆうじ）　教授

久下裕司教授は、令和3年4月1日から医理工学院長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

公共政策学連携研究部長・公共政策学教育部長に
空井（そらい）　護（まもる）　教授

空井　護教授は、令和3年4月1日から公共政策学連携研究部長・公共政策学教育部長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和7年3月31日までです。

電子科学研究所長に
居城（いじろ）　邦治（くにはる）　教授

居城邦治教授は、令和3年4月1日から電子科学研究所長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和7年3月31日までです。

アイソトープ総合センター長に
工藤（くどう）　與亮（こうすけ）　教授

工藤與亮教授は、令和3年4月1日からアイソトープ総合センター長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和6年7月31日までです。

北極域研究センター長に
深町（ふかまち）　康（やすし）　教授

深町　康教授は、令和3年4月1日から北極域研究センター長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和7年3月31日までです。

人間知・脳・AI研究教育センター長に
田口（たぐち）　茂（しげる）　教授

田口　茂教授は、令和3年4月1日から人間知・脳・AI研究教育センター長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和7年3月31日までです。

情報基盤センター長に
棟朝（むねとも）　雅晴（まさはる）　教授

棟朝雅晴教授は、令和3年4月1日から情報基盤センター長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和7年3月31日までです。

観光学高等研究センター長に
山村（やまむら）　高淑（たかよし）　教授

山村高淑教授は、令和3年4月1日から観光学高等研究センター長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和7年3月31日までです。

広域複合災害研究センター長に
山田（やまだ）　孝（たかし）　教授

山田　孝教授は、令和3年4月1日から広域複合災害研究センター長を務め、令和5年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。
任期は、令和7年3月31日までです。

新任部課長等紹介

令和5年4月1日付

企画調整役（兼）監事支援室長に

桃山（ももやま）　光樹（こうき）　氏

昭和38年 6月生
昭和57年 4月　北海道大学
平成14年 4月　帯広畜産大学総務課人事係長
平成16年 4月　帯広畜産大学企画総務部総務課人事係長
平成17年 4月　北海道大学北方生物圏フィールド科学センター専門職員
平成19年 4月　北海道大学総務部人事課係長
平成21年 4月　帯広畜産大学企画総務部総務課課長補佐
平成23年 4月　北海道大学総務企画部人事課課長補佐
平成27年 4月　北海道大学函館キャンパス事務部事務長
平成30年 4月　北海道大学工学系事務部総務課長
令和 3年 4月　北海道大学総務企画部人事課厚生労務室長
令和 5年 4月　北海道大学企画調整役（兼）監事支援室長

国際部長に

秦（はた）　絵里（えり）　氏

平成 5年 4月　日本学術振興会人物交流課
平成 7年 4月　日本学術振興会地域交流課
平成 8年 9月　日本学術振興会庶務課
平成 9年10月　日本学術振興会人物交流課
平成13年 4月　文化庁長官官房国際課国際文化交流室企画係主任
平成14年 4月　文化庁長官官房国際課国際文化交流室外国調査係長
平成15年12月　島根大学研究協力課専門職員
平成16年 4月　島根大学社会・国際連携課専門職員
平成18年 4月　文化庁長官官房国際課国際文化交流室企画係長
平成21年 4月　文部科学省大臣官房国際課専門職
平成21年 8月　英国シェフィールド大学出張
平成23年 8月　（独）大学評価・学位授与機構評価事業部国際課長
平成27年 4月　九州大学国際部国際企画課長
平成29年 4月　文部科学省国際統括官付国際統括官補佐
令和 2年 4月　文部科学省大臣官房国際課課長補佐
令和 3年 4月　文部科学省大臣官房国際課専門官
令和 3年 4月　国際連合大学サステイナビリティ高等研究所大学院プログラム事務局長
令和 5年 4月　北海道大学国際部長

理学・生命科学事務部長に

岩佐（いわさ）　俊明（としあき）　氏

昭和40年 2月 3日生
昭和58年 4月　北海道大学
平成15年 4月　北海道大学経理部第一契約課専門職員
平成16年 4月　北海道大学財務部調達課政府調達掛長
平成19年 4月　北海道大学監査室係長（監査担当）
平成21年 4月　北海道大学財務部主計課係長（総務担当）
平成22年 4月　北海道大学医学系事務部総務課課長補佐
平成24年 4月　北海道大学研究推進部外部資金戦略課課長補佐
平成27年 4月　小樽商科大学企画戦略課課長代理
平成28年 4月　北海道大学研究推進部産学連携課長
平成31年 4月　旭川医科大学総務部研究支援課長
令和 3年 4月　北海道大学北方生物圏フィールド科学センター事務長
令和 5年 4月　北海道大学理学・生命科学事務部長

工学系事務部長に

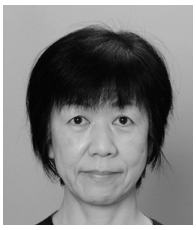
佐々木（ささき）　好美（よしみ）　氏

昭和39年 6月29日生
昭和60年 3月　静修短期大学卒業
昭和60年 4月　北海道大学
平成16年 4月　北海道大学病院医療企画課専門職員
平成17年10月　北海道大学病院医事課歯科保険係長
平成18年 4月　北海道大学病院医事課入院係長
平成19年 4月　北海道大学病院医事課係長
平成20年 4月　北海道大学北キャンパス合同事務部係長
平成23年 7月　北海道大学財務部調達課係長
平成24年 4月　北海道大学研究推進部研究振興企画課専門員
平成26年10月　北海道大学財務部調達課課長補佐
平成29年 4月　北海道大学工学系事務部情報科学研究科事務課長
平成31年 4月　北海道大学財務部経理課長
令和 3年 4月　北海道大学研究推進部研究支援課化学反応創成研究拠点事務室長
令和 5年 4月　北海道大学工学系事務部長

病院事務部長に

長川（ながかわ）　武司（たけし）　氏

平成元年 6月　国立日高少年自然の家事業課
平成 5年 4月　北海道大学水産学部
平成 7年10月　（併）文部省大臣官房文教施設部指導課
平成 8年 4月　文部省大臣官房文教施設部指導課
平成13年 1月　文部科学省大臣官房文教施設部施設企画課
平成13年 4月　文部科学省大臣官房文教施設部施設企画課監理室アクセス対策主任
平成14年 4月　文部科学省大臣官房文教施設部施設企画課監理室アクセス対策係長
平成15年 4月　文部科学省大臣官房文教施設部施設企画課監理係長
平成16年 4月　文部科学省大臣官房文教施設企画部施設企画課契約情報室監理係長
平成17年 4月　文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課予算執行第二係長
平成17年 7月　文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課予算執行第一係長
平成18年 4月　（併）文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課予算執行第二係長
平成19年 4月　文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課予算総括係長（併）予算執行第二係長
平成21年 4月　北海道大学病院経営企画課長
平成25年 4月　文部科学省大臣官房文教施設企画部施設企画課契約情報室工事契約専門官
平成28年 4月　文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課専門官
平成29年10月　文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課課長補佐
平成30年10月　文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部計画課課長補佐
令和 3年 4月　浜松医科大学事務局次長（病院担当）
令和 5年 4月　北海道大学病院事務部長



北海道大学病院医療技術部長に

渡邊（わたなべ）　千秋（ちあき）　氏

昭和40年10月 9日生
昭和62年 3月　北海道大学医療技術短期大学部卒業
昭和62年 4月　財団法人小児愛育協会附属愛育病院
平成 3年 1月　北海道大学医学部附属病院検査部
平成15年10月　北海道大学医学部・歯学部附属病院診療支援部
平成16年 4月　北海道大学病院診療支援部臨床検査技師
平成19年 9月　北海道大学病院診療支援部主任臨床検査技師
平成28年 4月　北海道大学病院医療技術部主任臨床検査技師
令和 3年 6月　北海道大学病院医療技術部臨床検査技師長
令和 5年 4月　北海道大学病院医療技術部長

総務企画部人事課長に

玉城（たましろ）　直（すなお）　氏

昭和55年 5月生
平成17年 8月　琉球大学
平成23年 4月　日本学術振興会
平成25年 4月　文部科学省大臣官房人事課福利厚生室
平成26年 4月　文部科学省大臣官房人事課福利厚生室福祉第一係長
平成27年 6月　文部科学省大臣官房人事課計画調整班評価係長
平成27年 7月　文部科学省大臣官房人事課計画調整班人事企画係長（併）評価係長
平成29年10月　文部科学省大臣官房人事課任用班任用第三係長
令和元年10月　文部科学省大臣官房人事課専門官（併）任用班任用第三係長
令和 3年 4月　国立科学博物館経営管理部総務課長
令和 5年 4月　北海道大学総務企画部人事課長

総務企画部人事課厚生労務室長に

藤瀬（ふじせ）　智雄（ともお）　氏

昭和46年10月 6日生
平成 2年 4月　北海道大学
平成20年 4月　旭川医科大学総務部総務課人事第二係長
平成22年 4月　北海道大学北キャンパス合同事務部係長（総務担当）
平成24年 4月　北海道大学総務企画部人事課厚生労務室係長（労務管理担当）
平成27年 4月　北海道大学総務企画部人事課係長（教員人事担当）
平成28年 4月　北海道大学総務企画部人事課係長（人事総括担当）
平成30年 4月　北海道大学総務企画部人事課課長補佐
令和 3年 4月　北海道大学監査室室長補佐（兼）監事支援室室長補佐
令和 5年 4月　北海道大学総務企画部人事課厚生労務室長

学務部学生支援課長に

八戸（はちのへ）　勇人（たけひと）　氏

昭和44年 1月生
平成 5年 3月　高崎経済大学卒業
平成 5年 4月　北海道大学工学部
平成 7年10月　北海道大学経理部経理課
平成11年10月　北海道大学農学部
平成14年 4月　北海道大学文学部主任
平成16年 4月　室蘭工業大学入試課係長
平成19年 4月　北海道大学学務部教務課係長
平成21年10月　北海道大学メディア・観光学事務室係長
平成25年 4月　北海道大学理学・生命科学事務部事務課係長
平成28年 4月　北海道大学法学研究科・法学部係長
平成31年 4月　北海道大学函館キャンパス事務部事務長補佐
令和 3年 4月　国立高等専門学校機構函館工業高等専門学校総務課長
令和 5年 4月　北海道大学学務部学生支援課長

学務部キャリア支援課長に

西村（にしむら）　直樹（なおき）　氏

昭和44年12月19日生
平成 4年 4月　北海道大学
平成17年 4月　独立行政法人大学評価・学位授与機構評価事業部評価第2課高専評価第2係長
平成18年 4月　独立行政法人大学評価・学位授与機構評価事業部評価第2課高専評価第1係長
平成19年 4月　独立行政法人大学評価・学位授与機構評価事業部評価第1課認証評価第4係長
平成20年 4月　独立行政法人大学評価・学位授与機構評価事業部評価第2課法人評価第2係長
平成21年 4月　独立行政法人大学評価・学位授与機構評価事業部評価第1課認証評価第3係長
平成22年 4月　北海道大学法学研究科・法学部係長
平成25年 4月　北海道大学経済学研究科・経済学部係長
平成29年 4月　北海道大学医学系事務部総務課係長
令和元年 7月　北海道大学医学系事務部総務課課長補佐
令和 4年 4月　北海道大学理学・生命科学事務部事務課課長補佐
令和 5年 4月　北海道大学学務部キャリア支援課長

研究推進部研究振興企画課
研究公正推進室長に

山岡（やまおか）　寧子（なおこ）　氏

昭和52年12月生
平成15年 3月　東京大学大学院総合文化研究科修了
平成15年 4月　日本学術振興会研究事業部研究助成課
平成18年 1月　日本学術振興会国際事業部地域交流課
平成23年 4月　日本学術振興会国際事業部人物交流課係長
平成25年 4月　日本学術振興会国際事業部研究協力第一課係長
平成27年 7月　日本学術振興会研究事業部研究助成第一課係長
平成30年 4月　日本学術振興会国際統括本部国際企画課係長
平成31年 4月　東京海洋大学総務部研究推進課係長
令和 3年 4月　日本学術振興会国際事業部研究協力第一課専門員
令和 5年 4月　研究推進部研究振興企画課研究公正推進室長

施設部施設企画課長に

青山（あおやま）　寛之（ひろゆき）　氏

昭和52年 3月14日生
平成12年 3月　国立鹿児島工業高等専門学校卒業
平成14年10月　鹿児島工業高等専門学校会計課
平成16年 4月　国立高等専門学校機構本部事務局施設課
平成18年 4月　文部科学省大臣官房文教施設企画部参事官付
平成19年 4月　文部科学省大臣官房文教施設企画部文教施設企画課契約情報室
平成21年 4月　文部科学省大臣官房文教施設企画部施設助成課
平成23年 4月　文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室整備推進係長
平成26年 4月　文部科学省大臣官房文教施設企画部施設助成課専門職
平成28年 4月　国立高等専門学校機構本部事務局施設課施設企画係長
平成30年 4月　文部科学省高等教育局私学部私学助成課助成第二係長
令和 3年 4月　文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部計画課整備計画室整備計画第一係長
令和 5年 4月　施設部施設企画課長

施設部環境配慮促進課長に

空橋（そらはし）　博幸（ひろゆき）　氏

昭和43年 7月30日生
平成 4年 4月　北海道工業大学工学部卒業
平成 4年 4月　北海道大学建築課
平成18年 4月　釧路工業高等専門学校会計課施設係長
平成19年 4月　釧路工業高等専門学校総務課施設係長
平成20年 7月　北海道大学施設部施設企画課係長
平成21年 4月　北海道大学病院管理課係長
平成23年 4月　北海道大学施設部施設整備課係長
平成27年 4月　室蘭工業大学施設グループコーディネーター（課長補佐）
平成28年 7月　室蘭工業大学施設課副課長
平成29年 4月　北海道大学施設部施設企画課課長補佐
平成30年 4月　北海道教育大学財務部施設課長
令和 5年 4月　施設部環境配慮促進課長

文学事務部事務長に

泉澤（いずみさわ）　成実（なるみ）　氏

昭和45年10月26日生
平成 5年 3月　北海道大学文学部卒業
平成20年 8月　北海道大学企画部調査分析課係長
平成21年 7月　北海道大学病院総務課係長
平成24年 4月　北海道大学理学・生命科学事務部事務課係長
平成26年 4月　北海道大学総務企画部総務課係長
平成28年 4月　北海道大学施設部施設企画課係長
平成29年 4月　北海道大学国際部国際連携課課長補佐
平成29年10月　北海道大学国際部国際企画課課長補佐（兼）国際連携課課長補佐
平成30年 7月　北海道大学国際部国際連携課課長補佐
令和 2年 4月　北海道大学学務部入試課課長補佐
令和 5年 4月　北海道大学文学部事務部事務長

経済学事務部事務長に

土橋（どばし）　祐美（ゆみ）　氏

昭和63年 9月　北海道大学
平成20年 4月　北海道大学経済学研究科・経済学部係長（庶務担当）
平成22年10月　北海道大学総務部人事課係長（諸手当担当）
平成23年 4月　北海道大学総務企画部人事課係長（給与担当）
平成24年 4月　北海道大学総務企画部人事課係長（人事担当）
平成25年 4月　放送大学北海道学習センター事務長
平成27年 4月　北海道大学総務企画部企画課課長補佐
平成30年 4月　北海道大学総務企画部総務課課長補佐
令和 3年 4月　北海道教育大学総務企画部総務課長
令和 5年 4月　北海道大学経済学事務部事務長

工学系事務部教務課長に

鈴木（すずき）　百江（ももえ）　氏

昭和43年10月生
平成 3年 3月　北海道大学教育学部卒業
平成 4年 1月　北海道大学
平成12年 4月　文部省大臣官房文教施設部札幌工事事務所
平成16年 4月　北海道大学
平成19年10月　北海道大学薬学事務部係長
平成23年 4月　北海道大学医学系事務部総務課係長
平成27年 4月　北海道大学学務部教育推進課課長補佐
平成30年 4月　北海道大学学務部キャリア支援課課長補佐
令和 4年 4月　北海道大学工学系事務部教務課課長補佐
令和 5年 4月　北海道大学工学系事務部教務課長

情報科学研究院事務課長に

佐藤（さとう）　規久（のりひさ）　氏

昭和44年12月生
平成 4年 3月　北海学園大学経済学部卒業
平成 4年 4月　北海道大学
平成18年 4月　北海道教育大学事務局財務部経理課専門職
平成21年 4月　北海道大学財務部調達課係長
平成24年 7月　北海道大学病院経営企画課係長
平成27年 7月　北海道大学施設部施設企画課係長
平成28年 4月　北海道大学函館キャンパス事務部事務長補佐
平成31年 4月　北海道大学病院管理課課長補佐
令和 3年 4月　苫小牧工業高等専門学校総務課長
令和 5年 4月　北海道大学工学系事務部情報科学研究院事務課長

北海道大学病院医療支援課長に

久米（くめ）　繁輝（しげき）　氏

昭和45年12月 1日生
平成 5年 3月　北海学園大学法学部卒業
平成 5年 4月　北海道大学工学部教務課
平成 7年 4月　北海道大学農学部附属農場
平成 9年 4月　北海道大学大学院地球環境科学研究科
平成11年10月　北海道大学総務部人事課
平成16年 4月　北海道大学総務部人事課統一試験掛主任
平成18年 4月　小樽商科大学総務課人事係長
平成21年 4月　北海道大学総務部人事課係長
平成23年 4月　北海道大学病院総務課係長
平成26年 4月　北海道大学工学系事務部総務課係長
平成28年 4月　室蘭工業大学総務グループコーディネーター
平成28年 7月　室蘭工業大学経営企画課人事労務室長
平成30年 4月　北海道大学医学系事務部総務課課長補佐
令和 4年 4月　北海道教育大学事務局総務企画部人事課長
令和 5年 4月　北海道大学病院医療支援課長

メディア・観光学事務部事務長に

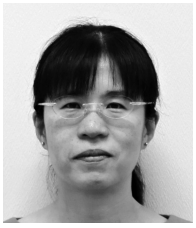
勘原（かんばら）　和彦（かずひこ）　氏

昭和43年 7月生
昭和63年 5月　国立日高少年自然の家
平成 4年10月　北海道大学附属病院医事課
平成18年 4月　帯広畜産大学企画総務部総務課職員厚生係長
平成21年 4月　北海道大学工学系事務部総務課係長
平成24年 4月　北海道大学総務企画部企画課係長
平成26年 4月　北海道大学研究推進部研究振興企画課係長
平成28年 1月　帯広畜産大学経営管理部総務課課長補佐（人事・労務担当）
平成29年 4月　帯広畜産大学総務課課長補佐（人事・労務担当）
平成30年 4月　北海道大学総務企画部総務課安全衛生室室長補佐
令和 3年 4月　小樽商科大学学生支援課長
令和 4年 4月　小樽商科大学事務部学生支援課長（兼）キャリア支援室長
令和 5年 4月　北海道大学メディア・観光学事務部事務長

低温科学研究所事務長に

清水（しみず）　智之（ともゆき）　氏

平成 3年 4月　北海道大学
平成21年 7月　北海道大学企画部調査分析課係長
平成23年 4月　北海道大学総務企画部総務課係長
平成26年 4月　北海道大学総務企画部広報課課長補佐
平成28年10月　北海道大学理学・生命科学事務部事務課課長補佐
令和 3年 4月　北海道大学総務企画部総務課課長補佐
令和 5年 4月　北海道大学低温科学研究所事務長



附属図書館利用支援課長に

横井（よこい）　有紀（ゆき）　氏

昭和44年12月生
平成 4年 4月　北海道大学
平成16年 4月　釧路工業高等専門学校庶務課情報資料係長
平成19年 4月　北海道大学附属図書館情報サービス課係長
平成21年 4月　北海道大学附属図書館利用支援課係長
平成22年 4月　北海道大学附属図書館付係長
平成25年 4月　北海道大学附属図書館利用支援課係長
平成27年 4月　室蘭工業大学図書・学術情報事務室ユニットマネージャー（室長）（兼）総務ユニットリーダー（係長）
平成28年 7月　室蘭工業大学総務広報課図書学術情報室長
平成29年 4月　北海道大学附属図書館利用支援課課長補佐
平成31年 4月　奈良女子大学学術情報課長
令和 4年 4月　奈良国立大学機構情報課長（兼）奈良女子大学学術情報課長
令和 5年 4月　北海道大学附属図書館利用支援課長

北キャンパス合同事務部事務長に

小田切（おだぎり）　和博（かずひろ）　氏

昭和46年 8月生
平成 2年 3月　北見工業大学
平成 5年 4月　北海道大学
平成18年 4月　北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏北事務係長
平成19年 4月　北海道大学北方生物圏フィールド科学センター係長
平成23年 4月　北海道大学監査室係長
平成26年 7月　北海道大学財務部経理課係長
平成29年10月　小樽商科大学企画戦略課課長代理
令和元年 7月　北海道大学医学系事務部会計課課長補佐
令和 4年 7月　北海道大学財務部経理課課長補佐
令和 5年 4月　北海道大学北キャンパス合同事務部事務長

北方生物圏フィールド科学センター事務長に

舘山（たてやま）　雅樹（まさき）　氏

昭和44年12月 2日生
平成 5年 3月　北海道大学文学部卒業
平成 9年 4月　帯広畜産大学会計課
平成11年 6月　北海道大学農学部
平成13年10月　北海道大学経理部管財課
平成16年 4月　北海道大学北方生物圏フィールド科学センター専門職員
平成19年 4月　北海道大学学術国際部研究協力課係長
平成22年 7月　北海道大学医学系事務部会計課係長
平成24年 4月　北海道大学財務部資産運用管理課係長
平成27年 4月　帯広畜産大学経営管理部財務課課長補佐
平成29年 4月　北海道大学財務部調達課課長補佐
令和 3年 4月　北海道大学施設部施設企画課課長補佐
令和 5年 4月　北海道大学北方生物圏フィールド科学センター事務長

新任教授紹介

令和5年4月1日付

法学研究科教授に

鈴木（すずき）　敦（あつし）　氏

附属高等法政教育研究センター・
ガバナンス部門

最終学歴
京都大学大学院法学研究科博士後期課程修了（平成23年3月）
博士（法学）（京都大学）
専門分野
憲法

水産科学研究院教授に

大木（おおき）　淳之（あつし）　氏

海洋生物資源科学部門
海洋環境科学分野

生年月日
昭和48年11月28日
最終学歴
東京大学大学院理学系研究科博士課程修了（平成15年3月）
博士（理学）（東京大学）
専門分野
海洋化学

水産科学研究院教授に

安間（やすま）　洋樹（ひろき）　氏

海洋生物資源科学部門
水産工学分野

生年月日
昭和48年8月11日
最終学歴
東京大学大学院農学生命科学研究科博士後期課程修了（平成17年3月）
博士（農学）（東京大学）
専門分野
水産工学　水産資源学

地球環境科学研究院教授に

内海（うつみ）　俊介（しゅんすけ）　氏

環境生物科学部門
生態遺伝学分野

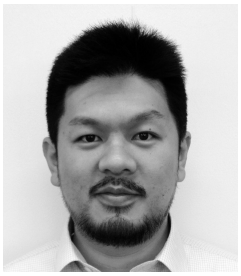
生年月日
昭和54年3月10日
最終学歴
京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了（平成20年3月）
博士（理学）（京都大学）
専門分野
生態学　進化生物学

理学研究院教授に

中野（なかの）　亮平（りょうへい）　氏

生物科学部門形態機能学分野

生年月日
昭和59年11月19日
最終学歴
京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了（平成24年3月）
博士（理学）（京都大学）
専門分野
細胞分子生物学・植物微生物相互作用



理学研究院教授に

眞﨑（まさき）　聡（さとし）　氏

数学部門数学分野

生年月日
昭和57年1月20日
最終学歴
京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了（平成21年3月）
博士（理学）（京都大学）
専門分野
偏微分方程式論

理学研究院教授に

山田（やまだ）　敏弘（としひろ）　氏

地球惑星科学部門
地球惑星システム分野

生年月日
昭和50年9月1日
最終学歴
東京大学大学院理学系研究科博士後期課程修了（平成16年3月）
理学博士（東京大学）
専門分野
進化古植物学

薬学研究院教授に

山田（やまだ）　勇磨（ゆうま）　氏

医療薬学部門医療薬学分野

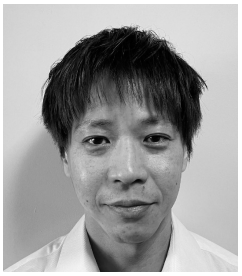
生年月日
昭和54年7月17日
最終学歴
北海道大学大学院薬学研究科博士後期課程退学（平成18年12月）
博士（薬学）（北海道大学）
専門分野
薬剤学、薬物送達学、オルガネラ制御学

農学研究院教授に

庄子（しょうじ）　康（やすし）　氏

基盤研究部門森林科学分野

生年月日
昭和48年
最終学歴
北海道大学大学院農学研究科博士後期課程修了（平成14年3月）
博士（農学）（北海道大学）
専門分野
環境経済学・森林政策学



農学研究院教授に

濱本（はまもと）　昌一郎（しょういちろう）　氏

基盤研究部門生物環境工学分野

生年月日
昭和56年11月16日
最終学歴
埼玉大学大学院理工学研究科博士課程修了（平成22年3月）
博士（工学）（埼玉大学）
専門分野
土壌物理学

理学研究院教授に

中村（なかむら）　公則（きみのり）　氏

生命機能科学研究部門
発生工学分野

生年月日
昭和43年12月8日
最終学歴
北海道医療大学大学院歯学研究科博士課程修了（平成12年3月）
博士（歯学）（北海道医療大学）
専門分野
粘膜免疫学、自然免疫学、抗菌ペプチド、腸内細菌

教育学研究院教授に

辻（つじ）　智子（ともこ）　氏

生年月日
昭和46年2月14日
最終学歴
お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程単位修得退学（平成12年3月）
博士（学術）（お茶の水女子大学）
専門分野
青年期教育論

メディア・コミュニケーション研究院教授に

神山（かみやま）　裕之（ひろゆき）　氏

メディア・コミュニケーション部門
国際広報論分野

最終学歴
早稲田大学大学院文学研究科史学（西洋史）専攻博士前期課程　修了（平成8年3月）
修士（文学）（早稲田大学）
専門分野
観光マーケティング、観光経済、観光統計、
ラグジュアリー・ツーリズム、
ガストロノミー・ツーリズム

工学研究院教授に

青木（あおき）　芳尚（よしたか）　氏

応用化学部門機能材料化学分野

生年月日
昭和48年8月16日
最終学歴
北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成14年3月）
博士（工学）（北海道大学）
専門分野
固体イオニクス、エネルギー材料、
電気化学デバイス

工学研究院教授に

猪熊（いのくま）　泰英（やすひで）　氏

応用化学部門有機工業化学分野

生年月日
昭和56年4月12日
最終学歴
京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了（平成21年3月）
博士（理学）（京都大学）
専門分野
構造有機化学

工学研究院教授に

平野（ひらの）　陽子（ようこ）　氏

建築都市部門空間デザイン分野

生年月日
昭和42年12月21日
最終学歴
東京大学大学院農学生命科学研究科博士後期課程修了（平成15年3月）
博士（農学）（東京大学）
専門分野
建築構法・木質構造

工学研究院教授に

松下（まつした）　拓（たく）　氏

環境工学部門環境工学分野

生年月日
昭和44年8月11日
最終学歴
京都大学大学院工学研究科修士課程修了（平成6年3月）
博士（工学）（京都大学）
専門分野
環境工学、浄水処理

経済学研究院教授に

春日部（かすかべ）　光紀（みつのり）　氏

会計情報部門会計情報分野

生年月日
昭和46年7月27日
最終学歴
北海道大学大学院経済学研究科博士後期課程修了（平成13年3月）
博士（経済学）（北海道大学）
専門分野
会計史

歯学研究院教授に

岩﨑　正則（いわさき　まさのり）　氏

口腔医学部門口腔健康科学分野
予防歯科学教室

生年月日
昭和56年7月10日
最終学歴
新潟大学大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士課程修了（平成22年3月）
博士（歯学）（新潟大学）
専門分野
予防歯科学

歯学研究院教授に

友清　淳（ともきよ　あつし）　氏

口腔医学部門口腔健康科学分野
歯科保存学教室

生年月日
昭和53年7月31日
最終学歴
九州大学大学院歯学府歯学専攻博士課程修了（平成20年3月）
博士（歯学）（九州大学）
専門分野
歯科保存学

歯学研究院教授に

宮治　裕史（みやじ　ひろふみ）　氏

口腔医学部門臨床教育部

生年月日
昭和47年6月10日
最終学歴
北海道大学大学院歯学研究科口腔医学専攻博士課程修了（平成13年３月）
博士（歯学）（北海道大学）
専門分野
歯周病学、歯内治療学、口腔再生医学

文学研究院教授に

浅沼　敬子（あさぬま　けいこ）　氏

人文学専攻文化多様性論分野

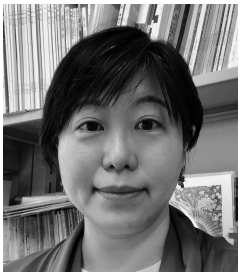
生年月日
昭和50年
最終学歴
早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学（平成15年3月）
修士（文学）（早稲田大学）
専門分野
現代美術史

文学研究院教授に

川口　暁弘（かわぐち　あきひろ）　氏

人文学専攻歴史学分野

最終学歴
学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程単位取得退学（平成12年3月）
修士（史学）（学習院大学）
専門分野
日本近代史



文学研究院教授に

田村　容子（たむら　ようこ）　氏

人文学専攻表現文化論分野

生年月日
昭和50年2月16日
最終学歴
神戸大学大学院文化学研究科博士課程単位取得退学（平成18年3月）
博士（文学）（神戸大学）
専門分野
中国文学・演劇

文学研究院教授に

林寺（はやしでら）　正俊（しょうしゅん）　氏

人文学専攻哲学宗教学分野

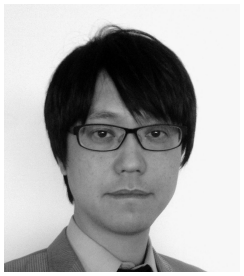
最終学歴
北海道大学大学院文学研究科博士課程修了（平成11年3月）
博士（文学）（北海道大学）
専門分野
仏教学

情報科学研究院教授に

竹井（たけい）　邦晴（くにはる）　氏

情報エレクトロニクス部門
先端エレクトロニクス分野

生年月日
昭和55年8月23日
最終学歴
豊橋技術科学大学大学院工学研究科博士後期課程修了（平成21年3月）
博士（工学）（豊橋技術科学大学）
専門分野
電子デバイス、フレキシブルエレクトロニクス、
ナノ材料デバイス

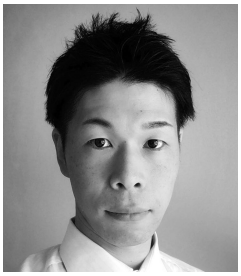


電子科学研究所教授に

田中（たなか）　嘉人（よしと）　氏

光科学研究部門
極微システム光操作研究分野

生年月日
昭和55年10月21日
最終学歴
大阪大学大学院工学研究科精密科学・応用物理学専攻博士後期課程修了（平成20年9月）
博士（工学）（大阪大学）
専門分野
ナノフォトニクス、光工学・光量子科学、
ナノ構造物理、ナノ構造化学



電子科学研究所教授に

長島（ながしま）　一樹（かずき）　氏

物質科学研究部門
インタラクション機能材料研究分野

生年月日
昭和58年4月2日
最終学歴
大阪大学大学院基礎工学研究科（平成22年3月）
博士（工学）（大阪大学）
専門分野
ナノ材料科学、 マイクロ・ナノデバイス

触媒科学研究所教授に

髙草木（たかくさぎ）　達（さとる）　氏

触媒構造研究部門

生年月日
昭和50年8月31日
最終学歴
東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程単位取得退学（平成14年9月）
博士（理学）（東京大学）
専門分野
表面科学、触媒化学、電気化学、放射光科学

情報基盤センター教授に

重田（しげた）　勝介（かつすけ）　氏

メディア教育研究部門

生年月日
昭和53年3月9日
最終学歴
大阪大学大学院人間科学研究科人間科学専攻博士課程修了（平成19年3月）
博士（人間科学）（大阪大学）
専門分野
教育工学、オープンエデュケーション

創成研究機構
化学反応創成研究拠点教授に

美多（みた）　剛（つよし）　氏

研究支援部門人材育成ユニット

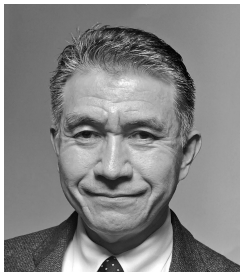
生年月日
昭和51年8月9日
最終学歴
東京大学大学院薬学系研究科博士課程修了（平成19年3月）
博士（薬学）（東京大学）
専門分野
有機合成化学、計算科学

高等教育推進機構教授に

江本（えもと）　理恵（りえ）　氏

高等教育研究部

生年月日
昭和45年5月15日
最終学歴
東京工業大学大学院社会理工学研究科博士後期課程単位修得退学（平成14年3月）
博士（学術）（放送大学）
専門分野
教育工学、大学教育



国際連携機構教授に

三代川（みよかわ）　典史（のりふみ）　氏

生年月日
昭和39年1月3日
最終学歴
ペンシルベニア州立大学教育学研究科博士課程修了（平成21年12月）
博士（学術）（ペンシルベニア州立大学）
専門分野
国際教育、高等教育管理

大学院教育推進機構教授に

宮本（みやもと）　淳（あつし）　氏

教育プログラム推進部

最終学歴
北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程修了（平成11年9月）
博士（地球環境科学）（北海道大学）
専門分野
高等教育、雪氷物理学

広報・社会連携本部教授に

南波（なんば）　直樹（なおき）　氏

広報・コミュニケーション部門

最終学歴
東京大学大学院新領域創成科学研究科修士課程修了（平成14年3月）
修士（生命科学）（東京大学）
専門分野
広報、科学コミュニケーション

▌訃報

名誉教授　松本（まつもと）　脩三（しゅうぞう）　氏

（享年92歳）

名誉教授　松本脩三　先生が、令和5年2月16日にご逝去されました。享年92歳でした。松本先生は、昭和22年に札幌第一中学校を4学年で修了、昭和25年に北海道大学予科を修了し、昭和29年に北海道大学医学部医学科を卒業後、1年間の実地修練を経て昭和30年に医師免許を取得、昭和34年に医学博士を授与されました。学位論文のタイトルは「小児期諸種疾患時における血清蛋白分屑像の臨床的意義」です。

松本先生は昭和34年に北海道大学医学部助手（小児科学）に就任され、昭和41年に米国ハーバード大学医学部小児科に留学、昭和43年に小児科講師、昭和49年に助教授、昭和54年に北海道大学医学部小児科の第4代教授に就任されました。平成6年に北大を退官された後は東日本学園北海道医療大学の教授、平成10年から3年間、日本赤十字社血漿分画センター所長を務めました。松本先生は数多くの学会に所属され、役員として活躍されました。

松本先生は、ハーバード大学留学以来、一貫して原発性免疫不全症の研究をされました。平成3年にはトマムにおいて、原発性免疫不全症WHO国際ワークショップを開催されました。また北海道大学在任中に手がけた重症複合型免疫不全症の一つであるADA欠損症に対する遺伝子治療を、退任後も松本先生ご自身が設立に尽くされた北大遺伝子治療講座において継続されました。これは国内初の遺伝子治療プロジェクトとして国内外の注目を浴びました。

松本先生は、医学部4年生の小児科の第1回系統講義では、小児の発達と栄養について玄妙な奥義を明かされる等、教育面でも大変格調の高い教育をなされました。松本先生には数え切れぬほどの医局員がお世話になり、彼らは内外に羽ばたき、また戻りつをすることにより、北大小児科の確固たる地位が築かれてきました。現在、北大小児科の同門会「扶幼会」は会員約500名を擁し、日本を代表するものです。多士済々の面々が方々で活躍していますが、その多くは松本先生に育てていただいた弟子たちです。

松本先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、多大なる貢献に感謝申し上げ、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（医学院・医学研究院・医学部）

名誉教授　田頭（たがしら）　博昭（ひろあき）　氏

（享年92歳）

名誉教授　田頭博昭　先生が令和5年2月20日にご逝去されました。

田頭先生は昭和8年北海道に生まれ、同33年北海道大学工学部電気工学科を卒業、36年同大学院博士課程電気工学専攻を退学後、北海道大学工学部講師に着任、37年助教授、47年連合王国リバプール大学Ph.D.取得後48年北海道大学教授に任じられ、55年には同大学工学博士の学位も授与されました。平成8年の停年退官後は、北海道工業大学教授を経て、同10年から18年まで室蘭工業大学学長を務められ、20年には瑞宝重光章を授与されました。

学内においては、あまたの学生を指導されるとともに、学生部委員会委員、学生部長事務取扱、評議員、大学院委員会委員、図書館委員会委員など多くの役職を務められ、本学の教育研究環境の充実に貢献されました。

学外においては、日本学術会議計測研究連絡委員会委員、同電気研究連絡委員会委員などを歴任するとともに、国内学界では電気学会（理事・北海道支部長、各種調査専門委員会及び技術委員会の委員長・委員）、照明学会（理事・北海道支部長）、溶接学会（北海道支部長）など、国際学界では電離気体現象国際会議（国際科学委員会委員）、気体放電とその応用国際会議（組織委員会委員）などで活動されました。

学術研究面では、気体放電の基礎たる電子群理論及び放電プラズマ応用と高電圧絶縁技術の研究に従事されました。とりわけ同分野計算機解析の黎明期に新手法をいち早く取り入れた研究を展開され、関連分野の発展に多大な貢献をされました。海外でもハーンマイトナー原子核研究所（西ベルリン）客員研究員、豪州国立大学物理学教室客員研究員、豪州学長評議会客員教授（ニューイングランド大学物理学科）として学術研究に従事されました。

ここに謹んで田頭先生の学術研究発展と人材育成への貢献に感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（工学院・工学研究院・工学部）

名誉教授　佐藤（さとう）　信夫（のぶお）　氏

（享年91歳）

名誉教授　佐藤　信夫　先生が、令和5年2月8日にご逝去されました。

佐藤先生は、昭和6年2月21日北海道に生まれ、昭和29年3月北海道大学文学部文学科を卒業、昭和31年3月同大学院文学研究科修士課程を修了、昭和34年3月同博士課程を所定の単位を取得して退学、同年4月北海道大学文学部助手として採用され、講師、助教授を経て、昭和56年4月言語文化部助教授に配置換えになり、昭和57年7月教授に昇任、平成6年3月に北海道大学を定年退官され、平成6年4月に北海道大学名誉教授になられました。

同人は、35年間にわたり、英語教育及び現代アメリカ作家の研究に尽力され、本学の教育にも多大な貢献をされました。特に総合科目の実践において、同人は傑出した教員であり、同人の開講科目「東西文明の交流」は、単一科目では決して見られない、東西及び古今の音楽、美術、建築、文学等のジャンルを共時的同一平面上で扱う斬新な内容であり、また和楽器からパイプ・オルガンまでを演奏する同人ならではのリアルタイムな教材の提示や、斬新な視点による比較分析等により、学生からも高い評価を得ておりました。

さらに、同人は昭和56年10月に、北海道大学言語文化部がはじめて海外からの「日本文化研修留学生」を受け入れてから、平成3年に留学生センターが設置されるまでの約10年間、「比較日本文化」を担当し続け、延べ100名近い留学生を教えられ、留学生の出身大学からの反応も聞こえるほど好評を博しました。

同人の研究においては、執筆した論文の大半が、ジェイムズ・オーガスティン・アロイジア・ジョイスと、同人がその正統な後継者と目している現代アメリカ作家に関するものでありました。ジョイスは全く新しい文法と全く新しい文学素材で20世紀を拓いた作家と言われており、その作品の多くは、非常に難解なものとされておりますが、そうした難解な作品を平易な形に還元することや、切れ味鋭く分析できたのは、同人の作品に対峙する際の圧倒的な視野の広さ、創造的精神に依るところであると言えます。

学内にあっては、一般教育特別委員会委員、住宅委員会委員、広報ビデオ企画委員会委員のほか、第二次入学試験採点部会部員等を歴任され、本学の管理、運営に貢献されました。

学外にあっては、日本英文学会北海道支部の設立に参画し、協議員、運営委員等として同学会の発展のために尽力されました。

佐藤先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（国際広報メディア・観光学院、大学院メディア・コミュニケーション研究院）

▌資料

令和5年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ

学部・学科等			募集人員	入学者数		一般・フロンティア・国際総合入試（備考）								その他	
						人数		比率		人数		比率		人数	比率
				全体	女子	道内	道外	道内	道外	R4年度卒業	過年度卒業	R4年度卒業	過年度卒業		
総合入試文系			95	99	26	15	83	15.2%	83.8%	83	15	83.8%	15.2%	1	1.0%
	国際総合入試		5	2	2	0	1	0.0%	50.0%	1	0	50.0%	0.0%	1	50.0%
	計		100	101	28	15	84	14.9%	83.2%	84	15	83.2%	14.9%	2	2.0%
総合入試理系	数学重点選抜群		125	129	15	38	91	29.5%	70.5%	100	29	77.5%	22.5%	0	0.0%
	物理重点選抜群		225	226	30	67	158	29.6%	69.9%	158	67	69.9%	29.6%	1	0.4%
	化学重点選抜群		226	233	52	69	164	29.6%	70.4%	165	68	70.8%	29.2%	0	0.0%
	生物重点選抜群		169	173	73	36	137	20.8%	79.2%	126	47	72.8%	27.2%	0	0.0%
	総合科学選抜群		239	241	65	79	162	32.8%	67.2%	195	46	80.9%	19.1%	0	0.0%
	国際総合入試		10	4	2	0	3	0.0%	75.0%	3	0	75.0%	0.0%	1	25.0%
	計		994	1,006	237	289	715	28.7%	71.1%	747	257	74.3%	25.5%	2	0.2%
文学部			155	160	76	52	107	32.5%	66.9%	122	37	76.3%	23.1%	1	0.6%
教育学部			30	32	17	15	17	46.9%	53.1%	23	9	71.9%	28.1%	0	0.0%
法学部			180	185	55	72	110	38.9%	59.5%	130	52	70.3%	28.1%	3	1.6%
経済学部			160	164	36	66	98	40.2%	59.8%	117	47	71.3%	28.7%	0	0.0%
理学部	数学科		23	24	4	11	12	45.8%	50.0%	18	5	75.0%	20.8%	1	4.2%
	物理学科		17	17	1	8	9	47.1%	52.9%	12	5	70.6%	29.4%	0	0.0%
	化学科		31	31	3	8	23	25.8%	74.2%	22	9	71.0%	29.0%	0	0.0%
	生物科学科	生物学専修分野	10	10	3	0	10	0.0%	100.0%	9	1	90.0%	10.0%	0	0.0%
		高分子機能学専修分野	5	5	2	1	3	20.0%	60.0%	1	3	20.0%	60.0%	1	20.0%
		小　計	15	15	5	1	13	6.7%	86.7%	10	4	66.7%	26.7%	1	6.7%
	地球惑星科学科		10	10	1	1	9	10.0%	90.0%	9	1	90.0%	10.0%	0	0.0%
	計		96	97	14	29	66	29.9%	68.0%	71	24	73.2%	24.7%	2	2.1%
医学部	医学科		90	90	28	30	60	33.3%	66.7%	55	35	61.1%	38.9%	0	0.0%
	保健学科	看護学専攻	67	67	61	49	18	73.1%	26.9%	52	15	77.6%	22.4%	0	0.0%
		放射線技術科学専攻	35	35	13	29	6	82.9%	17.1%	27	8	77.1%	22.9%	0	0.0%
		検査技術科学専攻	35	36	26	23	13	63.9%	36.1%	29	7	80.6%	19.4%	0	0.0%
		理学療法学専攻	17	18	6	11	7	61.1%	38.9%	15	3	83.3%	16.7%	0	0.0%
		作業療法学専攻	17	17	10	9	8	52.9%	47.1%	11	6	64.7%	35.3%	0	0.0%
		小　計	171	173	116	121	52	69.9%	30.1%	134	39	77.5%	22.5%	0	0.0%
	計		261	263	144	151	112	57.4%	42.6%	189	74	71.9%	28.1%	0	0.0%
歯学部			43	43	19	16	27	37.2%	62.8%	24	19	55.8%	44.2%	0	0.0%
薬学部			24	29	7	7	22	24.1%	75.9%	20	9	69.0%	31.0%	0	0.0%
工学部	応用理工系学科		48	49	9	13	36	26.5%	73.5%	33	16	67.3%	32.7%	0	0.0%
	情報エレクトロニクス学科		38	40	4	1	35	2.5%	87.5%	21	15	52.5%	37.5%	4	10.0%
	機械知能工学科		30	30	4	5	25	16.7%	83.3%	24	6	80.0%	20.0%	0	0.0%
	環境社会工学科		56	57	8	10	45	17.5%	78.9%	37	18	64.9%	31.6%	2	3.5%
	計		172	176	25	29	141	16.5%	80.1%	115	55	65.3%	31.3%	6	3.4%
農学部			53	53	16	3	49	5.7%	92.5%	32	20	60.4%	37.7%	1	1.9%
獣医学部			35	37	17	1	35	2.7%	94.6%	26	10	70.3%	27.0%	1	2.7%
水産学部			175	184	42	40	143	21.7%	77.7%	121	62	65.8%	33.7%	1	0.5%
現代日本学プログラム			−	16	9	−	−	−	−	−	−	−	−	16	100.0%
合　計			2,478	2,546	742	785	1,726	30.8%	67.8%	1,821	690	71.5%	27.1%	35	1.4%

備考：「一般・フロンティア・国際総合入試」の欄には、高等学校卒業程度認定試験合格者、高等専門学校第3学年修了者、外国の学校等卒業者、帰国子女入試による入学者及び外国人留学生は含まれない。これらの入学者は、「その他」の欄に計上している。

（学務部入試課）

令和5年度入学者の都道府県分布及び地域比率

地域名	入学者	男子	女子	地域%
北海道	785	530	255	30.8%
東北	113	80	33	4.4%
青森県	22	17	5	
岩手県	20	13	7	
宮城県	33	26	7	
秋田県	11	7	4	
山形県	13	8	5	
福島県	14	9	5	
関東	754	548	206	29.6%
茨城県	49	31	18	
栃木県	29	22	7	
群馬県	29	22	7	
埼玉県	108	79	29	
千葉県	76	57	19	
東京都	295	204	91	
神奈川県	168	133	35	
北陸・中部	368	271	97	14.5%
新潟県	37	23	14	
富山県	38	25	13	
石川県	37	29	8	
福井県	9	7	2	
山梨県	13	9	4	
長野県	32	23	9	
岐阜県	16	12	4	
静岡県	62	49	13	
愛知県	124	94	30	

地域名	入学者	男子	女子	地域%
近畿	319	235	84	12.5%
三重県	19	16	3	
滋賀県	15	13	2	
京都府	37	27	10	
大阪府	114	83	31	
兵庫県	82	62	20	
奈良県	39	26	13	
和歌山県	13	8	5	
中国・四国	111	81	30	4.4%
鳥取県	10	8	2	
島根県	8	5	3	
岡山県	17	11	6	
広島県	33	26	7	
山口県	8	5	3	
徳島県	7	3	4	
香川県	11	8	3	
愛媛県	14	13	1	
高知県	3	2	1	
九州・沖縄	61	39	22	2.4%
福岡県	29	17	12	
佐賀県	0	0	0	
長崎県	11	8	3	
熊本県	5	4	1	
大分県	2	2	0	
宮崎県	1	1	0	
鹿児島県	2	2	0	
沖縄県	11	5	6	
その他	35	20	15	1.4%
高等学校卒業程度認定試験等	7	4	3	
帰国子女入試	5	3	2	
外国人留学生等	23	13	10	
入学者数合計	2,546	1,804	742	

※地域別入学者数割合は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100％にならない場合がある。

（学務部入試課）

編 集 メ モ

●3月31日（金）、札幌キャンパスのフロンティア応用科学研究棟内に「セブン-イレブン北海道大学工学部店」がオープンすることに伴い、29日（水）にオープニングセレモニーが開かれ、その後行われたプレオープンは多くの人で賑わいました。札幌キャンパス内のコンビニエンスストアは、セイコーマート北海道大学店に続き2店舗目です（北海道大学病院内を除く）。お近くに行かれた際は、立ち寄ってみてはいかがでしょうか？

オープニングセレモニーの様子

●今年度も「きたキッチン」で北海道大学フェアが開催されました。このフェアは昨年度、きたキッチンオーロラタウン店で開催し好評を博しており、今年度はオーロラタウン店と新千歳空港店の2店舗で開催されました。初日は寳金清博総長と増田隆夫理事・副学長、北海道大学病院企画マネジメント部の西田　睦病院長補佐、北海道大学病院栄養管理部の熊谷聡美副部長も店頭に足を運ばれ、北海道大学ブランド認定商品をPRしました。このフェアでは、北海道大学病院栄養管理部と当別町のレストランAriが開発したお弁当も販売され、初日は午前中で売り切れる程の人気でした。

開催期間：4/5（水）～4/11（火）（オーロラタウン店）
　　4/5（水）～4/18（火）（新千歳空港店）

左から寳金総長、西田病院長補佐、
熊谷栄養管理部副部長、増田理事・副学長

北大おかき、新作のあおさ味

裏表紙メモ

今月のキャンパス風景は、令和5年3月に完成したばかりの北キャンパス総合研究棟8号館です。化学反応創成研究拠点のための新たな研究棟で、創成科学研究棟と渡り廊下で繋がる場所にあります。この施設は、従来と比べて55％の省エネルギー化を実現した建築として設計されています。また、自然採光・通風を積極的に活用でき、環境に配慮された施設です。サステイナブルな新棟がこの春、札幌キャンパスに仲間入りです。

キャンパス風景 37 化学反応創成研究拠点（北21条西10丁目）

北大時報 ④　No.829　　令和5年4月発行

北海道大学社会共創部広報課　〒060－0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL：（011）706－2610 ／ FAX：（011）706－2092 ／ E-mail : kouhou@jimu.hokudai.ac.jp
https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html